慶應義塾大学病院

病院年報

2021年度

Keio University Hospital

Annual Report 2021

慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される

患者さん中心の医療を行います

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します

理念　実施方針

1. 患者さんの立場で

   私たちは、患者さんの立場になって考え、ともに疾病の克服に努めます。

2. 質の高い安全な医療

   私たちは、質の高い安全な医療を持続できるよう努めます。

3. 不断の自己点検

   私たちは、不断の自己点検と評価によって、病院機能の改善に努めます。

4. 独立自尊の医療人

   私たちは、独立した一個人として責任をもって社会的使命を果たします。

5. 総合的なチーム医療

   私たちは、各職種が一体となった総合的なチーム医療を展開します。

6. 新しい医療

   私たちは、基礎と臨床が一体となって、積極的に新しい医療に挑戦します。

7. 倫理と人権

   私たちは、高い倫理性を持って、人権を尊重した医療を推進します。

目　次

I.　概要

病院概要 2
沿革 8
組織の構成 12
教職員数 13
財務 14

II.　病院としての取り組み

2021 年度の主な取り組みと出来事 16

III. 統計・実績

外来患者数（科別） 22
救急外来患者数（科別） 24
入院患者延数（科別） 25
入院患者延数（病棟別）・病床稼働率 26
新入院・退院・死亡・在院患者延数・平均在院日数 26
分娩件数・出生児数・死産児数 27
手術件数（科別） 27
手術全身麻酔件数（科別） 28
薬剤・輸血関連実績 29
画像・検体・生理機能検査実績 29
公開講座・講演会・セミナー 29

IV. 診療科・部門の活動

＜診療科部門＞

呼吸器内科 49
循環器内科 50
消化器内科 51
腎臓・内分泌・代謝内科 53
神経内科 55
血液内科 56
リウマチ・膠原病内科 57
一般・消化器外科 58

呼吸器外科 60
心臓血管外科 61
脳神経外科 61
小児外科 63
整形外科 64
リハビリテーション科 66
形成外科 68
小児科 69
産科 71
婦人科 73
眼科 74
皮膚科 75
泌尿器科 77
耳鼻咽喉科 78
精神・神経科 80
放射線治療科 81
放射線診断科 82
麻酔科 83
救急科 84
歯科・口腔外科 85
総合診療科 85
臨床検査科 86
病理診断科 87

＜診療施設部門＞

予防医療センター 89
血液浄化・透析センター 90
内視鏡センター 90
腫瘍センター 91
輸血・細胞療法センター 92
スポーツ医学総合センター 94
漢方医学センター 95
臨床遺伝学センター 96
免疫統括医療センター 97
緩和ケアセンター 97
手術・血管造影センター 98
集中治療センター 99

救急センター 100
＜診療支援部門＞
看護部 101
薬剤部 102
滅菌管理部 103
食養管理室 104
医用工学室 105
放射線技術室 106
臨床検査技術室 107
＜臨床研究・教育部門＞
臨床研究推進センター 109
臨床研究監理センター 110
卒後臨床研修センター 111
＜管理部門＞
医療安全管理部 113
感染制御部 113
病院情報システム部 115
患者総合相談部 115
医療連携推進部 116
放射線安全管理室 118
医療保険指導部 119
＜病院事務局＞
病院経営企画室 120
医事統括室 120
秘書課 121
総務課 122
人事課 123
管財課 124
経理課 125
キャリア開発室 125
病院学術研究支援課 126

Ⅰ　概 要

■ 病院概要

（2021 年 10 月 1 日現在）

名称	慶應義塾大学病院
所在地	〒160-8582　東京都新宿区信濃町 35 番地 ℡　(03)3353-1211（代表）
病院長	松本 守雄
副病院長	大家 基嗣／佐々木 淳一／志水 秀行／陣崎 雅弘／長谷川 奉延／福永 興壱
病院長補佐	朝倉 啓介／金子 祐子／藤澤 大介
診療科	○内科（呼吸器、循環器、消化器、腎臓・内分泌・代謝、神経、血液、リウマチ・膠原病）○外科（一般・消化器、呼吸器、心臓血管）○脳神経外科 ○小児外科 ○整形外科 ○リハビリテーション科 ○形成外科 ○小児科 ○産科 ○婦人科 ○眼科 ○皮膚科 ○泌尿器科 ○耳鼻咽喉科 ○精神・神経科 ○放射線治療科 ○放射線診断科 ○麻酔科 ○救急科 ○歯科・口腔外科 ○総合診療科 ○臨床検査科 ○病理診断科
許可病床数	946 床（一般病床：930 床／精神病床：16 床）
指定医療（法令等による医療機関の指定）	○特定機能病院 ○臨床研究中核病院 ○がんゲノム医療中核拠点病院　○エイズ診療拠点病院○地域がん診療連携拠点病院（高度型）　○救急病院 ○身体障害者福祉法指定（東京都）　○労災保険指定病院　○東京都災害拠点病院○日本 DMAT 指定医療機関 ○地域周産期母子医療センター ○第二種感染症指定医療機関（結核モデル事業）　○臓器移植登録施設（肝臓・小腸・腎臓）
施設基準	基本診療科
	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・ 歯科外来診療環境体制加算 ・ 特定機能病院入院基本料 ・ 救急医療管理加算 ・ 超急性期脳卒中加算 ・ 診療録管理体制加算 2 ・ 医師事務作業補助体制加算 1 ・ 急性期看護補助体制加算 ・ 看護職員夜間配置加算 ・ 療養環境加算 ・ 無菌治療室管理加算 1・2 ・ 緩和ケア診療加算 ・ 精神科身体合併症管理加算 ・ 精神科リエゾンチーム加算 ・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・ ハイリスク妊娠管理加算 ・ ハイリスク分娩管理加算 ・ 呼吸ケアチーム加算 ・ 病棟薬剤業務実施加算 1 ・ 病棟薬剤業務実施加算 2 ・ データ提出加算 2（200 床以上） ・ 入退院支援加算 2 ・ 認知症ケア加算 1 ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・ 精神疾患診療体制加算 ・ 精神科急性期医師配置加算 2 ・ 排尿自立支援加算 ・ 地域医療体制確保加算 ・ 地域歯科診療支援病院入院加算

	・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算 1 ・感染防止対策加算 1 ・抗菌薬適正使用支援加算 ・患者サポート体制充実加算	・特定集中治療室管理料 2、3 ・ハイケアユニット入院医療管理料 1 ・総合周産期特定集中治療室管理料 ・小児入院医療管理料 1
	特掲診療科	
	・ウイルス疾患指導料 ・遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料） ・高度難聴指導管理料 ・糖尿病合併症管理料 ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ ・外来緩和ケア管理料 ・移植後患者指導管理料（臓器移植後） ・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後） ・糖尿病透析予防指導管理料 ・小児運動器疾患指導管理料 ・乳腺炎重症化予防ケア・指導料 ・婦人科特定疾患治療管理料 ・腎代替療法指導管理料 ・院内トリアージ実施料 ・救急搬送看護体制加算 1 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・療養・就労両立支援指導料 ・がん治療連携計画策定料 ・外来排尿自立指導料 ・ハイリスク妊産婦連携指導料 1 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・医療機器安全管理料 1 ・医療機器安全管理料 2 ・光トポグラフィー ・脳波検査判断料 1 ・神経学的検査 ・補聴器適合検査 ・黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図	・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。） ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術） ・輸血管理料Ⅰ ・コーディネート体制充実加算 ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 ・連携充実加算 ・歯周組織再生誘導手術 ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 ・歯根端切除手術の注 3 ・麻酔管理料（Ⅰ） ・麻酔管理料（Ⅱ） ・放射線治療専任加算 ・医療機器安全管理料（歯科） ・精神科退院時共同指導料 1 ・精神科退院時共同指導料 2 ・歯科治療総合医療管理料 ・持続血糖測定器加算 ・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合） ・遺伝学的検査 ・骨髄微小残存病変量測定 ・BRCA1/2 遺伝子検査 ・がんゲノムプロファイリング検査 ・抗 HLA 抗体（スクリーニング検査）及び抗 HLA 抗体（抗体特異性同定検査） ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジ

	・コンタクトレンズ検査料１ ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服・点滴誘発試験 ・センチネルリンパ節生検（片側） ・有床義歯咀嚼機能検査１のロ及び咀嚼能力検査 ・有床義歯咀嚼機能検査２のロ及び咬合圧検査 ・精密触覚機能検査 ・画像診断管理加算１ ・画像診断管理加算２ ・遠隔画像診断 ・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影 ・CT 撮影及び MRI 撮影 ・冠動脈 CT 撮影加算 ・血流予備量比コンピューター断層撮影 ・心臓 MRI 撮影加算 ・乳房ＭＲＩ撮影加算 ・全身 MRI 撮影加算 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 ・外来化学療法加算１ ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ） ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ） ・運動器リハビリテーション料（Ｉ） ・呼吸器リハビリテーション料（Ｉ） ・がん患者リハビリテーション料 ・羊膜移植術 ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） ・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） ・網膜再建術 ・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交	ェノタイプ判定） ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 ・検体検査管理加算（Ｉ） ・検体検査管理加算（Ⅳ） ・国際標準検査管理加算 ・遺伝カウンセリング加算 ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算 ・心臓カテーテル法による諸検査の血液内視鏡検査加算 ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ・胎児心エコー法 ・ヘッドアップティルト試験 ・皮下連続式グルコース測定 ・長期継続頭蓋内脳波検査 ・単線維筋電図 ・リンパ浮腫複合的治療料 ・歯科口腔リハビリテーション料２ ・経頭蓋磁気刺激療法 ・通院・在宅精神療法（療養生活環境整備指導加算） ・救急患者精神科継続支援料 ・認知療法・認知行動療法１、２ ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る） ・医療保護入院等診療料 ・処置の休日加算１、時間外加算１及び深夜加算１ ・人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1） ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 ・導入期加算２及び腎代替療法実績加算 ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算 ・手術用顕微鏡加算 ・ＣＡＤ／ＣＡＭ冠 ・歯科技工加算 ・皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）

	換術 ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術） ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。） ・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術 ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。） ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。） ・乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算１及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算２を算定する場合に限る。） ・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）） ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除術） ・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・内視鏡下筋層切開術 ・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） ・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・皮膚移植術（死体） ・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。） ・処理骨再建加算 ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） ・椎間板内酵素注入療法 ・腫瘍脊椎骨全摘術 ・脳腫瘍覚醒下マッピング加算 ・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算 ・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。） ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。） 及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 ・治療的角膜切除術（エキシマレーザーによるもの（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。）） ・角膜移植術（内皮移植加算） ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合） ・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの） ・大動脈バルーンパンピング法（IABP 法） ・補助人工心臓 ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈） ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの） ・腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器

	・経カテーテル大動脈弁置換術 ・経皮的僧帽弁クリップ術 ・不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。） ・経皮的中隔心筋焼灼術 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー） ・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室 ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合） ・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術 ・同種死体腎移植術 ・生体腎移植術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ・人工尿道括約筋植込・置換術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） ・腹腔鏡下仙骨膣固定術 ・腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。） ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。） ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・胎児胸腔・羊水腔シャント術 ・胎児輸血術 ・手術の休日加算１、時間外加算１及び深夜加算１	を用いる場合） ・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術 ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） ・体外衝撃波胆石破砕術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・生体部分肝移植術 ・同種死体肝移植術 ・体外衝撃波膵石破砕術 ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術 ・生体部分小腸移植術 ・同種死体小腸移植術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの） ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・１回線量増加加算 ・強度変調放射線治療（IMRT） ・画像誘導放射線治療（IGRT） ・体外照射呼吸性移動対策加算 ・定位放射線治療 ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 ・画像誘導密封小線源治療加算 ・病理診断管理加算２ ・悪性腫瘍病理組織標本加算 ・口腔病理診断管理加算２ ・クラウン・ブリッジ維持管理料 ・精神科ショート・ケア「小規模なもの」 ・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料

先進医療	先進医療 A	診療科
	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査／悪性脳腫瘍	脳神経外科
	先進医療 B	診療科
	パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法／上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん　※新規患者受入は終了	産婦人科
	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検／早期胃がん　※新規患者受入は終了	一般・消化器外科
	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法／全身性エリテマトーデス（初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。）	リウマチ・膠原病内科
	水素ガス吸入療法／心停止後症候群（院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。）	救急科
	テモゾロミド用量強化療法／膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）	脳神経外科
	反復経頭蓋磁気刺激療法／薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	精神・神経科
	イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法／進行期悪性黒色腫（KIT 遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。）	皮膚科
	抗腫瘍自己リンパ球移入療法／子宮頸癌（切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。）	産婦人科
患者申出療養	名称	診療科
	リツキシマブ静脈内投与療法/難治性天疱瘡	皮膚科
	トラスツズマブ　エムタンシン静脈内投与療法/乳房外パジェット病（HER2 が陽性であって、切除が困難な進行性のものであり、かつ、トラスツズマブ静脈内投与が行われたものに限る。）	皮膚科
	マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分指標的治療（※通称 受け皿試験）/根治切除が不可能な進行固形がん（遺伝子プロファイリングにより、治療対象となる遺伝子異常が確認されたものに限る。）	腫瘍センター他

■ **沿革**　～慶應義塾大学医学部・病院のあゆみ～

1835 年	福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷で誕生 福澤諭吉
1855 年	福澤諭吉、緒方洪庵の適塾に入門
1858 年	慶應義塾開塾　江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く
1860 年	福澤諭吉、はじめての外遊 咸臨丸で渡米
1862 年	福澤諭吉、遣欧使節として欧州各国を巡歴
1868 年	慶應義塾と命名
1871 年	慶應義塾、三田に移転
1873 年	三田山上に「慶應義塾医学所」設立（～1880 年）
1890 年	大学部を発足し、文学・理財・法律 3 科を設置
1892 年	北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立 北里柴三郎博士
1893 年	北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立
1901 年	2 月 3 日、福澤諭吉逝去
1917 年	慶應義塾大学部医学科開設 4 月、医学科予科の授業を三田山上で開始 11 月、四谷区信濃町の陸軍用地を購入
1918 年	医学科附属看護婦養成所開設（～2000 年）
1920 年	4 月、文学・経済学・法学・医学の 4 学部からなる総合大学へ 11 月 6 日、医学部開校ならびに大学病院開院式 11 月 8 日、慶應医学会第一回総会開催 翌大正 10（1921）年『慶應醫学』創刊

	大学病院開院式 開院当時の病院全景 開院当時の病院玄関内部
1922 年	医学部附属産婆養成所開設
1923 年	関東大震災（火災にあった病院の救済・診療を支援。32 万 4 千人以上の患者を診療）
1924 年	大学病院特別病棟竣工
1926 年	食養研究所設立（～1990 年）
1928 年	多磨墓地に医学研究に献体されたご遺体を葬り冥福を祈るための納骨堂建設 第一回の解剖諸霊供養法会を芝増上寺で開催
1929 年	ロックフェラー財団寄付により、予防医学校舎竣工
1932 年	新赤倉温泉の地に三四会、赤倉山荘建設 （昭和 35（1960）年焼失、平成 6（1994）年再建） 病院別館竣工 （鉄筋コンクリート地下 1 階地上 4 階建、219 病床）
1934 年	福澤諭吉生誕 100 年ならびに日吉開校記念祝賀会開催
1936 年	日吉第二校舎竣工、日吉キャンパスで医学部教育開始
1937 年	北里記念医学図書館竣工 特殊薬化学研究所設立
1941 年	月ヶ瀬温泉治療学研究所開設 昭和 33（1958）年狩野川台風により流失、同年廃止
1944 年	軍医不足という社会的要請を受け大学附属医学専門部 を開設し、463 名の人材を輩出（～1951 年）
1945 年	5 月 24 日、空襲により医学部・病院施設の約 6 割焼失 8 月 15 日、終戦
1946 年	基礎医学教室、武蔵野分校へ移転（～1956 年春）
1948 年	病院本館竣工（戦後最大の木造建築 2 階建、153 病床） 病院本館玄関 病院本館受付
1950 年	エール大学ロング教授らを招聘し、CPC（臨床・病理症例検討会）開始 電子顕微鏡研究室開室

	医学部附属厚生女子学院開設
1952 年	新制大学医学部発足 “The Keio Journal of Medicine”創刊 北里柴三郎博士生誕 100 年 三四会より第一回北里賞授与
1955 年	進学課程 2 年、専門課程 4 年の戦後の医学教育体系確立
1956 年	大学院医学研究科（博士課程）設置
1958 年	慶應義塾創立 100 年記念式典
1961 年	米国チャイナ・メディカル・ボードの寄付を受け、基礎 医学第二校舎竣工
1963 年	病院中央棟竣工
1965 年	病院 1 号棟竣工 「財団法人慶應がんセンター」発足（～2002 年）
1967 年	医学部創立 50 周年記念式 医学部創立 50 周年記念式
1969 年	「医学部改革委員会」設置、臨床講堂竣工
1970 年	「財団法人慶應健康相談センター」発足（～2008 年）
1972 年	北里記念医学図書館（1971 年より医学情報センター）の情報サービス部門を独立、「財団法人国際医学情報センター」発足
1973 年	病院ボランティア導入（日本病院ボランティア協会に入会）
1974 年	三重県伊勢市の病院の寄付を受け、慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院（～2003 年）
1977 年	月が瀬リハビリテーション・センター開設（～2011 年）
1979 年	医学部共同利用 R.I（. ラジオアイソトープ）研究棟竣工
1983 年	慶應義塾創立 125 年記念式典
1984 年	米国医科大学での学生臨床研修開始
1986 年	大学病院新棟（現 2 号館）竣工 大学病院新棟開院当時の病院全景 大学病院正面玄関

1988 年	看護短期大学開設（～2000 年）
1990 年	第一回自主学習成果発表会
1994 年	特定機能病院として認定 大学院医学研究科（修士課程）設置
1996 年	医学部新教育研究棟竣工 坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による第一回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催
2001 年	看護医療学部開設 総合医科学研究棟竣工・リサーチパーク発足
2007 年	クリニカルリサーチセンター発足 「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」設置（～2008 年 3 月）
2008 年	共立薬科大学との合併により、薬学部開設 慶應義塾創立 150 年記念式典 臨床研究棟竣工
2010 年	3 号館（北棟）竣工
2011 年	東日本大震災、慶應義塾救援医療団派遣 医療系三学部（医看薬）による合同教育開始
2012 年	総合医療情報システム（電子カルテ）導入 3 号館（南棟）竣工・予防医療センター開設 3 号館（南棟）
2015 年	1 号館（Ⅰ期棟）竣工
2016 年	臨床研究中核病院として認定
2017 年	医学部開設 100 年 JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター（通称 JKiC）開所
2018 年	1 号館（Ⅱ期棟）竣工・1 号館開院 慶應看護 100 年
2020 年	大学病院開院 100 年

■　組織の構成

（2021 年 10 月 1 日現在）

病院執行部

病院長（管理者）	松　本　守　雄
副病院長	大　家　基　嗣
	佐々木　淳　一
	志　水　秀　行
	陣　崎　雅　弘
	長谷川　奉　延
	福　永　興　壱
病院長補佐	朝　倉　啓　介
	金　子　祐　子
	藤　澤　大　介
病院事務局長	松　田　美紀子
看護部長	加　藤　恵里子

診療科部門

呼吸器内科	診療科部長(教授)	福　永　興　壱	産科	診療科部長(教授)	田　中　　守
循環器内科	診療科部長(教授)	福　田　恵　一	婦人科	診療科部長(教授)	青　木　大　輔
消化器内科	診療科部長(准教授)	中　本　伸　宏	眼科	診療科部長(教授)	根　岸　一　乃
腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長(教授)	伊　藤　　裕	皮膚科	診療科部長(准教授)	谷　川　瑛　子
神経内科	診療科部長(教授)	中　原　　仁	泌尿器科	診療科部長(教授)	大　家　基　嗣
血液内科	診療科部長(教授)	片　岡　圭　亮	耳鼻咽喉科	診療科部長(教授)	小　澤　宏　之
リウマチ・膠原病内科	診療科部長(教授)	金　子　祐　子	精神・神経科	診療科部長(教授)	三　村　　將
一般・消化器外科	診療科部長(准教授)	尾　原　秀　明	放射線治療科	診療科部長(教授)	茂　松　直　之
呼吸器外科	診療科部長(教授)	淺　村　尚　生	放射線診断科	診療科部長(教授)	陣　崎　雅　弘
心臓血管外科	診療科部長(教授)	志　水　秀　行	麻酔科	診療科部長(教授)	森　崎　　浩
脳神経外科	診療科部長(教授)	戸　田　正　博	救急科	診療科部長(教授)	佐々木　淳　一
小児外科	診療科部長(教授)	黒　田　達　夫	歯科・口腔外科	診療科部長(教授)	中　川　種　昭
整形外科	診療科部長(教授)	中　村　雅　也	総合診療科	診療科部長(准教授)	藤　島　清太郎
リハビリテーション科	診療科部長(教授)	辻　　哲　也	臨床検査科	診療科部長(教授)	村　田　　満
形成外科	診療科部長(教授)	貴　志　和　生	病理診断科	診療科部長(准教授)	大喜多　　肇
小児科	診療科部長(教授)	高　橋　孝　雄			

診療施設部門

予防医療センター	センター長(教授)	高　石　官　均	臨床遺伝学センター	センター長(教授)	小　崎　健次郎
血液浄化・透析センター	センター長(教授)	大　家　基　嗣	免疫統括医療センター	センター長(教授)	金　子　祐　子
内視鏡センター	センター長(教授)	緒　方　晴　彦	緩和ケアセンター	センター長(専任講師)	竹　内　麻　理
腫瘍センター	センター長代行(教授)	大　家　基　嗣	手術・血管造影センター	センター長(教授)	志　水　秀　行
輸血・細胞療法センター	センター長(教授)	田野崎　隆　二	集中治療センター	センター長(教授)	森　崎　　浩

スポーツ医学総合センター	センター長(教授)	佐　藤　和　毅	救急センター	センター長(教授)	佐々木　淳　一
漢方医学センター	センター長(教授)	三　村　　將			

診療支援部門

看護部	部長	加　藤　恵里子	医用工学室	室長(教授)	大　家　基　嗣
薬剤部	部長(教授)	大　谷　壽　一	放射線技術室	室長	田　原　祥　子
滅菌管理部	部長(准教授)	尾　原　秀　明	臨床検査技術室	室長	横　田　浩　充
食養管理室	室長代理	大　木　いづみ			

臨床研究・教育部門

臨床研究推進センター	センター長(教授)	長谷川　奉　延	卒後臨床研修センター	センター長(教授)	平　形　道　人
臨床研究監理センター	センター長(教授)	福　永　興　壱			

管理部門

病院情報システム部	部長(教授)	陣　崎　雅　弘	医療連携推進部	部長(教授)	大　家　基　嗣
医療安全管理部	部長(教授)	志　水　秀　行	放射線安全管理室	室長(教授)	茂　松　直　之
感染制御部	部長(教授)	長谷川　直　樹	医療保険指導部	部長(准教授)	石　井　　誠
患者総合相談部	部長(教授)	福　永　興　壱			

病院事務局

事務局長	松　田　美紀子

■　教職員数

（各年度 3 月 1 日時点）

内訳	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
臨床系医師(うち研修医)	861(67)	863(74)	899(81)	905(88)	871(82)
歯科医師(うち研修医)	43(14)	42(15)	47(16)	39(15)	43(16)
看護師	1,015	1,011	994	1,015	1,030
薬剤師	97	103	103	96	99
臨床検査技師	141	147	147	146	152
診療放射線技師	79	81	82	83	86
管理栄養士	10	13	12	13	13
栄養士	7	－	－	－	－
視能訓練士	16	17	15	14	14
臨床工学技士	26	28	27	29	31
理学療法士	13	13	13	13	13
作業療法士	4	4	4	4	4
言語聴覚士	5	6	6	5	6
その他技師	52	50	57	64	67
事務職員	240	236	235	224	226
技能員	105	82	82	84	71
教職員合計	2,714	2,696	2,723	2,734	2,726

■ 財務

（2021 年度）（単位：千円）

科目			医学部・大学附属病院	慶應義塾全体
教育活動収支	事業活動収入の部			
		学生生徒等納付金	2,895,670	54,620,566
		手数料	93,983	2,056,013
		寄付金	2,153,363	7,847,940
		経常費等補助金	5,869,792	15,671,697
		付随事業収入	9,084,560	16,935,944
		医療収入	67,789,900	67,789,900
		雑収入	2,580,343	5,357,381
		教育活動収入計	90,467,610	170,279,442
	事業活動支出の部			
		人件費	30,189,920	72,410,793
		教育研究経費	57,259,093	88,694,741
		（内　医療経費）	33,506,954	33,506,954
		管理経費	1,170,168	4,880,715
		徴収不能額等	68,267	100,237
		教育活動支出計	88,687,448	166,086,486
	教育活動収支差額		1,780,163	4,192,955
教育活動外収支	事業活動収入の部			
		受取利息・配当金	360,993	3,812,714
		その他の教育活動外収入	121,734	564,747
		教育活動外収入計	482,728	4,377,461
	事業活動支出の部			
		借入金等利息	0	29,739
		その他の教育活動外支出	0	176,083
		教育活動外支出計	0	248,454
	教育活動外収支差額		482,728	4,171,639
経常収支差額			2,262,890	8,364,594
特別収支	事業活動収入の部			
		資産売却差額	0	0
		その他の特別収入	534,550	1,871,864
		特別収入計	534,550	1,871,864
	事業活動支出の部			
		資産処分差額	678,911	944,227
		その他の特別支出	7,709	17,500
		特別支出計	686,621	961,727
	特別収支差額		△152,070	910,137
予備費				
基本金組入前当年度収支差額			2,110,820	9,274,730
基本金組入額合計			△306,588	△12,086,155
当年度収支差額			1,804,233	△2,811,425
前年度繰越収支差額			△39,011,777	△160,411,510
翌年度繰越収支差額			0	0
（参考）				0
事業活動収入計			91,484,888	176,528,766
事業活動支出計			89,374,068	167,254,035

※千円単位で表示する際に千円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

Ⅱ　病院としての取り組み

2021 年度の主な取り組みと出来事

■　病院開院 100 年式典・シンポジウム／アート企画

1920 年、慶應義塾大学病院は、外来のほか 7 病棟と隔離病棟を有した約 500 名の患者さんを受け入れる病院として開院し、2020 年に 100 年を迎えました。

当院と同じく 2020 年に開設 100 年を迎えた慶應義塾大学医学部三四会、慶應医学会との 100 年合同記念式典・シンポジウムは、当初 2020 年 11 月に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期され、2021 年 9 月 11 日に開催されることとなりました。第 5 波による緊急事態宣言下の開催となったため、関係者のみが会場に参集し、約 720 名の参加登録者にライブ配信される形となりました。

記念式典は、小川彩佳さんを司会に、慶應義塾大学病院、三四会の記念映像の上映で始まりました。慶應義塾長の式辞に続き、病院長、三四会会長、医学会会長から挨拶が行われ、小林弘祐北里研究所理事長、菅沼安嬉子連合三田会会長よりお祝いの言葉が寄せられました。記念シンポジウム「次の 100 年へ For the Next 100 years」では、病院担当の常任理事による開会の辞に続き、歴代の医学部長・病院長が座長を務め、ゲストの向井千秋さんをはじめとする各分野で最先端の医療を牽引する総勢 8 名が講演を行いました。第 1 部は「次世代を見据えた医療と人材育成」、第 2 部は「世界を先導する最先端の慶應医学」、第 3 部は「慶應医学のあゆみとその先」をテーマにした講演が行われ、慶應医学の次の 100 年につながる医療・医学の知見を共有しました。最後に医学部長の閉会の辞により、3 者の 100 年を祝うすべてのプログラムが終了しました。

また、病院内では開院 100 年を記念して「慶應義塾大学病院をアートで彩る」企画が展開されています。現在、患者さんをはじめとして病院にいらっしゃる方には、新型コロナウイルス感染拡大防止のために避けられない制約のもと、面会禁止などの大変なご不便をおかけしています。このような状況の中、病院で過ごす皆さんに少しでも快適な環境で過ごしていただきたいという思いから始まった企画です。1 号館 2 階 2C 前のラウンジには、職員と学生が撮影した写真を展示し、2 号館 2 階のカフェ・ド・クリエオープン予定地の横に、慶應義塾大学病院の年表を展示しています。また、外来待合のデジタルサイネージでフォトムービーを配信いたしました。今後、1 号館と 2 号館をつなぐ渡り廊下での建築写真の展示や、小児病棟でのイベント展示などが予定されております。

■ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの医療スタッフ派遣

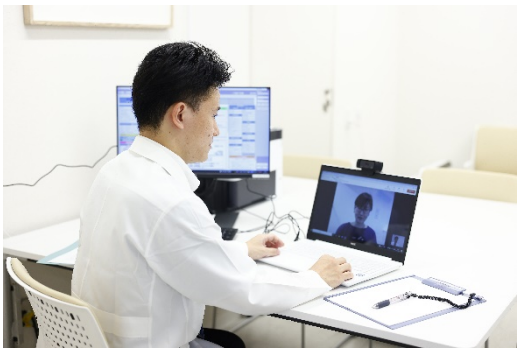
大会期間中（7/18～8/8、8/20～9/5）、救急科佐々木淳一教授が会場医療責任者を務めるオリンピックスタジアムに、医療ボランティアスタッフ医師 17 名と看護師 20 名を派遣しました。COVID-19 感染拡大による緊急事態宣言下で両大会とも無観客開催となりましたが、各国メディア、大会関係者（各国要人も含む）に対し医療サービスを行うため、延べ 189 シフトの医療対応を行いました。

組織委員会より協力要請があった 2017 年に準備委員会を立ち上げ、2019 年夏には派遣スタッフの選定およびオリエンテーションを行い、同年秋より救急科医師によるさまざまな研修を重ねてきました。「会場内完結型の医療提供」を基本とし、2012 年ロンドン大会で実践された「ICEM（大規模競技会場におけるイベント時医療対応）」をモデルに、ロンドンでの研修を受けた救急科医師によりオリンピックスタジアムに適応させた慶應オリジナル版を導入しました。この ICEM の救急医療の動きは、組織委員会の医療統括担当者からも高い評価を受けました。

一方で、大会期間中も通常通りの診療体制を提供するための病院全体での準備を行いました。救急医が会場へ派遣されている期間については、救急外来へ各診療科から医師を配置しました。また、会場近隣医療施設としてテロ等の災害発生時や多数傷病者発生などの有事にも対応できるよう、院内の関係部署の協力を得てマニュアル作成、災害訓練や警備強化等を行いました。

コロナ禍という難しい状況の中での大会開催となりましたが、今大会への協力は、当院の救急医療対応の一層の向上、危機管理およびリスク管理をより強固なものにする機会となりました。

■ オンライン・電話診療



当院では新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、昨年よりオンライン診療（電話診療）による診療・処方箋発行を行っています。

これは、厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針」や、厚生労働省通達「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて」などを遵守して実施しているものです。

対面診察をせず長期間にわたってオンライン・電話診療を続けることは、治療効果や安全性の評価が難しいため、当院では、最低 6 ヶ月に 1 回程度は来院して診療を受けていただくことを原則としています。その点をご理解いただきつつ、多くの患者さんにオンライン・電話診療をご利用いただいています。未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、遠方からのご移動やご来院が難しい状況が続いています。オンライン・電話診療を活用することで、患者さんのご都合の良い場所で、患

者さんがご希望される医療サービスを受けられるようになりました。通院の負担が軽減でき、時間が有効活用できるようになったこと、遠方からの受診が比較的容易になったことは患者さんにとって大きなメリットの１つです。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、感染リスクを恐れて診療をためらう人にとっても、このオンライン・電話診療を活用することで、患者さんにとって自分の身を守る有効な手段の１つになっています。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する前まで、オンライン診療は、医療機関にとって遠隔診療の１つの手段として、離島やへき地といった地域で活用されるものとの認識が強く、都市部ではあまり積極的には活用されてきませんでした。しかし、この度の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関としては、受診方法の選択肢を増やすことが余儀なくされました。当院では、電話診療以外にも専用アプリを使用してのオンライン診療や、オンラインセカンドオピニオンも実施しています。

■ 新型コロナウイルス感染症への対策

2020 年 2 月より東京都の要請にこたえ重症・中等症患者さんの COVID-19 の診療を行い、教職員が一丸となって感染症対策に取り組んでおります。

手指衛生をはじめとしたスタンダードプリコーションの徹底に改めて力を入れています。まずはリーダーが率先し手指衛生を実施する、ということで、「診療科部長による手指衛生ビデオメッセージリレーシリーズ 1～4」を、続いて「スタッフによる手指衛生ビデオメッセージリレー1～4」を作成しました。教職員の視聴だけでなく、患者さんにも外来待合モニターで観ていただき、さらにどなたでも観ていただけるように慶應義塾公式チャンネル YouTube（https://www.youtube.com/user/keiouniversity）で配信しております。全教職員を代表した熱いメッセージを是非ご覧ください。手指衛生はそのタイミングも重要です。患者さんに触れる前の手指衛生を徹底するため、必要な場面でお互いに声をかけあうなど、継続的に取り組んでいます。

慶應義塾公式チャンネル Youtube

また、2020 年末から新型コロナウイルスワクチン接種の準備を開始しました。2021 年 3 月から 4 月に病院関係者、実習学生などに接種、6 月からは新宿区住民を対象とした接種（8 月末で終了）にも協力してまいりました。

診療場面以外でも、教職員がクラスターを発生させないため『密ラウンド』に取り組んでいます。食事休憩は必ず一人で黙食としておりますが、近くに同僚がいれば、マスクをはずしたまま声をかけてしまうといったことが起こりがちです。管理職が中心となって、教職員ラウンジ等をラウンドし、密を見つけた場合にはその場で注意をする、という風土づくりをすすめています。

■ 医療連携推進フォーラム Web 開催

医療連携強化に向けた情報交換や交流を行うため、近隣の医師会や連携契約医療機関、産業医、関連医療機関、ならびに看護や介護に係る施設をお招きし、2018 年 8 月より「医療連携推進フォーラム」を開催しております。2021 年 4 月 30 日には、前年に続き Web による第 8 回「医療連携推進フォーラム」を開催いたしました。

フォーラムテーマは「With コロナ・After コロナ社会に対応した診療・研究・地域医療体制について」とし、当院の医師より安心して診療を受けていただくための取り組みや診療体制について、「COVID-19 感染症患者診療状況について」「病院復興状況・地域連携活動」「救急応需体制について」や、After コロナ社会における地域医療体制として、「オンラインを用いた面会体制・地域とのカンファレンス」を紹介しました。また研究では、AI を用いた医療の新しい道を切り開く「AI ホスピタル事業の展開」や、COVID-19 感染症の診断治療を支援する「慶應ドンネルプロジェクト」を紹介しました。遠方の医療機関からのご参加もあり、後日配信した動画も多数視聴され、地域の皆様から今年も強い関心が寄せられました。

■ デジタルサイネージとメディカルナビタ

現在、病院内には「デジタルサイネージ」と「メディカルナビタ」が設置されています。「デジタルサイネージ」は、主にブロック受付の待合に設置され、病院内の情報をお伝えするとともに、病院での時間を少しでも快適に過ごしていただけるように、美しい風景など心を癒す映像を流しています。「メディカルナビタ」は、当院周辺の地図による近隣の医療機関のご紹介や、病院内のマップや病院の広報誌などの情報を掲載する、案内パネルと情報発信サイネージを組み合わせたデジタル掲示板です。1 号館 2 階と 2 号館 1 階に設置されています。一部がタッチパネル式となっており、当院と連携契約を結んでいる全国の医療機関を検索できますので、患者さんは、ご自宅近くのクリニックやかかりつけ医をお探しいただくことが可能です。これらを患者さんとのコミュニケーションツールとして活用し、積極的な情報発信を行っていきます。

デジタルサイネージ

メディカルナビタ

■ 正面玄関移転

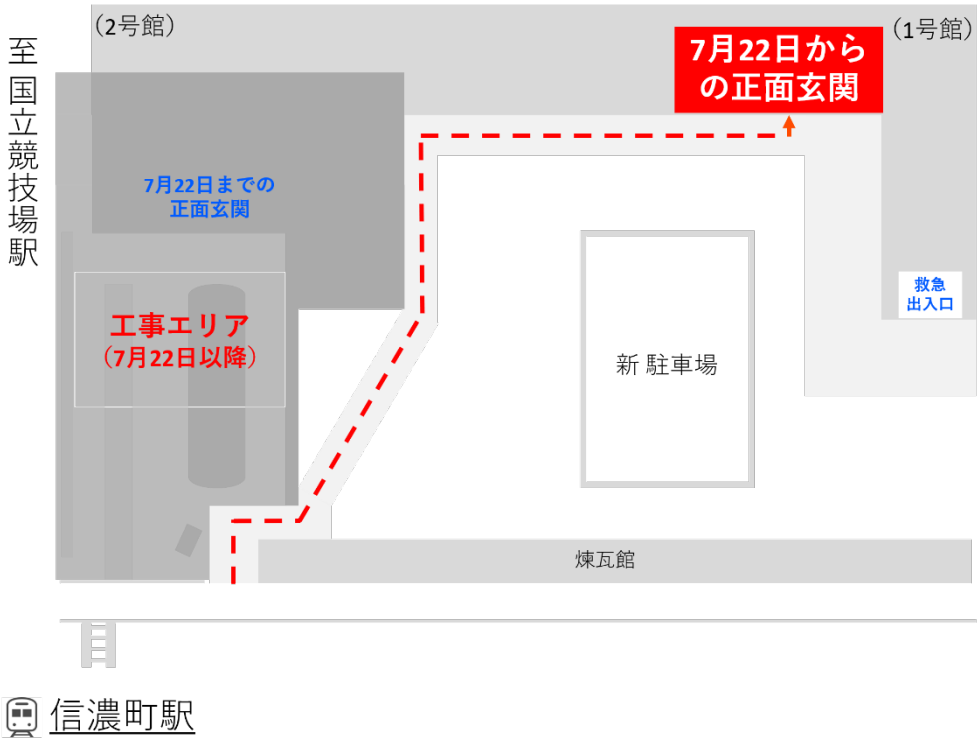
2021 年 7 月 22 日より、新病院棟建設工事の関係で、正面玄関の場所が変更となりました。それまで正面玄関のあった 1 号棟は工事エリアのため立入禁止となり、解体工事が始まっています。エント

ランス棟の建設と駐車場の整備が進められ、2022 年 4 月下旬に工事が完了し、正面玄関は従来の位置に戻る予定です。

工事完了までの間、患者さんは工事エリアの囲いに沿って 1 号館の方まで歩き、新しい正面玄関から病院内に入るようになりました。7 月 22 日以降は、正面玄関周辺や連絡通路などが狭くなったため、2 号館の 1 階と 2 階をつなぐエスカレーターの下りの運用を停止したり、人の流れが交錯しないように、連絡通路の通行ルールを整理したり、受付機の配置を工夫するなど対策を行いました。

また、防犯対策と感染予防対策徹底のために、移転と同時に正面玄関の開錠時間を 6 時 45 分から 7 時 45 分へと変更したため、その周知や対応も並行して行いました。敷地内の取り組み以外にも、院内に待合場所がないため、患者さんに可能な限り早くお知らせをするために JR 信濃町駅に開錠時間の変更のポスターを掲示し、JR 信濃町駅直結のアトレ信濃町のご利用のご案内をするなど、病院周辺の施設にも多大なご協力をいただき、患者さんの不便を少なくできるよう対策を行いました。

工事の影響で患者さんにご不便をお掛けすることが多くありますが、少しでも患者さんにとって利用しやすく、そして安全に通院していただけるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。



Ⅲ　統計・実績

■　外来患者数（科別）

		2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計	1日平均
実日数		23	22	24	23	23	22	24	22	23	21	20	24	271	
呼吸器内科	初	89	63	48	93	82	57	69	47	80	73	76	72	849	3
	再	2,602	2,358	2,762	2,573	2,472	2,890	2,827	2,667	2,931	2,545	2,464	3,102	32,193	119
	計	2,691	2,421	2,810	2,666	2,554	2,947	2,896	2,714	3,011	2,618	2,540	3,174	33,042	122
循環器内科	初	89	76	101	103	86	86	123	125	120	97	89	106	1,201	4
	再	3,478	2,943	3,559	3,406	3,126	3,440	3,630	3,431	3,780	3,157	3,192	3,988	41,130	152
	計	3,567	3,019	3,660	3,509	3,212	3,526	3,753	3,556	3,900	3,254	3,281	4,094	42,331	156
消化器内科	初	126	109	126	112	128	96	123	158	168	109	101	141	1,497	6
	再	5,733	5,205	6,176	6,143	5,353	6,123	6,606	5,907	6,472	5,718	5,347	6,672	71,455	264
	計	5,859	5,314	6,302	6,255	5,481	6,219	6,729	6,065	6,640	5,827	5,448	6,813	72,952	269
腎臓・内分泌・代謝内科	初	56	47	50	52	32	36	59	44	66	35	30	37	544	2
	再	4,860	4,146	5,025	4,848	4,305	4,955	5,011	4,491	5,013	4,438	4,042	5,127	56,261	208
	計	4,916	4,193	5,075	4,900	4,337	4,991	5,070	4,535	5,079	4,473	4,072	5,164	56,805	210
神経内科	初	63	58	77	57	45	56	72	78	72	60	69	52	759	3
	再	2,094	1,848	2,238	2,046	1,871	2,163	2,149	1,968	2,384	2,009	1,838	2,354	24,962	92
	計	2,157	1,906	2,315	2,103	1,916	2,219	2,221	2,046	2,456	2,069	1,907	2,406	25,721	95
血液内科	初	17	16	24	26	21	17	23	27	31	24	20	26	272	1
	再	1,163	1,056	1,274	1,173	1,123	1,268	1,243	1,180	1,222	1,102	1,115	1,486	14,405	53
	計	1,180	1,072	1,298	1,199	1,144	1,285	1,266	1,207	1,253	1,126	1,135	1,512	14,677	54
リウマチ・膠原病内科	初	50	39	32	44	37	37	39	42	42	29	28	41	460	2
	再	2,605	2,420	2,782	2,633	2,610	2,805	2,789	2,610	2,844	2,470	2,340	2,980	31,888	118
	計	2,655	2,459	2,814	2,677	2,647	2,842	2,828	2,652	2,886	2,499	2,368	3,021	32,348	119
総合内科	初	25	24	32	27	30	19	25	28	20	35	19	32	316	1
	再	35	59	42	61	49	61	38	40	52	56	40	58	591	2
	計	60	83	74	88	79	80	63	68	72	91	59	90	907	3
総合診療科	初	13	20	14	10	11	8	13	4	12	7	11	16	139	1
	再	420	401	520	421	358	499	498	426	525	436	371	491	5,366	20
	計	433	421	534	431	369	507	511	430	537	443	382	507	5,505	20
一般・消化器外科	初	56	59	49	76	49	46	47	63	43	51	52	78	669	2
	再	2,690	2,428	2,850	2,631	2,542	2,872	2,854	2,704	2,852	2,554	2,415	2,930	32,322	119
	計	2,746	2,487	2,899	2,707	2,591	2,918	2,901	2,767	2,895	2,605	2,467	3,008	32,991	122
呼吸器外科	初	38	29	52	51	49	33	40	50	49	34	38	53	516	2
	再	636	582	760	738	636	716	714	627	762	616	604	762	8,153	30
	計	674	611	812	789	685	749	754	677	811	650	642	815	8,669	32
心臓血管外科	初	10	6	12	13	18	10	13	12	19	12	12	12	149	1
	再	568	445	549	534	468	608	585	552	570	479	471	607	6,436	24
	計	578	451	561	547	486	618	598	564	589	491	483	619	6,585	24
脳神経外科	初	54	56	61	63	45	47	55	48	64	67	66	78	704	3
	再	728	576	789	771	741	794	759	824	849	704	703	996	9,234	34
	計	782	632	850	834	786	841	814	872	913	771	769	1,074	9,938	37
小児外科	初	6	13	15	13	15	13	14	10	16	11	11	18	155	1
	再	182	195	243	244	281	224	214	239	285	230	231	317	2,885	11
	計	188	208	258	257	296	237	228	249	301	241	242	335	3,040	11
整形外科	初	296	260	290	292	275	235	317	310	272	244	238	310	3,339	12
	再	4,073	3,405	4,358	4,421	3,996	4,393	4,352	4,152	4,668	3,776	3,662	4,931	50,187	185
	計	4,369	3,665	4,648	4,713	4,271	4,628	4,669	4,462	4,940	4,020	3,900	5,241	53,526	198
リハビリテーション科	初	10	12	14	13	13	11	14	10	12	6	5	9	129	0
	再	520	428	513	534	459	515	561	523	545	491	395	587	6,071	22
	計	530	440	527	547	472	526	575	533	557	497	400	596	6,200	23
形成外科	初	96	86	83	88	87	80	113	80	90	82	55	82	1,022	4
	再	740	634	756	837	918	825	764	742	949	737	686	1,066	9,654	36
	計	836	720	839	925	1,005	905	877	822	1,039	819	741	1,148	10,676	39
小児科	初	124	115	153	181	176	118	148	129	139	141	110	142	1,676	6
	再	1,514	1,378	1,768	1,773	1,990	1,776	1,703	1,487	1,848	1,428	1,399	2,125	20,189	74
	計	1,638	1,493	1,921	1,954	2,166	1,894	1,851	1,616	1,987	1,569	1,509	2,267	21,865	81
産婦人科	初	229	220	221	233	218	205	229	198	238	185	187	221	2,584	10
	再	4,073	4,042	4,769	4,446	4,028	4,840	4,854	4,471	4,962	4,128	3,922	5,231	53,766	198
	計	4,302	4,262	4,990	4,679	4,246	5,045	5,083	4,669	5,200	4,313	4,109	5,452	56,350	208
眼科	初	262	177	216	234	206	224	225	266	288	220	226	244	2,788	10
	再	3,819	3,544	3,939	4,038	3,690	4,244	4,430	4,209	4,511	3,856	3,718	4,872	48,870	180
	計	4,081	3,721	4,155	4,272	3,896	4,468	4,655	4,475	4,799	4,076	3,944	5,116	51,658	191
皮膚科	初	118	102	128	144	125	114	124	129	132	99	96	138	1,449	5
	再	3,375	3,029	3,490	3,445	3,147	3,555	3,727	3,360	3,813	3,377	3,048	4,119	41,485	153
	計	3,493	3,131	3,618	3,589	3,272	3,669	3,851	3,489	3,945	3,476	3,144	4,257	42,934	158
泌尿器科	初	75	58	92	77	73	75	76	81	92	74	72	81	926	3
	再	2,952	2,751	3,418	3,054	3,012	3,310	3,117	3,048	3,594	2,857	2,759	3,798	37,670	139
	計	3,027	2,809	3,510	3,131	3,085	3,385	3,193	3,129	3,686	2,931	2,831	3,879	38,596	142
耳鼻咽喉科	初	211	178	199	203	182	158	176	150	227	136	103	172	2,095	8
	再	2,728	2,259	3,080	2,816	2,783	3,142	2,807	2,732	3,050	2,488	2,392	3,153	33,430	123
	計	2,939	2,437	3,279	3,019	2,965	3,300	2,983	2,882	3,277	2,624	2,495	3,325	35,525	131
精神・神経科	初	69	65	75	57	72	58	77	93	67	65	59	81	838	3
	再	3,075	2,827	3,094	3,078	2,863	3,130	3,239	3,082	3,389	3,035	2,789	3,390	36,991	136
	計	3,144	2,892	3,169	3,135	2,935	3,188	3,316	3,175	3,456	3,100	2,848	3,471	37,829	140
放射線治療科	初	6	4	3	5	6	6	6	6	6	8	13	3	72	0
	再	1,218	1,312	1,835	1,325	1,145	1,342	1,255	1,375	1,352	1,040	1,248	1,654	16,101	59
	計	1,224	1,316	1,838	1,330	1,151	1,348	1,261	1,381	1,358	1,048	1,261	1,657	16,173	60
放射線診断科	初	62	49	51	55	48	60	56	66	75	56	50	72	700	3
	再	31	22	40	30	31	37	36	24	30	32	26	40	379	1
	計	93	71	91	85	79	97	92	90	105	88	76	112	1,079	4
麻酔科	初	9	4	9	14	9	12	17	16	16	10	12	23	151	1
	再	1,311	1,187	1,312	1,345	1,173	1,354	1,286	1,326	1,452	1,324	1,178	1,528	15,776	58
	計	1,320	1,191	1,321	1,359	1,182	1,366	1,303	1,342	1,468	1,334	1,190	1,551	15,927	59

		2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計	1日平均
実日数		23	22	24	23	23	22	24	22	23	21	20	24	271	
救急科	初	257	219	248	357	299	246	251	374	439	452	396	386	3,924	14
	再	132	129	134	187	118	128	140	158	204	216	160	200	1,906	7
	計	389	348	382	544	417	374	391	532	643	668	556	586	5,830	22
歯科・口腔外科	初	412	413	431	425	374	407	437	440	469	377	330	440	4,955	18
	再	2,850	2,749	3,159	3,063	2,495	3,072	3,318	3,042	3,363	2,830	2,625	3,539	36,105	133
	計	3,262	3,162	3,590	3,488	2,869	3,479	3,755	3,482	3,832	3,207	2,955	3,979	41,060	152
血液浄化・透析センター	初	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再	134	135	122	125	116	109	112	129	133	108	87	104	1,414	5
	計	134	135	122	125	116	109	112	129	133	108	87	104	1,414	5
スポーツ医学総合センター	初	40	30	26	28	37	28	29	27	49	23	12	26	355	1
	再	457	402	462	491	397	513	529	480	546	419	394	626	5,716	21
	計	497	432	488	519	434	541	558	507	595	442	406	652	6,071	22
漢方医学センター	初	5	4	11	13	7	8	8	10	9	2	7	9	93	0
	再	548	527	608	589	518	595	651	541	680	554	464	642	6,917	26
	計	553	531	619	602	525	603	659	551	689	556	471	651	7,010	26
感染症外来	初	30	30	31	60	38	34	38	35	43	42	30	33	444	2
	再	767	721	858	793	841	851	852	823	878	939	912	1,099	10,334	38
	計	797	751	889	853	879	885	890	858	921	981	942	1,132	10,778	40
輸血・細胞療法センター	初	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0
	計	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0
内視鏡センター	初	22	14	27	11	15	20	17	21	25	15	14	21	222	1
	再	16	14	19	11	14	16	11	15	17	16	15	20	184	1
	計	38	28	46	22	29	36	28	36	42	31	29	41	406	1
免疫統括医療センター	初	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0
	再	143	116	121	110	98	101	87	94	73	78	72	114	1,207	4
	計	144	117	121	110	98	101	87	94	73	78	73	114	1,210	4
腫瘍センター	初	67	62	65	74	60	79	82	88	89	89	56	88	899	3
	再	1,540	1,246	1,587	1,661	1,529	1,723	1,719	1,562	1,802	1,569	1,464	1,877	19,279	71
	計	1,607	1,308	1,652	1,735	1,589	1,802	1,801	1,650	1,891	1,658	1,520	1,965	20,178	74
メモリー外来	初	15	7	14	7	3	11	10	15	9	7	6	10	114	0
	再	321	252	349	277	230	284	297	281	342	268	220	331	3,452	13
	計	336	259	363	284	233	295	307	296	351	275	226	341	3,566	13
緩和ケアセンター	初	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	4	0
	再	73	72	81	68	75	103	88	91	111	95	82	110	1,049	4
	計	74	72	81	69	75	103	89	91	111	95	82	111	1,053	4
臨床遺伝学センター	初	6	7	3	11	3	4	2	4	4	14	3	7	68	0
	再	49	37	45	61	44	61	50	67	57	37	48	68	624	2
	計	55	44	48	72	47	65	52	71	61	51	51	75	692	3
予防医療センター	初	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	6	0
	再	33	25	30	19	26	23	31	28	27	19	15	32	308	1
	計	33	25	31	21	26	24	31	28	27	19	15	34	314	1
保健管理センター	初	66	86	59	63	105	98	90	88	70	165	135	130	1,155	4
	再	151	157	124	146	171	178	153	167	167	245	267	257	2,183	8
	計	217	243	183	209	276	276	243	255	237	410	402	387	3,338	12
その他	初	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	初	3,181	2,818	3,143	3,388	3,079	2,853	3,258	3,372	3,662	3,156	2,838	3,493	38,241	141
	再	64,437	58,062	69,643	66,965	61,842	69,638	70,087	65,675	73,104	62,476	59,220	77,383	798,532	2,947
	計	67,618	60,880	72,786	70,353	64,921	72,491	73,345	69,047	76,766	65,632	62,058	80,876	836,773	3,088
１日平均	初	138	128	131	147	134	130	136	153	159	150	142	146	141	
	再	2,802	2,639	2,902	2,912	2,689	3,165	2,920	2,985	3,178	2,975	2,961	3,224	2,947	
	計	2,940	2,767	3,033	3,059	2,823	3,295	3,056	3,139	3,338	3,125	3,103	3,370	3,088	

■　救急外来患者数（科別）

	自力受診					救急車搬入					合計				
	受診数	初診	受け科入院数	実入院科患者数	転送	受診数	初診	受け科入院数	実入院科患者数	転送	受診数	初診	受け科入院数	実入院科患者数	転送
呼吸器内科	346	153	309	349	2	79	28	68	151	0	425	181	377	500	2
循環器内科	76	4	25	55	0	43	7	35	112	0	119	11	60	167	0
消化器内科	85	8	46	158	1	51	5	43	189	1	136	13	89	347	2
腎臓・内分泌・代謝内科	14	0	7	26	0	9	0	4	51	1	23	0	11	77	1
神経内科	38	2	19	51	0	34	2	25	160	1	72	4	44	211	1
血液内科	60	0	3	13	0	4	0	4	11	0	64	0	7	24	0
リウマチ・膠原病内科	15	0	8	15	0	4	0	2	12	0	19	0	10	27	0
総合内科	1,109	187	249	0	5	169	6	114	0	0	1,278	193	363	0	5
総合診療科	5	0	2	0	0	1	0	0	0	0	6	0	2	0	0
一般・消化器外科	245	3	109	123	3	50	2	36	89	0	295	5	145	212	3
呼吸器外科	84	22	20	22	0	24	9	22	21	0	108	31	42	43	0
心臓血管外科	18	0	4	7	0	16	3	12	20	1	34	3	16	27	1
脳神経外科	199	106	15	19	1	23	7	14	35	0	222	113	29	54	1
小児外科	69	7	25	29	1	4	0	3	4	0	73	7	28	33	1
整形外科	137	33	11	13	2	18	1	12	21	0	155	34	23	34	2
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	199	133	1	3	0	5	2	3	5	0	204	135	4	8	0
小児科	446	148	57	57	8	56	15	16	30	0	502	163	73	87	8
産婦人科	444	24	169	172	1	31	8	18	42	0	475	32	187	214	1
眼科	233	90	25	23	0	23	20	0	7	0	256	110	25	30	0
皮膚科	186	67	14	20	0	12	2	8	19	0	198	69	22	39	0
泌尿器科	207	27	60	60	1	30	7	20	42	0	237	34	80	102	1
耳鼻咽喉科	273	94	14	20	0	10	5	1	14	0	283	99	15	34	0
精神・神経科	27	3	2	5	0	7	1	2	10	0	34	4	4	15	0
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
救急科	1,268	132	86	29	7	5,323	3,432	781	185	157	6,591	3,564	867	214	164
歯科・口腔外科	372	229	18	15	0	17	12	1	12	0	389	241	19	27	0
血液浄化・透析センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ医学総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
漢方医学センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染症外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
免疫統括医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫瘍センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メモリー外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6,158	1,472	1,298	1,284	32	6,043	3,574	1,244	1,242	161	12,201	5,046	2,542	2,526	193

■　入院患者延数（科別）

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計	1日 平均
呼吸器内科	1,819	2,042	1,558	1,792	1,860	1,522	1,370	1,283	1,335	2,067	2,110	1,976	20,734	57
循環器内科	1,293	1,411	1,440	1,228	1,125	1,084	1,349	1,395	1,588	1,652	1,446	1,697	16,708	46
消化器内科	1,821	1,722	1,658	1,751	1,822	1,792	2,012	1,873	2,103	1,754	1,676	2,021	22,005	60
腎臓・内分泌・代謝内科	500	601	677	654	558	458	659	662	676	562	518	609	7,134	20
神経内科	803	752	749	696	837	826	856	1,061	1,154	1,057	1,109	1,241	11,141	31
血液内科	1,131	1,049	1,156	1,317	1,318	1,212	1,170	1,214	1,445	1,461	1,257	1,372	15,102	41
リウマチ・膠原病内科	842	748	758	866	756	546	659	782	653	738	636	615	8,599	24
一般・消化器外科	3,145	2,835	2,943	2,926	3,054	2,938	2,924	2,495	2,977	2,747	2,662	3,114	34,760	95
呼吸器外科	517	420	499	473	417	444	563	470	606	410	446	516	5,781	16
心臓血管外科	808	667	681	764	787	759	684	565	672	585	560	560	8,092	22
脳神経外科	505	446	632	693	827	904	813	799	1,013	876	873	909	9,290	25
小児外科	308	303	258	184	206	165	231	164	262	253	255	288	2,877	8
整形外科	2,668	2,472	2,482	2,927	2,781	2,210	2,963	2,570	2,809	2,285	2,322	2,484	30,973	85
リハビリテーション科	105	91	92	95	81	33	79	92	93	105	102	99	1,067	3
形成外科	272	247	320	322	376	325	400	363	409	319	275	412	4,040	11
小児科	1,228	1,295	1,242	1,274	1,289	1,376	1,356	1,285	1,392	1,276	1,256	1,199	15,468	42
産婦人科	1,942	1,881	2,030	2,209	2,105	1,664	2,017	1,839	2,005	1,782	1,926	2,036	23,436	64
眼科	668	644	493	611	591	500	719	651	750	716	628	748	7,719	21
皮膚科	348	474	424	426	517	561	435	364	420	517	451	401	5,338	15
泌尿器科	1,109	1,074	1,165	1,249	1,257	1,017	1,151	1,067	1,079	1,148	864	1,191	13,371	37
耳鼻咽喉科	575	670	636	632	661	751	903	922	836	751	677	832	8,846	24
精神・神経科	368	370	389	370	414	394	418	417	448	422	282	355	4,647	13
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	2	0	4	2	14	4	4	6	13	9	13	18	89	0
救急科	147	255	211	178	203	163	223	436	358	532	332	375	3,413	9
歯科・口腔外科	260	163	183	235	251	159	174	186	275	190	270	284	2,630	7
スポーツ医学総合センター	45	28	31	19	47	46	44	36	35	44	21	40	436	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	23,229	22,660	22,711	23,893	24,154	21,853	24,176	22,997	25,406	24,258	22,967	25,392	283,696	777

■　入院患者延数（病棟別）・病床稼働率

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計
3号館南棟5階	644	661	587	696	371	399	45	300	400	539	795	534	5,971
3号館南棟6階	532	429	496	595	686	675	695	613	658	674	656	708	7,417
1号館１０A	1,135	1,071	1,091	1,084	1,108	1,124	1,173	1,044	1,220	1,135	1,038	1,220	13,443
1号館１０B	1,127	1,013	1,141	1,136	1,142	1,106	1,129	1,086	1,217	1,203	956	1,215	13,471
1号館１０C	830	836	872	888	884	820	893	824	894	869	800	900	10,310
1号館１０D	355	345	277	461	486	471	508	425	414	477	466	498	5,183
1号館9A	1,131	1,149	1,112	1,178	1,168	1,150	1,112	1,052	1,237	1,143	1,113	1,225	13,770
1号館9B	1,188	1,194	1,129	1,134	1,201	1,162	1,166	1,037	1,284	1,143	1,121	1,203	13,962
1号館9C	1,147	1,060	1,140	1,214	1,210	1,128	1,171	1,091	1,225	1,142	1,057	1,241	13,826
1号館9D	1,162	1,115	1,163	1,204	1,256	1,147	1,180	1,123	1,158	1,155	1,108	1,269	14,040
1号館8A	917	933	854	874	789	597	918	936	1,016	1,030	929	1,015	10,808
1号館8B	969	903	947	975	979	920	1,004	1,000	1,048	1,040	983	1,074	11,842
1号館8C	1,054	966	1,023	1,012	1,060	963	1,068	994	1,077	1,011	981	1,098	12,307
1号館8D	1,118	1,074	1,108	1,085	1,142	1,031	1,097	1,042	1,150	1,122	1,062	1,164	13,195
1号館7A	1,164	1,135	1,181	1,179	1,198	791	1,245	1,171	1,228	1,180	1,160	1,271	13,903
1号館7B	1,166	1,141	1,119	1,173	1,198	1,120	1,210	1,142	1,203	1,204	1,110	1,225	14,011
1号館7C	1,091	996	1,052	1,048	1,106	1,082	1,088	1,013	1,121	1,117	1,061	1,207	12,982
1号館7D	1,151	1,137	1,110	1,124	1,205	1,164	1,227	1,185	1,250	1,090	761	943	13,347
1号館6A・1	828	835	710	865	968	811	852	859	980	796	820	950	10,274
1号館6A・2	225	309	282	368	290	389	376	311	363	354	312	328	3,907
1号館6A・3	71	69	93	88	86	94	113	77	89	94	74	67	1,015
1号館6C	679	642	639	715	751	481	737	610	715	603	565	634	7,771
1号館6C　MFICU	112	84	110	137	106	52	108	95	105	66	107	101	1,183
1号館6D　GCU	472	491	536	590	530	575	572	491	514	460	461	450	6,142
1号館6D　NICU	260	277	253	269	270	256	274	240	266	255	245	250	3,115
1号館4B	381	366	395	378	398	383	424	430	423	406	306	346	4,636
1号館4D　ICU	323	319	311	307	340	338	341	313	343	355	338	377	4,005
1号館4C　HCU	562	532	587	525	482	410	541	466	514	530	521	560	6,230
2号館5S	1,218	1,191	1,227	1,207	1,257	1,197	1,074	1,027	1,191	1,028	1,028	1,281	13,926
2号館5N	212	381	162	372	482	0	830	999	1,096	1,030	1,031	1,037	7,632
2号館6N	5	6	4	12	5	17	5	1	7	7	2	1	72
合計	23,229	22,660	22,711	23,893	24,154	21,853	24,176	22,997	25,406	24,258	22,967	25,392	283,696
病床稼働率	81.8%	77.3%	80.0%	81.5%	82.4%	77.0%	82.4%	81.0%	86.6%	82.7%	86.7%	86.6%	平均 82.2%

※新型コロナウイルス感染症対応病床を含む。

■　新入院患者数・退院患者数・死亡患者数・在院患者延数・平均在院日数

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計
実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
新入院患者数	1,963	1,883	2,020	2,023	2,112	1,787	1,935	1,982	2,118	2,075	1,900	2,189	23,987
退院患者数	1,929	1,903	1,994	2,047	2,074	1,788	1,992	1,902	2,327	1,866	1,917	2,167	23,906
死亡患者数	21	20	15	21	26	15	27	25	22	23	24	26	265
在院患者延数	21,300	20,757	20,717	21,846	22,080	20,065	22,184	21,095	23,079	22,392	21,050	23,225	259,790
平均在院日数	11.5	11.6	10.9	11.4	11.2	11.8	12.0	11.7	11.1	12.2	11.6	11.4	年間平均　11.5

＊平均在院日数は、基本診療料の施設基準において定められた対象外患者を除いた患者数で算出。

■　分娩件数・出生児数・死産児数

		2021年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	合計
分娩件数		59	46	48	69	59	50	65	52	63	59	47	53	670
	(帝王切開)	23	21	24	31	33	25	23	21	28	25	18	25	297
出生児数		59	44	49	73	64	50	65	53	66	57	46	56	682
	(早期産児)	12	6	13	13	18	6	7	6	16	6	5	6	114
	(低出生体重児)	14	12	14	13	18	11	10	11	18	8	7	6	142
	(多胎児)	4	6	4	8	12	2	4	4	8	2	6	6	66
死産児数		2	6	1	0	1	1	2	1	1	3	1	2	21

■　手術件数（科別）

(1) 入院

	2021年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	合計
内科	32	31	39	35	41	29	37	36	40	31	31	50	432
一般・消化器外科	156	137	142	115	144	124	129	117	152	120	126	149	1,611
呼吸器外科	44	40	49	49	52	45	48	43	51	39	47	51	558
心臓血管外科	31	27	30	31	31	29	32	30	31	31	24	32	359
脳神経外科	19	14	21	20	18	27	21	31	36	27	26	43	303
小児外科	9	9	7	11	14	12	11	18	12	11	15	16	145
整形外科	152	131	156	171	161	130	171	148	171	127	140	161	1,818
形成外科	45	27	63	51	60	52	56	48	53	52	45	66	618
小児科	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
産婦人科	150	137	157	160	168	138	143	137	149	136	136	154	1,765
眼科	170	156	148	172	178	142	184	186	203	181	160	196	2,076
皮膚科	8	8	11	10	15	15	14	11	13	16	16	11	148
泌尿器科	98	95	98	96	93	93	95	95	103	88	81	118	1,153
耳鼻咽喉科	47	43	53	55	62	62	53	45	59	60	52	61	652
精神・神経科	45	35	44	29	7	26	55	14	46	40	8	21	370
麻酔科	5	1	2	3	2	5	5	0	3	1	1	5	33
救急科	15	15	12	19	28	4	14	17	13	10	6	11	164
歯科・口腔外科	14	10	18	19	14	12	9	14	17	14	19	18	178
その他	14	9	12	10	13	16	17	9	13	16	9	14	152
合計	1,054	926	1,062	1,057	1,102	961	1,094	999	1,165	1,000	942	1,177	12,539

(2) 外来

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計
内科	19	15	13	15	25	12	8	16	20	12	14	15	172
一般・消化器外科	1	0	3	5	2	3	2	1	3	0	1	1	22
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
整形外科	24	12	16	10	19	16	21	15	22	25	16	22	218
形成外科	12	8	14	15	17	11	11	20	18	10	12	21	169
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	48	30	42	41	30	48	37	34	28	30	27	47	442
眼科	99	85	85	63	59	98	105	100	109	94	95	100	1,092
皮膚科	21	16	25	23	19	21	20	20	24	16	18	22	245
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	14	6	2	8	4	4	4	6	6	2	4	5	65
精神・神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
歯科・口腔外科	12	17	16	18	13	21	23	12	18	19	13	16	198
その他	1	2	1	1	4	2	2	2	4	1	2	2	36
合計	251	191	217	200	192	236	234	227	253	210	203	251	2,665

■　手術全身麻酔件数（科別）

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計
内科	16	14	22	19	19	13	20	20	21	10	15	25	214
一般・消化器外科	128	112	118	98	114	91	104	89	122	101	102	123	1,302
呼吸器外科	44	39	46	47	45	42	47	43	50	36	47	48	534
心臓血管外科	30	26	29	30	31	27	29	30	29	29	24	30	344
脳神経外科	15	11	16	17	17	22	16	25	31	19	20	31	240
小児外科	9	9	6	8	14	10	11	16	11	10	14	15	133
整形外科	150	130	154	169	160	128	168	142	169	125	139	155	1,789
形成外科	31	25	41	38	45	37	38	35	43	34	37	48	452
小児科	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
産婦人科	79	76	77	81	81	70	70	75	77	67	68	78	899
眼科	5	3	5	7	9	1	5	6	7	11	6	9	74
皮膚科	5	9	8	6	9	8	7	5	9	6	7	4	83
泌尿器科	67	60	60	64	69	57	58	61	57	61	52	74	740
耳鼻咽喉科	41	39	47	50	51	54	49	43	50	50	44	54	572
精神・神経科	45	35	44	29	7	26	55	14	46	40	8	21	370
麻酔科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
救急科	10	13	10	18	26	4	13	16	10	10	6	10	146
歯科・口腔外科	13	7	17	16	13	11	9	14	17	12	17	17	163
その他	14	9	12	10	13	15	16	9	11	16	8	14	147
合計	702	618	712	708	724	616	716	643	760	637	614	756	8,206

■　薬剤・輸血関連実績

内訳	件数等
処方せん枚数（枚）	外　　来：　382,618　／　入　　院　：　261,682
入院注射薬調製件数（件）	抗がん剤：　9,920　／　一般注射薬：　79,836
外来注射薬調製件数（件）	抗がん剤：　19,600　／　抗体製剤　：　10,567　／　一般注射薬：　11,321
薬剤管理指導件数（件）	33,822
輸血用血液製剤使用数（単位）	52,630
輸血検査件数（件）	84,531

■　画像・検体・生理機能検査実績

内訳	件数
単純撮影（健診含む）	153,382
CT（健診含む）	59,506
MRI（健診含む）	30,041
超音波検査（健診含む）	32,313
核医学　PET＋SPECT	11,759
IVR（画像下治療）＋血管造影	3,756
検体検査（輸血検査含まず）	8,972,170
生理機能検査	97,896

■　公開講座・講演会・セミナー

診療科・部門	名称	開催場所	開催日
呼吸器内科	Total Allergist Meeting 成人重症喘息の治療戦略	Web	2021/4/9
	KAC カンファレンス 第 8 回 2030 年に向けた我が国の免疫アレルギー疾患研究戦略をいかに活用するか	Web	2021/4/21
	喘息治療新時代の幕開け	Web	2021/6/10
	Total Allergist Meeting アレルギー性喘息の治療戦略	Web	2021/6/18
	アレルギー疾患スキルアップセミナー	Web	2021/7/10
	KAC カンファレンス 第 9 回鼻アレルギー診療ガイドライン第 9 版改訂の向こうに見えたもの	Web	2021/7/14
	ウェブ講義と参加者メーリングリストを複合した参加型教育システム構築（全 6 回）	Web	2021/7/20, 2021/8/19, 2021/9/16, 2021/10/14, 2021/11/18, 2021/12/16

	喫煙防止教育講演	新宿区立四谷第六小学校	2021/9/6
	アレルギー疾患 Forum-抗体製剤の可能性-	Web	2021/9/16
	呼吸器疾患診療パートナリングの会	Web	2021/9/21
	COVID-19 禍における大学病院とクリニックの呼吸器疾患診療を考える会	Web	2021/10/11
	KAC カンファレンス 第 10 回アレルギー性結膜炎と環境因子	Web	2021/10/13
	肺癌診療連携の会	Web	2021/10/29
	Severe Asthma Management WEB Seminar in 多摩	Web	2021/11/11
	心と体の健康	Web	2021/12/17
	東京都がん教育	都立中野高校	2021/12/23
	KAC カンファレンス 第 11 回アトピー性皮膚炎と花粉症の最近の話題：小児における特徴	Web	2022/1/12
	Xolair First SUMMIT	Web	2022/1/22
	重症喘息治療 Up to date in 西多摩	Web	2022/2/18
	Xolair Second SUMMIT	Web	2022/2/27
	LFA 食物アレルギーと共に生きる会	Web	2022/2/27
	好酸球性重症喘息講演会	Web	2022/3/4
	New wave of triple therapy in asthma	Web	2022/3/25
循環器内科	第 8 回循環器疾患における診療連携を促進する会	トラストシティカンファレンス丸の内	2021/11/16
消化器内科	腸内細菌を語る会 in 鹿児島	Web	2021/7/16
	第 2 回新都心ネットワークを作る会	Web	2021/11/19
	2021 年消化管最新医療フォーラム in Tokyo	Web	2021/11/29
	大切な日常を守るための B 型肝炎講座	Web	2021/12/4
	第 3 回福岡医勤務医会学術講演会	Web	2021/12/15
	第 8 回信濃町 IBD コンソーシアム	Web	2022/2/26
	信濃町胆膵カンファレンス	Web	2022/3/4
腎臓・内分泌・代謝内科	第 21 回 BRB Nephrology Conference	Web	2021/4/3
	腎臓が関連する「むくみ」	Web	2021/5/19
	高血圧診療の新しい試み	Web	2021/7/14
	第 13 回 JHN セミナー Generalist のための糖尿病	Web	2021/8/21
	最適な血圧マネジメントを考える会	Web	2021/8/31
	糖尿病治療標的としての NAD 生物学の意義を考える研究会	Web	2021/9/3
	RETINO DOMINO Conference	Web	2021/9/8

	腎臓病懇談会	Web	2021/9/28
	第 22 回 BRB Nephrology Conference	Web	2021/10/2
	インスリン発見 100 周年記念　東京都区西部糖尿病公開講座	Web	2021/10/23
	第 8 回循環器疾患における診療連携を促進する会	Web	2021/11/6
	腎臓病診療の新たなキープレイヤーSGLT2 阻害薬	Web	2021/11/8
	糖尿病重症化予防を考える会	Web	2021/11/8
	アルドステロン症と高血圧の近未来	Web	2021/11/10
	高血圧 Web Seminar	Web	2021/11/18
	高血圧疾患啓発講演会	Web	2021/11/24
	杉並内科医会 杉並区糖尿病医療連携会	Web	2021/11/29
	高血圧診療の未来に向けた試み	Web	2022/1/18
	日野市医師会学術講演会	Web	2022/2/1
	糖尿病地域連携セミナー	Web	2022/2/7
	内分泌アゴラ	Web	2022/2/16
	Diabetes Online Seminar	Web	2022/2/24
	Diabetes Chronic Kidney Disease Seminar in 西新宿	Web	2022/3/9
	DUAL Seminar in Tokyo	Web	2022/3/14
	最新の腎臓病診療 DAPA-CKD 結果を中心に	Web	2022/3/21
神経内科	新潟県医師会生涯教育講座	Web	2021/4/15
	パーキンソン病の地域包括ケア	Web	2021/5/13
	「函館内科会」学術講演会	Web	2021/6/28
	片頭痛講演会	Web	2021/7/8
	実地医家のための認知症懇話会	Web	2021/9/9
	地域包括ケアのためのパーキンソン病 WEB セミナー	Web	2021/10/14
	パーキンソン病研究会 in 足利	Web	2021/11/11
	脳卒中 total care web seminar	Web	2021/12/13
	パーキンソン病治療における多職種連携 Web セミナー	Web	2021/12/14
	東京都薬剤師会診療所例会	Web	2022/1/26
血液内科	KYMRIAH WEB SEMINAR IN KANTO	Web	2021/11/18
リウマチ・膠原病内科	第 2 回リウマチセミナー in 大分	Web	2021/5/28
	慶應義塾大学関連病院会 2021 年春季総会	Web	2021/5/29
	第 5 回宮崎県アクテムラ学術講演会	Web	2021/6/8
	第 65 回多摩リウマチ研究会	Web	2021/6/12
	長崎 IL-6 エキスパートセミナー	Web	2021/6/23
	第 61 回関東リウマチ研究会	Web	2021/7/3
	東京 AOSD セミナー	Web	2021/7/7

	県北リウマチネットワーク研究会	Web	2021/7/15
	群馬リウマチアカデミー	Web	2021/9/14
	日本リウマチ友の会さいたま支部　特別講演	埼玉県障害者交流センター	2021/11/6
	第 6 回北播磨アカデミー	Web	2021/11/12
	第 23 回堺市リウマチ病診連携の会	Web	2021/11/13
	仙台リウマチ Area Web Seminar	Web	2021/11/24
	Keio Rheumatology Expert meeting	Web	2021/11/26
	第 2 回 東北 炎症・免疫セミナー	Web	2021/11/30
	名古屋膠原病を考える会	Web	2021/12/2
	市民公開講座	富山国際会議場 メインホール	2021/12/19
	Treat to Thrive in 四谷	Web	2021/12/21
	Treat to Thrive in 品川	Web	2022/2/10
	多摩地区女性リウマチオンラインミーティング	Web	2022/3/1
	島根県膠原病リウマチカンファレンス	Web	2022/3/11
	第 6 回福井リウマチ研究会	Web	2022/3/12
総合内科	総合診療セミナー	Web	2021/4/30
	第 1 回 KEIO ジェネラリストセミナー	Web	2021/6/24
	第 2 回 KEIO ジェネラリストセミナー	Web	2021/9/16
	第 3 回 KEIO ジェネラリストセミナー	Web	2021/10/7
	第 4 回 KEIO ジェネラリストセミナー	Web	2021/12/6
	第 5 回 KEIO ジェネラリストセミナー	Web	2022/1/14
	総合診療 Web セミナー	Web	2022/2/7
一般・消化器外科	第 6 回肝臓内視鏡外科ミーティング	Web	2021/5/8
	Online Keio Surgery Career Development Seminar Program	Web	2021/6/4
	第 7 回東京肝硬変・肝不全研究会	Web	2021/6/5
	肝がんクラスター講演会 2021	Web	2021/6/30
	Tokyo Sepsis Forum 2021	Web	2021/7/27
	Online Keio Surgery Career Development Seminar Program	Web	2021/10/8
	The 10th Chugai Oncology Seminar in Shinanomachi	Web	2021/11/10
	第 11 回東京周術期管理講演会	Web	2021/12/21
	外科フォーラム 2022	Web	2022/1/15
呼吸器外科	【国立病院機構函館病院】合同教育講座	独立行政法人国立病院機構函館病院	2021/10/8
	交詢社 公開医療講座	区立築地社会教育会館	2021/11/17

	アジアパシフィック向け講演（エチコン）第 1 弾	Web	2022/2/22
	中外製薬 web 講演会	Web	2022/2/28
	アジアパシフィック向け講演（エチコン）第 2 弾	Web	2022/3/1
	日本向け Webinar	Web	2022/3/8
心臓血管外科	エリア WEB ハートセミナー	Web	2021/6/8
	信濃町先天性心臓手術研究会	Web	2021/6/12
	Heart Disease Web Seminar	Web	2021/6/22
	信濃町 CARDIOVASCULAR SURGERY 研究会	Web	2021/7/17
	Heart Disease Web Seminar	Web	2021/8/24, 2021/9/14
	Cardiovascular Surgery Expert Web Meeting　～エキスパートに聞く基礎中の基礎～	Web	2021/10/15
脳神経外科	Expert Web Seminar	Web	2021/7/13
	Neurosurgery Update Seminar	Web	2021/8/25, 2021/8/31, 2021/12/14
	手術用顕微鏡 ORBEYE Web セミナー	Web	2021/9/15
	Neurosurgery Expert Web Seminar	Web	2021/10/1, 2022/2/5
	脳腫瘍 Total Care Web Seminar	Web	2021/11/9
	第 25 回 KNC 脳疾患研究会	Web	2021/11/13
	てんかん診療連携カンファレンス	Web	2022/1/12
	信濃脳腫瘍セミナー	Web	2022/1/22
小児外科	信濃町小児がんクラスター講演会	Web	2022/2/18
整形外科	脊椎外科若手の会	Web	2021/4/3
	東京都整形外科勤務医会学術講演会	ベルサール新宿グランド	2021/4/6
	アミロイドーシスセミナー	Web	2021/4/15
	Orthopedics network Meeting	Web	2021/4/16
	手外科懇話会	Web	2021/4/21
	柏市整形外科医会学術講演会	ザ・クレストホテル柏	2021/4/30
	アントレプレナー育成コース（修士）講義	Web	2021/5/18
	第 3 回高齢者医療オンラインセミナー	Web	2021/5/27
	Keio Spine Research Group 総会	Web	2021/5/29
	骨粗鬆症 WEB 講演会	Web	2021/6/1
	Osteoporosis Web seminar in 静岡	Web	2021/6/2
	全国脊髄損傷患者連合会京都府総会講演	Web	2021/6/5
	第 4 回文教脊椎・関節ロマンの世界	Web	2021/6/19

	第 12 回青江肩関節研究会	Web	2021/6/26
	TERAKOYA　関節アセスメント研修会	Web	2021/6/26
	第 34 回港区整形外科病診連携の会	Web	2021/7/1
	第一三共講演会	Web	2021/7/2
	Orthopedics network Meeting	Web	2021/7/9
	Kanto Osteoporosis Update Conference 2021	Web	2021/7/15
	Think About Diagnosis Web セミナー	Web	2021/7/16
	第 26 回肩関節手術研究会	Web	2021/8/21
	信濃町上肢の外科セミナー	Web	2021/9/2
	ヘルスケア・イノベーションの国際展開のこれから	Web	2021/9/15
	城南上肢外科 Web Seminar	Web	2021/9/16
	Think About Diagnosis	Web	2021/9/17
	Shionogi Pain Management Sessions	Web	2021/9/28
	心アミロイドーシス診療の最前線	Web	2021/9/30
	リウマチ診療を考える会	Web	2021/10/2
	Orthopedics Total Care Web	Web	2021/10/11
	Bio Japan セミナー	Web	2021/10/13
	全国脊髄損傷患者連合会北越ブロック総会講演	Web	2021/10/24
	最小侵襲脊椎治療学会ランチョンセミナー2	Web	2021/10/29
	Saitama Osteoporosis Update Seminar 2021	Web	2021/11/4
	若手骨粗鬆症勉強会	Web	2021/11/8
	アステラス製薬社内研修会	Web	2021/11/12
	横浜運動器未来創生セミナー	Web	2021/11/13
	手外科医のための末梢神経障害 web セミナー	Web	2021/11/18
	第 21 回武蔵野運動器リハビリ研究会	Web	2021/11/18
	メディカル・スタッフのための脆弱性骨折予防を治療スキルアップセミナー	Web	2021/11/18
	第 4 回首都圏 web セミナー-整形外科シリーズ-	Web	2021/11/19
	第 93 回慶應義塾大学整形外科公開セミナー	Web	2021/11/20
	Pre-KEIO TECHNO-MALL 2021	Web	2021/11/22
	SaMD セミナー	Web	2021/11/22
	脊椎外科医が考える骨粗鬆症治療戦略	Web	2021/11/24
	pain live symposium	Web	2021/11/26
	科技ハブシンポジウム	Web	2021/12/1
	信濃町 KHRG web seminar	Web	2021/12/4
	第 38 回　阪大医療組織工学フォーラム	Web	2021/12/10
	第 9 回 JAPSAM PRP・幹細胞研究会	Web	2021/12/11

	再生医療特論	Web	2021/12/27
	第 12 回御茶ノ水運動器疾患セミナー	Web	2022/1/5
	整形外科医のためのリウマチ診療セミナー	Web	2022/1/12
	第 3 回日本脊椎外傷フォーラム	Web	2022/1/15
	骨粗鬆症を考える会	Web	2022/1/19
	膝と骨粗鬆症の未来を語る会	Web	2022/1/21
	浜松医科大学尖端医学シンポジウム	Web	2022/1/21
	KSG 研究会	Web	2022/1/22
	Social Impact Day 2021	Web	2022/1/24
	第 5 回東京膝をつつく会	Web	2022/1/25
	第一三共講演会	Web	2022/1/25
	第 4 回川崎運動器フォーラム	Web	2022/1/27
	テリボン 10 周年記念オンライン講演会	Web	2022/1/28
	Pain Management Web Seminar	Web	2022/2/4
	Pain Joint Conference	Web	2022/2/4
	東京コンソーシアムイベント	Web	2022/2/9
	つなぐセミナー ～骨粗鬆症診断懇話会～	Web	2022/2/17
	Fenestrated Screw セミナー	Web	2022/2/18
	RINK フェスティバル	Web	2022/2/18
	脊椎手術と骨粗鬆症を考える会	Web	2022/2/25
	テリボン 10 周年記念オンライン講演会	Web	2022/2/25
	シオノギ Web カンファレンス	Web	2022/3/3
	テリボン 10 周年記念オンライン講演会	Web	2022/3/4
	第 2 回アステラスオープンフォーラム	Web	2022/3/4
	第 7 回橋渡し研究 戦略的推進プログラム シンポジウム	Web	2022/3/9
	第一三共講演会	Web	2022/3/10
	信州疼痛マネジメント	Web	2022/3/14
	骨粗鬆症治療を考える	Web	2022/3/17
	Orthopedics web セミナー	Web	2022/3/18
	第 8 回大分運動器医療セミナー	Web	2022/3/26
リハビリテーション科	リハビリテーション懇話会	Web	2021/7/10
	痙縮治療 Meet The Expert	Web	2021/9/10, 2021/10/15, 2021/11/8
	痙縮治療エキスパートセミナー	Web	2021/9/29, 2021/10/7

	北陸脳卒中リハビリテーションセミナー	Web	2021/10/13
	第 18 回 JKT がんリハビリテーションフォーラム	Web	2021/10/16
	臨床筋電図・電気診断学入門講習会	Web	2021/10/23
	がんリハビリテーション講演会	Web	2021/11/20
	ＡＤＬ評価法講習会	Web	2021/11/27
	第 6 回関東地区リンパ浮腫連携検討会	Web	2021/12/18
	東京都地域リハビリテーション支援事業研修会	Web	2022/1/19
	東京都高次脳機能障害支援普及事業-専門的リハビリテーションの充実事業-研修会	Web	2022/2/12, 2022/3/1~ 2022/3/20, 2022/3/23
	リンパ浮腫講演会	Web	2022/3/5
形成外科	口唇口蓋裂のチームアプローチと治療方針に関する第 39 回研究会	Web	2021/7/21
	口唇口蓋裂のチームアプローチと治療方針に関する第 40 回研究会	Web	2022/1/19
	褥瘡対策セミナー	Web	2022/1/28
小児科	第 22 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/4/7
	Kymriah meeting	Web	2021/4/21, 2021/5/19, 2021/6/16, 2021/7/21, 2021/8/18, 2021/9/15, 2021/10/18, 2021/11/17, 2021/12/15,
	第 23 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/4/28
	第 21 回京浜新生児医療懇話会フレッシュパーソンセミナー	Web	2021/5/15
	第 24 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/5/26
	メラトベル発売 1 周年記念 オンライン講演会	Web	2021/6/3
	Pediatric Epilepsy Educational Seminar	Web	2021/6/9
	令和 3 年度 小児科後期研修医症例報告会	Web	2021/6/22
	上州エコーセミナー	Web	2021/6/23
	第 25 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/6/23
	Child TV 血友病	Web	2021/6/30
	横浜市青葉区民生委員児童委員協議会 講演会	Web	2021/7/2

	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）	Web	2021/7/3, 2021/9/20, 2021/12/4, 2021/12/18, 2022/3/5
	国立障害者リハビリセンター生涯発達講義	国立障害者リハビリセンター	2021/7/7
	てんかん治療 Education Web Seminar	Web	2021/7/9
	第 26 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/7/14
	小児呼吸器セミナー	Web	2021/7/17~ 2021/7/25
	キリスト教保育連盟関東部会「保護者様のための講演会」	Web	2021/7/29
	血友病 web セミナー	Web	2021/7/29
	イロクテイト Webinar	Web	2021/8/4
	第 27 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/8/18
	第 5 回 Keio Child Neurology Network	Web	2021/9/3
	ピヨピヨ保育園 第 2 回子育て講演会	Web	2021/9/4
	令和 3 年度 小児科研究講演会	Web	2021/9/7
	相模原市小児科医会学術講演会	Web	2021/9/15
	第 28 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/9/22
	第 7 回 若手医師のための小児呼吸器ワークショップ	Web	2021/9/23
	血友病治療検討会	Web	2021/9/27
	小児 SMA Conference in Tokyo	Web	2021/10/2
	第 31 回 東京循環器小児科治療 Agora	Web	2021/10/2
	第 53 回日本小児感染症学会総会・学術集会	Web	2021/10/9~ 2021/10/10
	ICD 講習会	Web	2021/10/10
	連合三田会 2021 「医学部セミナー」	Web	2021/10/17
	児童虐待防止推進月間啓発講演会	Web	2021/10/18
	WEB 講師招聘勉強会	Web	2021/10/18
	第 29 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/10/21
	第 25 回ディベロップメンタルケアベーシックセミナー	Web	2021/10/31
	第 62 回日本熱帯医学会大会	Web	2021/11/3~ 2021/11/5
	第 30 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/11/17
	第 8 回周産期救急医療連絡会	Web	2021/11/18

	ママとパパのための離婚講座	Web	2021/11/18
	国立病院機構 関東信越グループ感染管理担当者会議講演会	Web	2021/12/3
	第 2 回 埼玉先天性心疾患懇話会	Web	2021/12/3
	小児血液腫瘍症例検討会	Web	2021/12/4
	Pediatrics　-Meet the Professional-	Web	2021/12/6
	日本 LD 学会第 30 回大会	Web	2021/12/10
	さいたま血友病連携懇話会	Web	2021/12/13
	第 31 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2021/12/16
	第 63 回長野小児循環器懇話会	Web	2021/12/18
	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班第 10 回市民公開講座	Web	2021/12/19
	第 678 回日本小児科学会東京都地方会講話会	Web	2022/1/8
	第 11 回 KAC カンファレンス	Web	2022/1/12
	Step up 脳波 1,2,3～Episode2	Web	2022/1/14
	第 32 回慶應感染班勉強会（症例検討会）	Web	2022/1/19
	転換性障害勉強会	Web	2022/1/20
	保護者講座	Web	2022/1/20
	第 72 回広島小児循環器研究会	Web	2022/2/5
	第 7 回内分泌アゴラ	Web	2022/2/16
	第 31 回日本乳幼児医学・心理学会	Web	2022/2/19
	第 13 回 Sedation Essence in Children Under Restricted Environment(SECURE)コース	Web	2022/2/19
	第 679 回日本小児科学会東京都地方会講話会	Web	2022/2/19
	第 6 回 Keio Child Neurology Network	Web	2022/3/5
	SYNAGIS National Symposium 2022	Web	2022/3/5
	Step up 脳波 1,2,3～Episode3	Web	2022/3/7
	第 680 回日本小児科学会東京都地方会講話会	Web	2022/3/12
産科	第 12 回岡山大学大学院保健学研究科公開セミナー	Web	2021/6/19
	ホルモンエキスパートセミナー（北海道開催）	Web	2021/7/13
	第 15 回東京産婦人科臨床フォーラム	Web	2021/9/5~ 2021/9/11
	ホルモンエキスパートセミナー（東北開催）	Web	2021/10/13
	第 66 回日本生殖医学会・共催スポンサードセミナー	Web	2021/11/11
	レルミナ錠 40mg WEB 講演会	Web	2021/11/24
	第 109 回日本泌尿器科学会総会　市民公開講座	Web	2021/12/11
	第 43 回日本エンドメトリオーシス学会・共催ランチ	Web	2022/1/22

	ョンセミナー		
	COVID-19 禍における周産期医療現場でのデジタルツール活用	Web	2022/2/4
婦人科	GTS 腹腔鏡豚ラボセミナー	コヴィディエン川崎ラボ	2021/4/10
	第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会	Web	2021/04/22~2021/04/25
	日本産科婦人科学会ランチョンセミナー	Web	2021/4/23
	Takeda Ovarian Cancer Web Seminar	Web	2021/5/17
	慢性便秘症 Clinical Conference Seminar	Web	2021/5/18
	第 329 回米沢市産婦人科集談会	Web	2021/5/19
	慢性便秘症 Web セミナー	Web	2021/5/26
	築地婦人科手術セミナー	Web	2021/6/4
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術セミナー	Web	2021/6/13
	北海道女性医療フォーラム	Web	2021/6/18
	月経困難症 Web セミナーin Tokyo	Web	2021/6/30
	伊勢崎産婦人科セミナー	Web	2021/7/3
	第 3 回ギネラパ 48	Web	2021/7/5
	Women's Health Net Forum	Web	2021/7/9
	第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	Web	2021/07/16~2021/07/30
	第 272 回広島県東部産婦人科医会学術講演会	Web	2021/7/29
	Japan Team Oncology Program 2021 Project ECHO ONE	Web	2021/8/2
	ジェミーナ配合錠オンライン講演会	Web	2021/8/11
	Japan Cancer Forum	Web	2021/8/21~2021/8/22
	セプラフィルムショートレクチャー	Web	2021/8/25
	日本産科婦人科内視鏡学会ランチョンセミナー	Web	2021/9/11~2021/9/12
	第 398 回東京産婦人科学会例会	Web	2021/9/24~2021/9/30
	第 4 回ギネラパ 48	Web	2021/9/27
	岡山県西部地区産婦人科研究会産婦人科研修会	Web	2021/10/21
	道北産婦人科医会 10 月学術講演会	Web	2021/10/25
	慢性便秘症治療セミナー	Web	2021/10/26
	Takeda Expert e-Conference in Gynecology	Web	2021/11/2
	GETS セミナー	Web	2021/11/14

	E-MASTERCLASS ウェビナーシリーズ	Web	2021/11/19
	第 4 回北関東 3 県合同婦人科若手ビデオカンファレンス	Web	2021/11/26
	慢性便秘症 Clinical Conference Seminar	Web	2021/11/30
	第 4 回兵庫県婦人科内視鏡セミナー	Web	2021/12/8
	Zejula 1st Anniversary Web Seminar	Web	2021/12/13
	Meet The Expert	Web	2021/12/16
	第 41 回日本妊娠高血圧学会学術集会	Web	2021/12/24~ 2021/12/25
	Sarcoma Web Conference	Web	2022/1/17
	第 5 回 NC-GYN 症例検討会	Web	2022/1/19
	Takeda Ovarian Cancer Web Seminar	Web	2022/1/24
	女性のからだ座談会	Web	2022/1/26
	第 2 回婦人科合併症セミナー	Web	2022/1/28
	とちぎ産婦人科内視鏡研修会	Web	2022/2/12
	患者・市民向け HBOC ガイドライン(仮称)の質問&回答に関する意見交換会　第 1 回	Web	2022/3/1
	患者・市民向け HBOC ガイドライン(仮称)の質問&回答に関する意見交換会　第 2 回	Web	2022/3/7
眼科	第 4 回慶應眼科臨床懇話会	Web	2022/2/17
皮膚科	皮膚免疫癌研究会	Web	2021/5/20
	関東臨床皮膚疾患研究会	Web	2021/10/7
	信濃町臨床皮膚疾患懇話会	Web	2021/10/28
	東京皮膚疾患セミナー	Web	2022/2/10
	皮膚免疫癌研究会	Web	2022/3/24
泌尿器科	第 109 回日本泌尿器科学会総会市民公開講座	Web	2021/12/11
耳鼻咽喉科	Head＆Neck MASTERCLASS Web Seminar	Web	2021/4/20
	令和 3 年度慶耳会学術講演会	Web	2021/5/29
	多摩地区鼓膜再生サミット	Web	2021/6/30
	第 1 回 ERA・ERP 研究会	Web	2021/7/4
	第 3 回慶應耳鼻咽喉科手術手技研究会	AP 品川	2021/7/17
	甲状腺がん治療 WEB カンファレンス	Web	2021/7/26
	WEB 気管切開座談会	Web	2021/7/30
	オーティコン国際シンポジウム 2021	Web	2021/8/21
	第 6 回東北耳科研究会	Web	2021/8/28
	アレルギー疾患 Forum～抗体製剤の可能性～	Web	2021/9/16
	第 12 回日本耳鼻咽喉科心身医学研究会	Web	2021/10/30

	令和３年度教室総会	Web	2021/11/3
	第 20 回ＥＮＴ病診連携カンファレンス	Web	2021/11/17
	第 18 回臨床懇話会	Web	2022/1/15
	頭蓋底センターWEB セミナー	Web	2022/2/2
	令和３年度慶耳会学術講演会	Web	2022/2/5
	オンライン講演会　耳鼻科領域と亜鉛	Web	2022/2/9
	第 27 回東大・慶大ジョイントカンファレンス	Web	2022/2/24
精神・神経科	TBS 新人研修～働く上での「メンタルヘルス概論」	Web	2021/4/8
	第２回アドバイザリー会議（ボルチオキセチン Phase4 試験）	Web	2021/4/13
	葛飾区自殺対策講演会	Web	2021/4/14
	東京都医師会講演会	Web	2021/4/17
	m３サイト・インターネット講演会～イフェクサーSR の２特徴（導入時の忍容性・不安症状と意欲低下改善の可能性）を意識	Web	2021/4/19
	Medical Information Web 講演会	Web	2021/4/28
	日本精神科看護協会・研修会	Web	2021/5/7
	不眠診療 Meet the Expert～精神疾患に伴う不眠を考える～	Web	2021/5/12
	MDD Forum in 上越	Web	2021/5/20
	True Recovery Trintellix Speaker Meeting	武田薬品	2021/5/22
	第 13 回日本不安症学会学術大会	Web	2021/5/22~ 2021/6/21
	Meiji Seika ファルマ社内勉強会	Meiji Seika ファルマ	2021/5/28
	認知症家族介護講座	Web	2021/6/1
	2021 年度オンライン施設責任者・教室主催者の会	Web	2021/6/3
	Trintellix Expert Forum	渋谷区松濤スタジオ	2021/6/8
	Meiji CNS セミナーin 多摩	新宿 TKP カンファレンスセンター	2021/6/9
	イフェクサーSR5 周年 WEB 講演会	Web	2021/6/10
	ボルチオキセチン Phase4 試験　Investigator's Meeting	Web	2021/6/20
	Seeking for Long Term Success~統合失調症、双極性障害うつ治療を再考する～	Web	2021/6/25
	第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会	Web	2021/7/9
	共催セミナー9（ヴィアトリス製薬／大日本住友製薬）	Web	2021/7/9
	第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会	Web	2021/7/9

	日本うつ病学会市民公開講座	Web	2021/7/10
	Psychiatry Web Seminar	Web	2021/7/12
	第 28 回精神保健指定医研修会	AP 日本橋	2021/7/25
	リカバリーを目指した治療におけるエモーショナルブランティングの位置づけ、治療意義、エモーショナルブランティングの臨床像を講演	Web	2021/8/2
	自殺リスクの軽減と支援者のセルフケア	Web	2021/9/1
	精神疾患に伴う不眠症セミナー in Kawasaki	Web	2021/9/3
	最新精神医学セミナー	Web	2021/9/7
	京都ポジティブ心理・精神医療研究会	Web	2021/9/9
	第 19 回新都心・精神科臨床フォーラム	Web	2021/9/10
	TAKEDA PSYCHIATRY MEETING	Web	2021/9/15
	第 29 回脳の世紀シンポジウム	Web	2021/9/15
	第 117 回日本精神神経学会学術総会	国立京都国際会館	2021/9/19~ 2021/9/20
	Tokyo CNS Web Seminar	大日本住友製薬㈱東京本社	2021/9/30
	PSYCHIATRY EXPERT MEETING	Web	2021/10/2
	Otsuka Web Conference	Web	2021/10/6
	第 31 回日本臨床精神神経薬理学会	Web	2021/10/7
	日経 SGDs フォーラム 特別シンポジウム	Web	2021/10/12
	第 1 回カリフォルニア・マインドフルネス 週末リトリート	鎌倉	2021/10/12
	第 76 回兵庫県精神医療学術講演会	Web	2021/10/16
	イフェクサーSR Forum	Web	2021/10/20
	メンタルヘルス・マネジメントセミナー	Web	2021/10/21
	第 125 回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー	Web	2021/10/23
	医学教育会エモーショナルブランティングについて	武田グローバル本社	2021/10/25
	社内研修会	大日本住友製薬㈱東京本社	2021/10/27
	Expert Web Seminar～精神科領域～	Web	2021/10/29
	第 89 回岡山うつ病研究会学術講演会	Web	2021/10/29
	認知症三昧!山口塾 2021 第 6 回ポジティブ心理学	Web	2021/10/29
	第 43 回茨城医学会精神科分科会	Web	2021/11/3
	慶應義塾三田オープンカレッジ「未来の医療とヘルスケア-ICT・AI とビッグデータを活かす」	Web	2021/11/6
	TAKEDA Psychiatry Seminar	武田薬品 竹橋オフィス	2021/11/11
	イフェクサーSR Web 講演会	Web	2021/11/12
	看護師のセルフケア	青森県	2021/11/13

	expert psychiatry conference	Web	2021/11/16
	「いのちの電話」電話相談員全体研修会	Web	2021/11/17
	統合失調症における適切なドパミン受容体遮断 – そしてAMPA受容体研究へ	Web	2021/11/19
	第22回てんかん包括医療東北研究会	Web	2021/11/20
	精神障害者と家族のための市民公開講座	Web	2021/11/21
	令和3年度精神科薬物療法認定薬剤師講習会	Web	2021/11/21
	双極性障害の課題～診断とアドヒアランス～	TKP 新宿西口カンファレンスセンター	2021/11/24
	第25回 Smart Wellness City 首長研究会	筑波大学東京キャンパス文京校舎	2021/11/25
	令和3年度　精神神経科連携セミナー	院内	2021/12/2
	第66回岡山統合失調症研究会	Web	2021/12/2
	第25回東京武蔵野病院学術交流会	東京武蔵野病院	2021/12/5
	True Recovery Interactive Special Meeting in Tokyo	武田薬品	2021/12/8
	Neuroscience-based Nomenclature: update and challenges	Web	2021/12/9
	第19回看護フェスタ講演会	Web	2021/12/12
	第30回精神保健指定医研修会	AP日本橋	2022/1/9
	Psychiatry Web Forum	Web	2022/1/12
	Psychiatry Web Seminar	Web	2022/1/18
	日本産業衛生学会産業保健プロフェッショナルコース	Web	2022/1/23
	ソニークリニカルサミット	Web	2022/1/28
	トリンテリックス Web Seminar in Saitama	Web	2022/2/17
	MDDフォーラム in 徳島 ～トリンテリックス発売2周年記念講演会～	徳島市内ホテル・AP市ヶ谷	2022/2/18
	統合失調症における適切なドパミン受容体遮断 – そしてAMPA受容体研究へ	Web	2022/2/22
	精神疾患を地域で考える	Web	2022/2/22
	トリンテリックス発売2周年記念講演会 in 山陰	Web	2022/2/28
	True Recovery Trintellix Meeting	Web	2022/3/4
	厚生労働省事業遠隔医療従事者研修「あの人に聞こうエキスパート対談」	Web	2022/3/6
	トリンテリックス2周年講演会 in 東北	Web	2022/3/14
	第4回CREST「人工知能」領域成果展開シンポジウム	Web	2022/3/14
	令和3年度 ワークライフ・サポートセミナー	Web	2022/3/15
	新瑞橋精神神経セミナー	Web	2022/3/17

	これからの企業と従業員の健康づくりと DX の視点	Web	2022/3/18
	うつ病治療 全国講演会	Web	2022/3/24
	オープンイノベーション機構の整備事業シンポジウム	Web	2022/3/29
	新潟精神医学懇話会	Web	2022/3/29
麻酔科	周術期循環輸液管理セミナー	Web	2021/8/20
	令和 3 年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	Web	2021/8/28, 2021/9/26
	周術期循環輸液管理セミナー	Web	2021/9/17
	低侵襲治療最前線 in 愛媛	愛媛大学病院	2021/9/30
	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	院内	2021/10/16, 2021/11/20
	慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー	Web	2021/10/23
	第 12 回城西緩和ケア講演会	Web	2021/11/11
	TAVI 麻酔ワークショップ	済生会横浜市東部病院	2022/1/14
	第 6 回 Supportive Care Conference	Web	2022/2/16
	Pain Research Conference	Web	2022/2/28
救急科	第 35 回日本ショック学会	Web	2021/5/21~ 2021/5/22
	慶應外傷症例検討会	Web	2021/7/2, 2021/12/10, 2022/3/4
	四谷署合同救急医療検討会	Web	2021/9/3, 2022/2/7
臨床検査科	KEMS	Web	2021/10/30
	慶應血液検査研究会	Web	2022/2/26
感染症外来	今日は世界手洗いの日です!きちんと手を洗っていますか?	Web	例年 10 月
	いま急増する呼吸器感染症　「肺 NTM 症」ってどんな病気？	Web	2021/11/6
予防医療センター	予防医療センター　地域連携セミナー	Web	2021/9/27
内視鏡センター	内視鏡合同カンファレンス	Web	2021/6/9, 2021/7/7, 2021/9/15, 2021/11/10, 2021/12/8, 2022/2/2, 2022/3/2
	第 26 回慶應義塾大学内視鏡懇談会	Web	2022/1/8

	第 11 回信濃町内視鏡フォーラム	Web	2022/1/19
腫瘍センター	市民講座	Web	2022/3/7
歯科・口腔外科	口腔がん Web セミナー	Web	2021/12/23
血液浄化・透析センター	CKD-MBD 交流会	Web	2021/9/14
	東京腎疾患フォーラム	Web	2021/12/16
	CKD ワークショップ	Web	2021/12/21
スポーツ医学総合センター	Medtronic academy	Web	2021/4/9
	高校生進路講習会	浦和高校	2021/4/28
	日本損害保険協会 2021 年度医療講習	Web	2021/5/13
	高校生メディカル講習会	浦和高校	2021/6/24
	K.O. Arrhythmia	Web	2021/9/2
	三井住友海上保険【専門力強化プログラム】医療研修	MS&AD 駿河台本館	2021/11/9
	校内マラソン大会　医科学セミナー	ふじみ野高校	2021/11/19
	北九州不整脈セミナー	Web	2021/11/24
	3rd Cardiology academy	Web	2021/12/1
	日本損害保険協会 2021 年度医療講習	Web	2021/12/2
	石川県医師会健康スポーツ医再研修会	Web	2022/1/29
	第 1 回　全日本テコンドー医科学セミナー	Web	2022/2/16
	日本損害保険協会 2021 年度医療講習	Web	2022/2/3
漢方医学センター	女性医師のための漢方 WEB セミナーin 和歌山	Web	2021/4/17
	漢方医学を学びたい先生のためのＷＥＢ漢方シリーズ勉強会　プレミアムセミナー編	Web	2021/5/20, 2022/1/18
	漢方ネットワークフォーラム「動悸、息切れをテーマに」	Web	2021/8/28
	Generalist KAMPO Seminar	Web	2021/9/16
	Kampo Online Seminar	Web	2021/10/7
	北里東医研・慶應漢方医学センター合同カンファレンス	Web	2021/10/30
	福岡市中央区医師会学術共催セミナー	Web	2021/11/15
	兵庫県臨床漢方医会総会	Web	2022/2/20
	漢方家庭医講習会	Web	2022/3/6
メモリーセンター	第 55 回山梨核医学診療研究会	Web	2021/9/3
	認知症医療体制検討会	Web	2021/12/23
	AD 研究会画像診断サブコミッティ	Web	2022/2/5
看護部	Web CLIMB®プログラム	Web	2021/4/4, 2021/4/11, 2021/4/17,

			2021/9/26
	Web キッズ探検隊	Web	2021/7/10, 2021/12/25
	2021 年度　がん看護研修①～⑥	Web	2021/9/1~ 2021/11/30
	透析患者の病診連携を考える会	Web	2021/10/26
	長期療養児の病態と育ちの支援	Web	2021/10/30
	9S 会 Web セミナー	Web	2022/1/8
	教育相談支援と連携（協働）	Web	2022/1/29
	COVID-19 禍における周産期医療現場でのデジタルツール活用～慶應病院での新たな取り組み～	Web	2022/2/4
	信濃町フットケア講演会	Web	2022/2/9
薬剤部	がん薬物療法の地域医療連携セミナー	Web	2021/10/23
	がんゲノム医療人材育成講習	Web	2021/12/1
食養管理室	東京 NST 研究会	Web	2022/3/10
臨床研究推進センター	Women’s Mental care Forum in Tokyo	Web	2021/7/16
	地域精神保健症例検討会	新宿区四谷保健センター	2021/8/19
	三鷹市メンタルヘルスセミナー	Web	2021/10/19
	吉富薬品 Web 講演会	Web	2021/11/25
	第 2 回栃木県メンタルケアフォーラム	Web	2021/12/10
	就労プログラム講義	Web	2022/1/28
	Online Symposium on Women's Mental Health	Web	2022/3/12
	MDD Seminar 2022－うつの”認知”を考える	Web	2022/3/22
卒後臨床研修センター	第 25 回慶應義塾大学病院臨床研修指導医養成ワークショップ	Web	2021/8/27~ 2021/8/28
感染制御部	四谷第六小学校　感染対策指導	Web	動画配信
医療連携推進部	第 8 回　医療連携推進フォーラム	Web	2021/4/30
	WEB がん患者サロン	Web	2021/8/31, 2022/3/1
	第 20 回 JATCO 総合研修会	Web	2021/11/27
	WEB がん患者サロン	Web	2021/12/7
	がんを抱える患者さんとご家族が知っておくと便利なお金のこと	Web	2021/12/12
	令和 3 年度自殺未遂者ケア研修（一般救急版）	Web	2022/1/8
	がんと伴に生きる道～家で暮らしたいあなたと、コロナ禍も伴に歩む～	Web	2022/1/16
	第 9 回　医療連携推進フォーラム	Web	2022/1/28

	第 1 回　慶應産業保健研究会×慶應義塾大学病院　意見交換会	Web	2022/3/4
	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACE）	院内	2021/10/16, 2021/11/20
	令和 3 年度 自殺再企図防止のための救急患者精神科継続支援研修会	Web	2022/3/5~ 2022/3/6
医事統括室（腫瘍センター）	がんゲノム医療セミナー	Web	2021/4/27
	がんゲノム医療人材育成講習	Web	2021/5/19, 2021/7/21, 2021/9/22, 2021/12/1
	AYA 世代がん患者への支援-つなげよう支援の輪！がん生殖！	Web	2021/10/8
	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	院内	2021/10/16, 2021/11/20
	JBTA（日本脳腫瘍ネットワーク）情報交換会	Web	2021/10/24
	第 12 回城西緩和ケア講演会	Web	2021/11/11
	がんプロフェッショナルセミナー	Web	2021/12/11
	第 6 回 Supportive Care Conference	Web	2022/2/16
	2021 年度　東京都小児がん医療連携推進研修会	Web	2022/3/17

Ⅳ　診療科・部門の活動

＜ 診療科部門 ＞

呼吸器内科

1　診療体制

■ 対象疾患

慢性閉塞性肺疾患（COPD）/肺癌/気管支喘息/間質性肺炎/呼吸器感染症（肺炎、非結核性抗酸菌症、結核症、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、インフルエンザ）/睡眠時無呼吸症候群/胸膜中皮腫/肺血栓塞栓症/ニコチン依存症

■ 検査

スパイログラム（肺活量・フローボリュームカーブ）/ガス拡散能力（DL_{CO}）/呼気一酸化窒素(FeNO)測定/モストグラフ/終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査/気管支鏡/超音波気管支鏡ガイド下リンパ節生検(EBUS-TBNA)/CT ガイド下肺生検

■ 専門外来

禁煙外来/腫瘍センター外来/睡眠時無呼吸症候群外来/呼吸器感染症外来/アレルギーセンター外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
講師	4 名
助教(専修医を除く)	2 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	福永 興壱
診療科副部長	石井 誠
外来担当医長	川田 一郎
病棟担当医長	安田 浩之
保険担当医長	石井 誠
研修医担当主任	川田 一郎

2　主な診療実績

肺癌化学療法入院	約 600 件
在宅酸素療法・在宅持続陽圧呼吸療法導入	約 200 件
気管支鏡検査	約 200 件
CT ガイド下針生検	約 70 件

3　その他の活動実績・取り組み等

様々な呼吸器疾患分野の専門家を揃え、多様な医療ニーズに応える診療体制を整えている。COVID-19 への対応としては同疾患の専任診療チームを構築し、COVID-19 とその他の呼吸器疾患を分けて診療する体制を整えている。

特に肺癌、重症喘息、非結核性抗酸菌症・気管支拡張症に対しては、下記のように先進的な医療を提供するための取り組みを積極的に行っている。

肺癌患者に対しては、「がんゲノム中核拠点病院」である強みを生かし、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異検索と治療標的の有無評価を積極的に行う体制を構築している。さらに、呼吸器外科、放射線治療科と緊密な連携を行い、手術や放射線治療など適切な医療を迅速に提供している。

また、当院は「東京都アレルギー疾患専門病院」に指定され、当科は重症喘息や原因不明のアレルギー疾患の紹介・受診先となっている。アレルギーセンターの枠組みを通じて他科と緊密に連携し、重症喘息や他のアレルギー疾患の合併例において積極的な生物学的製剤の導入を行い、治療成果を挙げている。

非結核性抗酸菌症・気管支拡張症は現在患者数が増加している疾患であるが、既知の抗菌薬での効果が不十分な難治性の患者に対して治験や国際多施設共同研究が進行中である。

また、COVID-19 の診療・研究においては感染症学教室や臨床検査科をはじめとする多くの学内外の組織と連携した「コロナ制圧タスクフォース」を通じてアジア最大のバイオレポジトリを組織し、多くの研究成果を発信している他、罹患後症状に関する国内

最大規模調査にも取り組んでいる。

循環器内科

1　診療体制

■ 対象疾患

虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）/不整脈/心筋症/心不全/肺高血圧症/肺性心/感染性心内膜炎/心膜疾患/心アミロイドーシス/ファブリー病/サルコイドーシス/ブルガダ症候群/失神/弁膜症/先天性心疾患/大動脈疾患/高コレステロール血症/遺伝性心疾患

■ 検査・手術

12 誘導心電図(安静時、マスター運動負荷)/心エコー/経食道心エコー図(TEE)/心臓CT/心筋シンチ/心臓 MRI/遺伝子検査/心臓カテーテル検査/カテーテルアブレーション/心房中隔欠損症治療/閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術/弁膜症に対するカテーテル治療/慢性肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療/心臓電気生理学的検査/ペースメーカー/植込み型除細動器(ICD)/携帯型心電図記録伝送装置および伝送心電図ネットワーク

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	7 名
助教（専修医を除く）	14 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	福田 恵一
診療科副部長	佐野 元昭
外来担当医長	高月 誠司
病棟担当医長	湯浅 慎介
保険担当医長	金澤 英明
研修医担当主任	谷　英典

2　主な診療実績

TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）	197 件
経皮的冠インターベンション	267 件
カテーテルアブレーション	297 件
ペースメーカー・植込み型除細動器手術	153 件
経皮的心房中隔欠損閉鎖術	43 件
経皮的中隔心筋焼灼術	10 件
経胸壁心エコー検査	9,809 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 心臓カテーテル班

冠動脈治療においてロボット PCI、FFR-CT をはじめとする先進的治療をおこなっている。近年急速に発展している心構造疾患治療として、大動脈弁狭窄症に対する TAVI、僧帽弁閉鎖不全症に対する Mitra Clip、心房細動に対する左心耳閉鎖、心房中隔欠損、動脈管開存、卵円孔開存に対する閉鎖術、閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的心筋焼灼術など積極的な治療を行い、high volume center となっている。

■ 不整脈班

従来の経静脈リードのペースメーカーに加え、リードレスペースメーカーやヒス束ペースメーカーなど、また ICD では WCD や SICD なども最適な症例に適応している。カテーテルアブレーションでは Marshall 静脈に対する高周波通電やエタノール注入なども行っている。

■ 心機能班

経胸壁心エコー、経食道心エコー、3 次元エコー解析により、心臓外科の弁膜症手術、構造的心疾患に対するカテーテル治療の高度な術前適応診断、術中エコー検査等を実施している。

■ 難治性稀少疾患班

ファブリー病を含むライソゾーム病の酵素補充療法、心アミロイドーシスにおいては診断・治療の拠点病院となっている。肺動脈性肺高血圧症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術の実績は国内有数である。

消化器内科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜食道疾患＞

逆流性食道炎/食道癌/好酸球性食道炎(EoE)/食道アカラシア/食道けいれん/機能性胸焼け

＜胃・十二指腸疾患＞

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎/急性胃粘膜病変(AGML)/胃潰瘍/胃腺腫/胃癌/胃粘膜下腫瘍/機能性ディスペプシア(FD)/ 好酸球性胃腸炎（EGE）/十二指腸潰瘍/十二指腸腺腫/十二指腸癌/十二指腸乳頭部腫瘍/オッディ括約筋弛緩不全/消化管粘膜下腫瘍/特発性胃不全麻痺/蛋白漏出性胃腸症

＜小腸・大腸疾患＞

大腸ポリープ/大腸腺腫/大腸癌/大腸ポリポーシス/潰瘍性大腸炎(UC)/クローン病/腸管ベーチェット/好酸球性胃腸症/過敏性腸症候群(IBS)/腸閉塞(イレウス）/小腸癌/非特異性多発性小腸潰瘍/腸結核/出血性大腸炎/虚血性腸炎/大腸憩室炎/便秘症

＜肝疾患＞

肝機能障害/ウイルス性肝炎/非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)/肝硬変/肝細胞癌/薬剤性肝障害/自己免疫性肝炎(AIH）/原発性硬化性胆管炎(PSC）/原発性胆汁性肝硬変(PBC）/肝膿瘍/肝移植

＜胆膵疾患＞

総胆管結石/胆管炎/胆管癌/IgG4 関連胆管炎/原発性硬化性胆管炎/胆嚢ポリープ/胆石症/胆嚢腺筋症/胆嚢腫瘍/急性膵炎(重症膵炎含）/慢性膵炎/膵癌/膵内分泌腫瘍/膵嚢胞性疾患(IPMN、MCN、SCN)/自己免疫性膵炎

＜その他腫瘍性疾患＞

消化管間葉系腫瘍(GIST）/消化管悪性リンパ腫/MALT リンパ腫/粘膜下腫瘍/原発不明癌/軟部組織肉腫肝細胞癌/膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN）/神経内分泌腫瘍(NET)

■ 検査

上部消化管内視鏡/下部消化管内視鏡(大腸内視鏡)/膵胆道内視鏡(ERCP)/小腸内視鏡(バルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡)/超音波内視鏡(EUS)/EUS を用いた消化管外臓器腫瘍の針生検(EUS-FNA)/腹部超音波・CT・MRI/CT コロノグラフィー/MR エンテログラフィー/上部消化管 X 線造影/注腸造影/小腸造影/尿素呼気試験/食道 pH インピーダンスモニタリング/食道内圧測定/肝生検

■ 専門外来

IBD(潰瘍性大腸炎、クローン病)外来/肝臓専門外来/胆道・膵臓専門外来/内視鏡治療(ESD)外来/機能性消化管疾患外来/オンコロジー(腫瘍)外来/便秘外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	4 名
助教（専修医を除く）	4 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	中本 伸宏
診療科副部長	岩崎 栄典
外来担当医長	岩崎 栄典
病棟担当医長	褚　柏松
保険担当医長	中本 伸宏
研修医担当主任	谷木 信仁

2　主な診療実績

潰瘍性大腸炎外来患者数	2,321 人
クローン病外来患者数	773 人
ベーチェット病外来患者数	75 人
急性肝不全患者数	6 人
上部消化管内視鏡	11,488 件
下部消化管内視鏡	6,427 件
バルーン小腸内視鏡	255 件
カプセル内視鏡	68 件

内視鏡的胆管膵管逆行性造影(ERCP)関連処置	693 件
超音波内視鏡(EUS)検査	733 件
超音波内視鏡下生検(EUSFNA)	98 件
食道 ESD	109 件
胃 ESD	175 件
十二指腸 ESD	99 件
大腸 ESD	169 件
肝癌マイクロ派焼灼療法	110 件
外来化学療法件数	3,731 件
入院化学療法件数	364 件
経口抗がん剤処方	630 件
食道内圧検査	18 件
食道 pH インピーダンスモニタリング	2 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当科は上部消化管、下部消化管、消化器腫瘍、肝臓、胆膵、消化器内視鏡の 6 つの臨床診療の柱で構成されている。また、一般・消化器外科、腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門、放射線科、病理診断科との横断的な“クラスター診療”を特色とし、大学病院全体、関連病院、また基礎系教室とも緊密に連携を取り臨床・研究・教育に邁進している。

2021 年は COVID-19 感染拡大防止のための取組を行いながらも、「With コロナ」時代における当診療科の New Normal が構築を開始し、医療安全と倫理を守りながら、感染防御の徹底と、入院や外来診療体制や内視鏡診療体制の再構築維持、遠隔診療の導入などにより、初診患者や再診患者数の回復だけでなく、近隣施設、関連施設に限らず、全国より紹介患者が集まり、高度医療を提供する診療体制を維持している。

また、研究や教育の全ての面においても、金井隆典教授、診療科部長の中本伸宏准教授を中心に塾および病院の指導体制のもとで、スタッフや教室員の方々と綿密に連携を取りながら、遠隔会議や授業などの導入により、若手専修医、医学生教育の質および量を維持するとともに、塾内外の施設との連携による質の高い臨床や基礎研究のさらなる発展に努めてきた。様々な研究分野から日本を代表する科学者が横断的に結集した「コロナ制圧タスクフォース」において、慶應義塾医学部内科学として中心的な役割を担い、日本人における新型コロナウイルス感染症の重症化に関わる *DOCK2* 遺伝子多型の同定と更なる臨床応用やシステムの構築を目指しているところである。

■　上部消化管グループ

特色：食道内圧測定や 24 時間 pH インピーダンスモニタリングなどの上部消化管機能性疾患の診断と治療；機能性ディスペプシアや慢性便秘症・過敏性腸症候群；好酸球性消化管疾患；多剤耐性ピロリ菌の治療

実績：当グループは良性疾患診療をメインとし、外来診療に重心を有しているという特性上、COVID-19 パンデミックコントロールを目的とした自粛期間中、診療への影響を受けたが、外来受診者数も従来の患者数に戻りつつある。

■　下部消化管グループ

特色：炎症性腸疾患（IBD）をはじめとする難治性消化管疾患；IBD 診療に欠かせない高難度内視鏡精査と治療；IBD 関連発癌の診断と低侵襲から標準治療まで幅広い治療対応；既存の治療法で効果が不十分な難治の IBD 患者様に対する新規治療の開発と応用

実績：下部消化管グループの外来診療は、週 19 枠を開き、初診・再診の幅広い患者様を対応する体制を整えており、特に、土曜日外来は 7 名の専門医師が、就労・学業のため平日受診できない患者様に専門診療を提供している。2021 年度に当グループでは潰瘍性大腸炎に対する抗 IL-23/p19 製剤の risankizumab の Phase III 試験、抗 TL1A 抗体製剤（PF-06480606）の PhaseIIb 試験、クローン病に対する抗フラクタルカイン抗体(E6011)の早期第 II 相臨床試験、OCH 臨床第 I / II 相試験、などの治験を実施した。

■　消化器腫瘍グループ

特色：各種消化器関連腫瘍、神経内分泌腫瘍の診断と治療；クラスター横断的集学的治療；がんゲノム医療；新規治療の開発や複数の医師主導治験や介入研究の遂行

実績：消化器内科における外来化学療法件数は順調

に増加し、院内１位で推移している。COVID-19 流行中につき、必要な診療は継続するという病院の方針のもと、緊急事態宣言の間も 15%程度の診療縮小で乗り切ることができた。ゲノム診療元年(2019 年)から一年経過し、ゲノム診療の普及とともに患者申し出療養制度による薬物提供や、がんゲノム医療中核拠点病院、がん診療連携拠点病院（高度型）に指定されている当院においても大きい役割を担っている。

■ 肝臓グループ

特色：原発性硬化性胆管炎や自己免疫性肝炎をはじめとする難治性自己免疫性肝疾患；外科移植班と連携した急性・慢性肝不全治療；次世代マイクロ波焼灼療法による肝細胞癌治療；肝移植の適応外である重症型急性アルコール性肝炎の新規治療開発

実績：次世代マイクロ波システムを使用した肝細胞癌の局所療法において引き続き年間 150 例程度の症例数を維持している。COVID-19 流行によって入院が制限されている時期もあったが、2020 年では手術数・アブレーション数・血管内治療を合わせた肝細胞癌の治療症例数は全国 11 位と高い水準を維持している（『手術数でわかるいい病院 2021（朝日新聞出版)』より)。

■ 胆膵グループ

特色：各種胆膵関連内視鏡診断治療；膵炎後膿瘍ネクロセクトミーに必要な Lumen apposing metallic stent（Hot Axios）の認定施設；細経胆道鏡であるスパイグラス DS・水圧破砕装置 EHL の導入；小腸内視鏡を用いた水平脚、空腸への十二指腸ステント留置；放射線透視装置の更新によって被曝の軽減と視認性の向上が可能になった。内視鏡的乳頭切除術（EP）や急性膵炎、自己免疫性膵炎に関連する複数の全国レベルの臨床研究の主導。

実績：胆膵関連内視鏡検査は 2021 年度は胆道内視鏡で計 1400 件を超える処置を行っている。

消化器内視鏡グループ

特色：各種内視鏡検査と処置；低侵襲消化管がんの治療および開発；バルーン小腸内視鏡・カプセル内視鏡；内視鏡挿入や画像診断・人工知能を利用する新規技術の応用

実績：2020 年 3 月末から COVID-19 流行により内視鏡検査を一時中断していたが、再開後は昨年とほぼ同様の検査件数となっている。

腎臓・内分泌・代謝内科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜腎臓部門＞

検尿異常/ネフローゼ症候群/腎臓機能障害/急性腎障害(薬剤性腎障害、急性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎など)/慢性腎臓病(糖尿病性腎症、IgA 腎症、高血圧性腎硬化症、膠原病関連腎症、炎症性腸疾患関連腎症、血液透析・腹膜透析患者を含む)/シャント不全/電解質異常/代謝性アシドーシス・アルカローシス/遺伝性腎疾患(多発性嚢胞腎、アルポート症候群、ファブリィ病)

＜代謝部門＞

１型糖尿病/２型糖尿病/妊娠糖尿病/若年発症成人型糖尿病(MODY)/高尿酸血症/脂質異常症

＜内分泌部門＞

副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、バラガングリオーマなど)/下垂体疾患(下垂体腫瘍、下垂体機能低下症など)甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など)/原発性副甲状腺機能亢進症/膵内分泌腫瘍(インスリノーマ、ガストリノーマ、グルカゴノーマなど)

■ 検査

＜腎臓部門＞

腎臓生検/内シャントエコー/腹部超音波・CT・MRI/下肢静脈エコー

＜代謝部門＞

75g ブドウ糖負荷試験/持続血糖モニタリング/RR 間隔検査(心拍数変動検査）/ABI(Ankle Brachial Pressure Index)検査/PWV (Pulse Wave Velocity, 脈波伝播速度)/頸動脈エコー/グルコースクラン

プ検査/CGM(Continuous Glucose Monitoring / isCGM(intermittently scanned CGM)

＜内分泌部門＞

ホルモン検査/副腎静脈サンプリング(AVS)/甲状腺穿刺吸引細胞診/選択的動脈内 Ca 刺激下サンプリング検査(SACI)

■ 専門外来

シャント外来/腹膜透析外来/多発性嚢胞腎外来/内分泌外来/甲状腺外来/1型糖尿病・インスリンポンプ外来/フットケア外来/糖尿病・肥満外来

■ スタッフ構成（2022年3月時点）

教授	1名
准教授	1名
専任講師	4名
助教（専修医を除く）	15名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	伊藤 裕
診療科副部長	入江 潤一郎
外来担当医長	目黒 周
病棟担当医長	神田 武志
保険担当医長	林 香
研修医担当主任	山口 慎太郎

2　主な診療実績

■ 腎臓部門

腎臓病（原発性、二次性）、高血圧、透析患者の定期チェックの通院患者数は約4,000人。腎生検数は年間53例、年間透析導入患者数は血液透析患者数64例、腹膜透析導入患者数 8例、維持腹膜透析患者数 42 名。バスキュラーアクセス診療に関しては、バルーン拡張術（血栓除去含む）217件、長期留置型カテーテル挿入10例・抜去2例。年間入院患者数は約300症例。

■ 内分泌代謝部門

内分泌代謝疾患（1型糖尿病、2型糖尿病、甲状腺疾患、副腎疾患、視床下部・下垂体疾患、副甲状腺疾患、性腺疾患など）として通院継続中の患者数は約4,800人、うち糖尿病患者数は約3,400人（1型 220人、2型 2,930人、その他 250人）、年間入院患者数は約250症例（2型糖尿病 62%、1型糖尿病 12%、内分泌疾患 10%、他感染症の合併例など）。他科の入院患者の診療（併診）も多く、年間併診患者数も上記に加えてさらに約 400 症例に達する。手術前後の血糖管理はもちろんのこと、専門性を要求される妊娠糖尿病管理についても産科と連携し、きめの細かい治療を行っている。甲状腺穿刺細胞診は177件だった。

3　その他の活動実績・取り組み等

当科は慢性腎臓病、高血圧、腹膜透析、血液透析、原発性アルドステロン症、甲状腺疾患、糖尿病など、多岐面にわたる臨床や新規の研究分野を扱っており、各領域の経験豊富な専門医が診療にあたっている。当科は生活習慣病の診療に従事していることから本年度はコロナ禍の影響を大きく受けたが、従来の臨床水準を維持するべく診療を行った。

■ 腎臓部門

本年度も COVID-19 感染拡大時には電話診療にも対応しながら、外来診療を継続した。また、2021年度から嚢胞腎・遺伝性腎疾患外来、腎代替療法外来を新設し、遺伝性腎疾患の対応、超高齢者等の腎代替療法選択をサポートするシステムを開始した。腎生検数は COVID-19 感染拡大以後減少しており、昨年度と同様の症例数であった。血液透析導入、透析患者のシャント管理外来、PTA、パーマネントカテーテルを用いた血液透析、腹膜透析は例年通りの症例数を維持した。

■ 内分泌部門

本年度は COVID-19 感染流行の状況に応じ、適宜電話診察に対応しながら外来診療を行った。入院は、紹介患者の検査入院が多いため、COVID-19 流行による紹介数減少の影響を受けた。甲状腺穿刺吸引細胞診は過去最高の検査数となった。当院を含む国内8施設で治験を行った、機能性副腎腫瘍の低侵襲治療

である、ラジオ波焼灼術が保険適用され、放射線診断科との協力体制のもと、当院での導入に向けた作業が進行している。

■ 代謝部門

本年度は COVID-19 感染拡大による外来患者および入院患者の減少は 2020 年度と比較して回復傾向となった。一方で AI ホスピタル事業における MeDaCa システムを利用したオンライン診療は拡大しており、特に妊娠糖尿病やパーソナル CGM 機能搭載インスリンポンプ療法（SAP: Sensor Augmented Pump 療法）中の 1 型糖尿病患者において活用を進めている。現在糖尿病先制医療センターの拡充を進めており、糖尿病関連診療科や診療支援部門をの連携を強化すると共に、1 型糖尿病外来など専門外来枠の拡大を進めている。

神経内科

1　診療体制

■ 対象疾患

脳血管障害(脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、ウィリス動脈輪閉塞症、頸動脈狭窄、頭蓋内動脈狭窄）/パーキンソン病/進行性核上性麻痺/多系統萎縮症(脊髄小脳変性症)/その他の運動障害/晩発性小脳皮質萎縮症/遺伝性小脳失調症(SCA1,SCA2, SCA3,SCA6)/アルツハイマー病/レビー小体型認知症/前頭側頭葉型認知症/クロイツフェルト・ヤコブ病/その他の認知症/重症筋無力症/多発筋炎/進行性筋ジストロフィー/筋強直性ジストロフィー/その他の筋疾患/多発ニューロパチー/ギラン・バレー症候群/フィッシャー症候群/シャルコー・マリー・トゥース病/緊張型頭痛/片頭痛/群発頭痛/髄膜炎/脳炎/肥厚性硬膜炎/その他の神経感染症/多発性硬化症/急性散在性脳脊髄炎/進行性多巣性白質脳症/副腎白質ジストロフィー/てんかん/筋萎縮性側索硬化症/痙性対麻痺/脊髄性進行性筋萎縮症/ハンチントン病/ウィルソン病/ミトコンドリア脳筋症/その他の遺伝性神経疾患/顔面神経麻痺/動眼神経麻痺/滑車神経麻痺/外転神経麻痺/その他の脳神経麻痺/顔面痙攣/眼瞼痙攣/痙性斜頸/書痙/本態性振戦/周期性四肢麻痺/脊髄空洞症/平山病/三叉神経痛

■ 検査

脳･脊髄 MRI/頭部 CT/頸動脈エコー/骨格筋 CT･MRI/脳波/脳血流 SPECT/脳血管造影/MIBG 心筋シンチ/DAT スキャン/PET/腰椎穿刺（脳脊髄液検査）/筋電図/筋生検

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授 1 名
准教授　　2 名
専任講師　　4 名
助教（専修医を除く）　5 名
＊専任・常勤のみ
＊専任講師・助教は有期を含む。
＜院内役職者＞
診療科部長　　中原 仁
診療科副部長　　鈴木 重明
外来担当医長　　伊東 大介
病棟担当医長　　伊澤 良兼
保険担当医長　　關 守信
研修医担当主任　西本 祥仁

2　主な診療実績

■ 主要疾患別入院件数

脳梗塞	117 件	脳出血	23 件
重症筋無力症	100 件	てんかん	32 件
多発性硬化症/視神経脊髄炎など			95 件
運動ニューロン疾患			31 件
パーキンソン病			37 件
脊髄小脳変性症/多系統萎縮症など			26 件
ギラン・バレー症候群/末梢神経疾患			57 件
その他			176 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当科では、内科学教室の一員として、中枢神経系（脳・脊髄)、末梢神経、筋肉を侵す様々な内科疾患

を担当している。本年度も積極的に新規治療法の臨床開発に取り組み、当院倫理委員会の審査承認のもと、脳血管障害、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症（ALS)、アルツハイマー病などに対する様々な治験・臨床試験を実施した。

■ 脳血管障害

脳梗塞や脳出血など脳卒中の診療としては、2020年 6 月に脳卒中センターを開設し、血栓回収術（カテーテル治療)、血栓溶解（rt-PA）療法からリハビリテーションに至るまで、複数の診療科と連携して治療に注力している。また、循環器内科を中心とした卵円孔直接閉鎖術、左心耳閉鎖術などの先端治療も開始し、これまでの治療件数は国内で屈指の症例数となっている。

■ 重症筋無力症

重症筋無力症は 380 人程度の患者を治療しており、日本で最も患者数が多い施設である。患者の QOL を重視した治療を最優先し、可能な限り外来で治療できるようにしている。新たな治療選択となった分子標的薬も積極的に導入し、多くの臨床研究を当院から発表した。

■ 多発性硬化症・視神経脊髄炎

当院では多数の多発性硬化症･視神経脊髄炎の患者を診療している。新規治療薬による診療のほか、従来の MRI よりも髄鞘の評価に優れた画像技術であるミエリンマップの開発を進めた。

■ 認知症

認知症専門外来では､2018 年より AMED 事業としてアミロイドイメージングとタウ PET を導入、認知症の長期コホート研究を進めている。PET 診断された認知症患者の体液バイオマーカー（リン酸化タウ、Neurofilament Light Chain）の検討を行い、アルツハイマー病の診断に有用であることを報告した。現在、MRI､神経心理検査に加えて､体液バイオマーカー、アミロイド/タウ PET を組み合わせた診断アルゴリズムの構築を進めている。

■ パーキンソン病

専門外来を複数設置し､最新の知見に基づくテーラーメードな医療を提供している。多職種連携チーム医療の推進のため、院内勉強会の開催などコメディカルの教育、多施設共同の臨床研究にも参加した。

■ 頭痛

頭痛外来では多くの片頭痛患者、群発頭痛、特殊な頭痛の診断や治療を行っている。

■ 筋萎縮性側索硬化症 ALS

ALS は難治性として挙げられる代表的疾患であるが、その診断には多くの疾患との鑑別が求められる。ALS に対する治験を行ったほか、家族性 ALS を疑う症例については、慎重な検討の上で遺伝子検査も施行している。

血液内科

1　診療体制

■ 対象疾患

急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/慢性リンパ性白血病/骨髄異形成症候群/真性赤血球増加症/本態性血小板血症/骨髄線維症/悪性リンパ腫/多発性骨髄腫/キャッスルマン病/再生不良性貧血/発作性夜間ヘモグロビン尿症/鉄欠乏性貧血/特発性血小板減少性紫斑病/POEMS 症候群/成人 T 細胞白血病リンパ腫/骨髄増殖性腫瘍/自己免疫性溶血性貧血/血友病/凝固因子欠乏症/血球貪食症候群

■ 検査

骨髄検査/HLA タイピング/リンパ節生検/CT･エコーガイド下生検

■ 専門外来

造血幹細胞移植外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	4 名
助教（専修医を除く）	3 名

＊専任・常勤のみ（有期を含む）

＜院内役職者＞

診療科部長　　片岡 圭亮

診療科副部長　　清水 隆之
外来担当医長　　清水 隆之
病棟担当医長　　菊池 拓
保険担当医長　　加藤 淳
研修医担当主任　清水 隆之

2　主な診療実績

同種造血幹細胞移植件数　35 件(2021/1 月~12 月)
自家造血幹細胞移植件数　27 件(同上)
CAR-T 細胞療法件数　17 件／年
入院化学療法　約 1,800 件／年
外来化学療法　約 3,500 件／年
（経口抗がん薬処方を含む）

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 造血幹細胞移植

難治性造血器疾患に対して根治療法として行われる造血幹細胞移植は、病状から治療の延期が困難で適切なタイミングに実施することが重要な治療である。COVID-19 の流行に伴い、病床確保が困難となったが、移植の準備期間に実施する治療を紹介元医療機関と綿密に連携を行いながら実施することで治療計画の変更なく、COVID-19 の流行前と同様の移植実績を維持した。

■ CAR-T 細胞療法

2020 年 1 月から CAR-T 細胞療法（キムリア®）を実施しており、2020 年は年間 7 例であったが、2021 年はその件数が 17 件と大きく増加した。実施可能施設が限られた治療法であり、様々な施設から紹介を受けて実施している。今後も優先課題として取り組み、治療適応症例を積極的に受け入れていく。

■ 臨床治験・臨床試験

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、移植片対宿主病、キャッスルマン病、再生不良性貧血に対する臨床治験、および、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、移植片対宿主病予防、移植前処置、移植後 B 型肝炎再活性化予防に関する前向き介入臨床試験を実施した。

リウマチ・膠原病内科

1　診療体制

■ 対象疾患

関節リウマチ/全身性エリテマトーデス/全身性強皮症/多発性筋炎・皮膚筋炎/混合性結合組織病/シェーグレン症候群/顕微鏡的多発血管炎/結節性多発動脈炎/高安動脈炎/巨細胞性動脈炎/リウマチ性多発筋痛症/成人発症スティル病/乾癬性関節炎/強直性脊椎炎/ベーチェット病/IgG4 関連疾患/痛風/偽痛風/若年性特発性関節炎（若年性関節リウマチ）/再発性多発軟骨炎/RS3PE 症候群/回帰性リウマチ/サルコイドーシス/抗リン脂質抗体症候群/悪性関節リウマチ/多発血管炎性肉芽腫症/好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）/アレルギー性肉芽腫性血管炎/IgA 血管炎/クリオグロブリン血管炎/過敏性血管炎/コーガン症候群/反応性関節炎/炎症性腸疾患に伴う関節炎/SAPHO 症候群/自己炎症性疾患/びまん性筋膜炎（好酸球性筋膜炎）/フェルティ症候群/カプラン症候群/リウマチ熱/骨粗鬆症/アミロイドーシス

■ 検査

関節超音波検査/関節穿刺検査/関節 MRI/骨シンチグラフィー/ガリウムシンチグラフィー/腎生検/レーザー血流計・サーモグラフィ/筋生検/キャピラロスコピー

近年は関節リウマチなどの関節疾患において、関節超音波検査を使用することが多くなってきた。当科では最新の関節超音波機器を用いて、担当医師が診断や治療効果判定を行っている。週 4 日の関節エコー検査日を設定し、必要な患者に速やかにエコー検査が行える体制を整えている。また全身性強皮症の診断に必要なキャピラロスコピー専門外来も週 1 日設定し、より正確な早期診断に努めている。

■ 専門外来

関節リウマチなど生物学的製剤を使う患者には「免疫統括医療センター」での診療も行っている。

レミケード（インフリキシマブ）やアクテムラ（トシリズマブ）の使用実績は国内最大規模となっている。妊娠可能な若年女性患者を対象に膠原病母性内科相談外来を開設し、正確な情報共有・スムーズな産科との橋渡しを行っている。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	1 名
助教（専修医を除く）	8 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	金子 祐子
診療科副部長	鈴木 勝也
外来担当医長	鈴木 勝也
病棟担当医長	花岡 洋成
保険担当医長	菊池 潤
研修医担当主任	菊池 潤

4　主な診療実績

■ 主要疾患別外来患者数（2022 年 3 月時点）

関節リウマチ	2,284 人
シェーグレン症候群	594 人
全身性エリテマトーデス	485 人
全身性強皮症	208 人
皮膚筋炎/多発筋炎	152 人
リウマチ性多発筋痛症	147 人
IgG4 関連疾患	118 人
ベーチェット病	118 人
脊椎関節炎	114 人
乾癬性関節炎	113 人
SAPHO 症候群	96 人
混合性結合組織病	91 人

2　その他の活動実績・取り組み等

本年度、COVID-19 に対して関節リウマチの治療薬が承認され、リウマチ・膠原病内科も積極的にその診療に関わってきた。COVID19 感染状況を踏まえながら電話診療などを組みあわせ、患者の安心・安全に配慮した診療を進めている。

当科はリウマチ・膠原病全般を診療対象とし、20 名の経験豊かな日本リウマチ学会認定リウマチ専門医が診療に従事している。2017 年より APLAR Center of Excellence（アジア太平洋リウマチ学会認定リウマチ診療研究施設）に認定され、国際的にも幅広く患者さんを受け入れてきた。日本リウマチ学会登録ソノグラファーによる関節超音波専門外来や、膠原病の診断に重要なキャピラロスコピー（爪毛細血管鏡）専門外来を開設し、多角的に疾患をとらえる取り組みをしている。また近年注目されている若年女性患者のプレコンセプションケアの充実をはかるべく新たに膠原病母性内科相談外来を開設した。さらに日本腎臓学会指導医による腎生検や、経験豊かな施行医による筋生検も診療科内で施行しており、他診療科とも密にコミュニケーションを取りながら患者さんに最適な医療を提供する体制を整えている。科学的根拠に基づきながら、全人的な医療を提供できる診療科を目指して日々診療にあたっている。

一般・消化器外科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜上部消化管班＞

胃癌/食道癌/逆流性食道炎/食道アカラシア/胃悪性リンパ腫/胃 GIST/その他の胃粘膜下腫瘍/難治胃・十二指腸潰瘍など

＜大腸班＞

大腸癌(結腸、直腸、肛門の癌)/大腸ポリープ/炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)/肛門疾患(痔核、痔瘻、裂肛)など

＜肝胆膵・移植班＞

肝癌(肝細胞癌、転移性肝癌)/胆道癌(肝門部胆管癌、胆嚢癌、遠位胆管癌、乳頭部癌)/膵癌（浸潤性膵管癌、膵内分泌腫瘍(PNET)、膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)、粘液性嚢胞腫瘍(MCN)）/肝移植対象疾患(急性肝不全、肝癌、肝硬変、PBC、PSC、

胆道閉鎖症など)/良性疾患(胆石症、総胆管結石、胆嚢炎、肝嚢胞、急性膵炎、慢性膵炎など)

＜乳腺班＞

乳癌/遺伝性乳癌/卵巣癌症候群/乳房の再建/乳腺疾患(乳腺症(嚢胞症を含む)・線維腺腫・乳管内乳頭腫・男性乳癌・女性化乳房症など)/若年性乳癌患者の妊孕性(妊娠する力)の温存/乳癌に対する放射線治療

＜血管班＞

下肢閉塞性動脈硬化症/腹部大動脈瘤/腹部内臓動脈瘤(脾動脈瘤、腎動脈瘤など)/糖尿病性足病変/下肢静脈瘤/深部静脈血栓症など

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	3 名
専任講師	6 名
助教（専修医を除く）	16 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	尾原 秀明
診療科副部長	川久保 博文
外来担当医長	川久保 博文
病棟担当医長	北郷 実
保険担当医長	北郷 実
研修医担当主任	堀 周太郎（外科統括）

5　主な診療実績

■ 主要疾患別手術件数

食道癌	52 件	胃癌	76 件
結腸癌	106 件	直腸癌	56 件
乳癌	277 件	膵癌	32 件
肝細胞癌	26 件	胆道癌	24 件
腹部大動脈瘤	42 件	末梢動脈疾患	108 件
肝胆膵高難度手術			135 件
肝移植			16 件

2　その他の活動実績・取り組み等

■ 上部消化管班

COVID-19 感染拡大により、食道癌・胃癌手術ともに手術数は一時的に減少したものの、今年度になり増加傾向に転じている。ロボット支援下手術の割合も食道癌、胃癌ともにさらに増加しており、引き続き高度医療の提供をおこなっていく。内視鏡センターにおいてもやはり減少傾向であった施行件数は改善傾向にあり、手術前精査・術後評価目的の内視鏡診療を中心に施行した。

■ 腸班

COVID-19 感染下であるが、引き続き悪性腫瘍に対する低侵襲手術を積極的に行った。直腸癌手術の半数以上にロボット支援下手術が施行され、当院の特徴である潰瘍性大腸炎に対する reduced port surgery も例年並みの件数を施行した。直腸癌に対し、術前放射線治療と全身化学療法をすべて術前に行う Total Neoadjuvant Therapy（TNT）の特定臨床試験に参加し、新規治療戦略開発にも力を入れた。

■ 肝胆膵・移植班

COVID-19 感染拡大のため胆石症などの良性疾患に手術が一部延期されたが、肝胆膵領域の難治癌に対してはパンデミック以前と同等の手術件数を維持した。外科的治療として腹腔鏡下手術による低侵襲治療、大血管および多臓器合併切除を伴う拡大手術、生体・脳死肝移植術をほぼ例年通り施行することができた。また、膵疾患に対するロボット手術も開始され、領域横断的かつ様々なアプローチによる治療を開始することができた。

■ 血管班

COVID-19 の感染対策も安定し、症例数はパンデミック以前と同等のレベルに回復した。血管合併切除、再建を要するような拡大手術における他診療科との連携のみならず、虚血性足部潰瘍患者に対する集学的治療のためのフットケアチーム、血液透析患者に対する腎臓内科、透析センターとの連携、下肢血流評価における生理機能検査室との連携など、診療の質の向上に向けた職種・診療科横断的な連携をさらに強化した。

■ 乳腺班

2020 年度は新型コロナ感染症の拡大により手術件

数・外来件数の低下を認めたが、2021 年度には手術件数は順調に回復しコロナ前水準を超える件数を記録した。また、外来にて実施した乳房精査（針生検）件数も大きく前年度を上回った。本邦における乳がん罹患率の上昇は続いており、引き続き乳がんの診断・治療に貢献していきたい。

呼吸器外科

1　診療体制

■ 対象疾患

肺癌/転移性肺腫瘍/縦隔腫瘍/自然気胸(嚢胞性肺疾患)/漏斗胸/胸膜中皮腫/良性肺腫瘍/甲状腺腫瘍/重症筋無力症/肺結核/肺非定型抗酸菌症/膿胸/胸部外傷/胸壁腫瘍/横隔膜疾患/その他のあらゆる呼吸器外科疾患

■ 検査

胸部単純 X 線/胸部 CT/PET-CT/気管支鏡検査/CT ガイド下肺生検/肺動脈造影検査/肺シンチグラフィー/気管支動脈造影検査/胸部 MRI/呼吸機能検査/精密肺機能検査

■ 専門外来

漏斗胸外来/気胸ホットライン

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	3 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	淺村 尚生
診療科副部長	菱田 智之
外来担当医長	菱田 智之
病棟担当医長	朝倉 啓介
保険担当医長	政井 恭兵
研修医担当主任	加勢田 馨

2　主な診療実績

■ 主要手術件数

肺癌	169 件
縦隔腫瘍	36 件
転移性肺腫瘍	55 件
気胸	66 件
漏斗胸	138 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 診療全般

2020 年は COVID-19 感染拡大により手術制限の影響もあり 508 件（前年度比 12%減）の呼吸器外科手術であったが、2020 年下半期以降は徐々に外来初診患者数の増加、紹介患者の増加があり 2021 年の年間総手術数は 555 件であった。当科が行っている小開胸低侵襲手術 Minimally Invasive Open Surgery (MIOS) は、少人数かつ短時間で施行可能であり、スタッフの人員制限や手術室の使用制限下においても、手術数を維持することに寄与した。

■ 外来診療体制

5 名のスタッフ医師が外来診療を担当した。コロナ禍以降は電話診療、オンライン診療を導入し、悪性腫瘍患者のフォローアップに支障が生じないよう留意した。漏斗胸専門外来、気胸ホットラインを受診、利用する患者が増加し年間手術数の増加に寄与した。

■ 入院診療体制

外来担当医が主治医となって、その下で専攻医が主担当医になる患者受け持ち体制をとり、平日は毎朝 7:30 より全医師による回診を行って個々の医師が全症例を把握するよう努めた。入院患者診療を円滑に行えるよう看護師との病棟カンファレンスを毎週行っている。漏斗胸患者は小児病棟への入院も多く、病棟運営を円滑に行えるよう毎月の小児病棟運営委員会で情報共有を行っている。

■ カンファレンス等

入院症例カンファレンス（月曜）、手術症例カンファレンス（木曜）、肺癌カンファレンス（呼吸器内科・放射線治療科・病理診断部と合同、水曜）等を通じてチーム医療を実践した。このうち他診療科が関与する肺癌カンファレンスはコロナ禍以降、WEB 開催に

移行した。

心臓血管外科

1　診療体制

■ 対象疾患

胸部大動脈瘤/腹部大動脈瘤/急性大動脈解離/解離性大動脈瘤/大動脈弁輪拡張症/狭心症/心筋梗塞/心筋梗塞後合併症(左室破裂、心室中隔穿孔、乳頭筋断裂など）/大動脈弁狭窄症/大動脈弁閉鎖不全症/僧帽弁狭窄症/僧帽弁閉鎖不全症/三尖弁閉鎖不全症/肺動脈性肺高血圧症/心臓腫瘍/心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/動脈管開存症/大動脈縮窄症

■ 専門外来

特殊診療施設：大動脈先進医療センター/心臓血管低侵襲治療センター

ペースメーカー外来：ペースメーカー植え込み後の患者さんのフォローアップ

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	2 名
助教（専修医を除く）	5 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	志水 秀行
診療科副部長	伊藤 努
外来担当医長	木村 成卓
病棟担当医長	伊藤 努
保険担当医長	山﨑 真敬
研修医担当主任	山﨑 真敬

2　主な診療実績

弁膜症手術	76 件
冠動脈手術	40 件
大動脈手術(末梢血管を除く)	134 件
先天性	70 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 診療全般

2021 年度は前年に始まった新型コロナウイルス流行の影響も次第に落ち着き、手術件数は年間 506 件（前年比 119%）まで増加した。また、通常の開心術に加えて、低侵襲心臓手術(MICS) や、ステントグラフト、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)といった経カテーテル治療を積極的に施した。2021 年 10 月には、志水秀行教授が会長として第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会を主催し、外科学教室全体で協力して開催した。新型コロナウイルス流行が一気に収束した時期に、それまでの web 参加のみならず現地開催も行うことで、過去最多の参加者を集め、討論を実現した。

■ 外来診療体制

6 名のスタッフを外来担当とし、診療を行った。診察日のフレキシブルな曜日変更により、患者の状態把握に漏れがないよう留意し、一定の効果を得ることができた。

■ 入院診療体制

当科では直接コロナ患者を診察する機会は多くなかったが、大動脈班、後天性心疾患班、先天性心疾患班のチーム体制を維持しつつ、各メンバーの接触もなるべく控えるよう、留意した。

脳神経外科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜脳腫瘍＞

髄膜腫/神経鞘腫/神経膠腫（グリオーマ）/下垂体腺腫/転移性脳腫瘍/脳原発悪性リンパ腫/血管芽腫/血管周皮腫/脊索腫/軟骨肉腫/類上皮種/類皮腫/髄芽腫/上衣腫/胚細胞腫瘍/頭蓋咽頭腫/頭蓋骨腫瘍

＜脳血管障害＞

脳動脈瘤/脳動静脈奇形/硬膜動静脈瘻/海綿状血

管腫/もやもや病/頸動脈狭窄/脳動脈狭窄・閉塞症/頭頸部脊髄血管奇形/くも膜下出血/脳出血/脳梗塞

＜機能的疾患＞

三叉神経痛/顔面けいれん/パーキンソン病/本態性振戦/ジストニア/正常圧水頭症

＜先天性疾患＞

キアリ奇形/水頭症/二分脊椎/二分頭蓋/くも膜のう胞/脊髄髄膜瘤/脊髄脂肪腫/脊髄空洞症/脊髄係留症候群/頭蓋骨縫合早期癒合症

＜頭部外傷＞

慢性硬膜下血腫/急性硬膜下血腫/急性硬膜外血腫

＜遺伝性疾患＞

神経線維腫症/Von Hippel-Lindau 病/遺伝性出血性末梢血管拡張症

■ 検査

頭部レントゲン/CT/MRI/MRA/機能的 MRI/脳・脊髄血管撮影/CT アンギオ/頸動脈エコー/脳血流検査/SPECT/PET/脳波検査/誘発電位検査/血液検査/ホルモン検査/神経膠腫の遺伝子解析

■ 専門外来

免疫療法/脳腫瘍/定位放射線/脳血管障害/脳血管内治療

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	5 名
助教（専修医を除く）	7 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	戸田 正博
診療科副部長	佐々木 光
外来担当医長	植田 良
病棟担当医長	秋山 武紀
保険担当医長	三輪 点
研修医担当主任	植田 良

2　主な診療実績

脳腫瘍摘出術	109 件

（グリオーマ、髄膜腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍など）

広範囲頭蓋底腫瘍摘出術	19 件

（髄膜腫、神経鞘腫、脊索腫など）

脳血管障害開頭術	35 件

（クリッピング、バイパス、頸動脈内膜剥離術など）

神経内視鏡手術	70 件

（水頭症、脳出血、脳腫瘍など）

脳血管内手術	70 件

（コイル塞栓、ステント留置術、血管奇形塞栓術など）

3　その他の活動実績・取り組み等

当科では脳腫瘍、脳血管障害、機能的疾患、小児脳外科疾患など幅広い脳神経外科疾患に対して診療を行っており、一般的な脳神経外科治療に加えて、高度な治療や先進的な治療も提供できる体制を整えている。 代表的な体制として頭蓋底センターがあり、当科だけでなく、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、歯科口腔外科、下垂体疾患では内分泌内科、さらに放射線治療科、放射線科など、それぞれの専門分野の知識と高度な技術の科を超えた統合を行い、全ての頭蓋底疾患に対応可能な、充実した診療体制を整えている。前年度に新設された脳卒中センターでは、救急科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、精神神経科、放射線科が共同となり、救急から手術、血管内治療、内科治療といった診療内容の連携をさらに強化した。また近年、需要が増加している急性期脳梗塞に対する血栓回収術へ常に対応できるように脳神経外科、神経内科オンコールとは別に脳血管内治療オンコールを作り、独自に脳卒中対応可能な体制を整えている。

小児脳外科領域では、特に小児頭蓋顔面センターにおいて形成外科、小児科をはじめとする他科との連携がさらに強化され、COVID-19 の影響を大きく受けることもなかった。代表的疾患である頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例数は毎年増加している。

その他、本年度はオンコールスタッフによるホット

ライン体制を整備した。前方連携を強化することにより、外来、入院、手術件数の増加を図り、その効果が出始めている。

小児外科

1　診療体制

■ 対象疾患

胆道閉鎖症/(先天性)胆道拡張症(総胆管拡張症-総胆管のう腫)/小児の顔面・頸部疾患(正中頚嚢胞・側頚瘻、梨状窩瘻など)/小児悪性固形腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍等) /その他小児固形腫瘍(卵巣嚢腫、脂肪腫など)/先天性横隔膜ヘルニア/先天性食道閉鎖症/十二指腸閉鎖･狭窄症/腸閉鎖症/腸回転異常症(中腸軸捻転症)/臍帯ヘルニア･腹壁破裂/先天性嚢胞性肺疾患(CCAM、CPAM)/リンパ管疾患(リンパ管腫､リンパ管腫症等)/ヒルシュスプルング病/ヒルシュスプルング病類縁疾患/鎖肛/総排泄腔外反、遺残症/肥厚性幽門狭窄症/鼠径ヘルニア/陰嚢水腫/停留精巣/臍ヘルニア/急性虫垂炎/腸重積症/漏斗胸/メッケル憩室/胃食道逆流症/便秘症/包茎/異物誤飲/腸管不全(短腸症候群など)/肝臓移植・小腸移植 など

■ 検査

直腸肛門反射/食道 pH モニタリング/胃排出時間検査(アセトアミノフェンテスト)/食道内圧検査/上部消化管内圧検査/下部消化管内圧検査(肛門管内圧検査、HAPC 測定)/直腸粘膜生検/D-キシローステスト/上部消化管（食道・胃・十二指腸）内視鏡/小腸内視鏡/大腸内視鏡/消化管造影検査/瘻孔･膿瘍造影検査/超音波検査/CT/MRI/シンチグラフィ(胆道・肝・リンパ管・肺など)/リンパ管腫(リンパ管奇形)の検査

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	1 名
助教（専修医を除く）	2 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	黒田 達夫
診療科副部長	山田 洋平
外来担当医長	山田 洋平
病棟担当医長	加藤 源俊
保険担当医長	髙橋 信博
研修医担当主任	加藤 源俊

2　主な診療実績

呼吸器疾患手術	6.0 件
（先天性嚢胞性肺疾患・ 気管切開など、小児腫瘍を除く）	
上部消化管疾患手術	8.8 件
（先天性食道閉鎖症、十二指腸閉鎖、肥厚性幽門狭窄症、腹腔鏡下噴門形成術など）	
下部消化管疾患手術	30.5 件
（ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、人工肛門造設術など）	
門脈胆道系疾患	16.5 件
（胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、脾摘、胆道系 IVR 治療など、肝移植を除く）	
胸壁・腹壁疾患	3.2 件
（横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、漏斗胸など）	
肝移植・小腸移植(脳死・生体)	4.0 件
小児腫瘍(良性・悪性、肝移植を除く）	10.5 件
リンパ管疾患	11.7 件

＊以上、過去 6 年間の年間平均件数

3　その他の活動実績・取り組み等

2021 年 4 月に第 58 回 日本小児外科学会学術集会を黒田達夫教授が主催し､ハイブリッド開催にて多くの参加者を集めた。

■ 新生児外科

2021 年度は産婦人科・小児科（新生児）と共に、周産期クラスターとして定期的なカンファレンスを行い情報共有を図り、緊急を要する新生児外科疾患に数多く対応した。

■ 小児固形腫瘍

腫瘍専門の小児科医と経験の深い小児外科医や整形外科、脳外科、そして放射線治療・診断ならびに小児がんを専門とする病理医が小児がんの治療のためのチーム(Pediatric Oncology Board)にて、患者を中心とした活動を行っている。本年度はWebカンファレンスに変更し、治療方針などの情報の共有を行った。

また、小児固形腫瘍に関する専門医の育成を目的とした「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン小児がんコース」が開催され、各分野のエキスパートによる講義が行われた。

3月に「第12回信濃町小児がんクラスターWeb講演会」を開催した。

■　リンパ管腫

リンパ管腫は外科的切除、硬化療法が有効で病変を縮小もしくは消失させることが出来るが、約20%は難治性とされる。当科ではリンパ管腫を含むリンパ管疾患に対する治療に力を入れている。

難治性リンパ管疾患、脈管腫瘍に対するシロリムス治療に関する医師主導治験、特定臨床研究を継続して行っている。

■　小児肝移植・小腸移植

臓器移植センターとして他診療科・部門と連携しながら2021年末までに成人と合わせて300例以上の生体・脳死肝臓移植を行い、良好な成績を納めている。小児肝移植においては、術後定期的な画像検査・肝組織検査・抗ドナー抗体検査などを含めた包括的なフォローアップを専門外来で行っている。成長の過程にあわせて、社会支援復帰プログラムやワクチン接種、妊娠時対応・並存疾患の管理など生涯にわたっての管理が可能となっている。

また、2021年3月には当院2例目となる脳死ドナーによる小腸移植を実施した。

■　腸管不全

2021年には短腸症候群や腸管運動機能障害の患者などを対象としたセンターである腸管機能リハビリセンターを設立した。多職種による定期的なカンファレンスにより、小腸移植の適応評価、短腸症候群の新規治療薬の適応の検討などを含めた治療方針の決定や、病態解明に向けた臨床研究などを他部門と連携しながら開始している。

■　栄養サポートチーム(NST)

腸管機能リハビリセンターの活動と関連して2021年度より院内NSTの活動へ積極的に参加し、院内の栄養サポートが必要な患者へのサポートを行っている。

整形外科

1　診療体制

■　対象疾患

＜脊椎脊髄外科＞

脊髄腫瘍/脊椎腫瘍/脊椎後弯症/側弯症/椎間板ヘルニア(頚椎・胸椎・腰椎)/腰部脊柱管狭窄症/腰椎椎間板ヘルニア/後縦靭帯骨化症(OPLL)/頚椎症性脊髄症/脊椎炎

＜肩関節＞

反復性肩関節脱臼/腱板損傷/変形性肩関節症/野球肩/上肢の脱臼・骨折

＜手肘の外科＞

上肢スポーツ障害/関節リウマチ/変形性肘関節症/末梢神経障害/手の先天異常/野球肘/上肢の脱臼・骨折/腱損傷と靭帯損傷

＜股関節＞

変形性股関節症/急速破壊型股関節症/股関節唇損傷/骨盤骨折/大腿骨頚部骨折/関節リウマチ/特発性大腿骨頭壊死症と寛骨臼形成不全症

＜膝関節＞

変形性膝関節症/膝靱帯・半月板損傷/骨壊死/反復性膝蓋骨脱臼/下肢骨折/関節リウマチ

＜腫瘍＞

骨軟部腫瘍（悪性・良性）（原発性・転移性）

■　検査

骨塩定量検査（BMD；Bone Mineral Density）/椎間板造影・椎間板ブロック/神経根造影・神経根ブロック/関節造影検査/脊髄造影/CT/MRI/PET-

CT

■ 専門外来

粗鬆症外来/スポーツ医学総合センターアスリート外来/腫瘍センター骨転移外来/免疫統括医療センター整形部門

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	2 名
准教授	2 名
専任講師	11 名
助教（専修医を除く）	15 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	中村 雅也
診療科副部長	渡邉 航太
外来担当医長	松村 昇
病棟担当医長	八木 満
保険担当医長	小林 秀
研修医担当主任	大矢 昭仁

2　主な診療実績

■ 手術件数

脊椎・脊髄	872 件
肩関節・肘関節・手	515 件
股関節・膝関節・足	647 件
腫瘍	284 件
四肢骨盤外傷手術	145 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 膝班

特徴的な取り組みとしてロボット支援による人工膝関節置換術を実施しており、前十字靭帯を温存した解剖学的な人工膝関節の再建を行っている。若年者には自家培養軟骨を併用した高位脛骨骨切り術等の関節温存手術も行っている。

■ 股関節班

人工股関節置換術は一般的な手術として広く行われているが、当院では初回手術ではほとんどの手術に対し筋腱切離を伴わない筋間進入での手術を実施している。また、変形の高度な症例やインプラントの不具合に対する再置換術も多く行っている。

特徴的な取り組みとして前方筋間進入による低侵襲な寛骨臼回転移動術(SPO)を導入し主に若年者に対し関節温存手術を行っている。

■ 脊椎脊髄班

2021 年の総手術件数は 872 件であった。コロナ禍で前年の 796 件より 76 件増加し、コロナ禍前以上の手術件数となった。その一つの原動力は逆紹介の徹底、地域との WEB 講演会を中心としたコミュニケーションであった。小児から高齢者までの脊柱側弯症を幅広く治療し、265 例の手術を行った。側弯症臨床センターが立ち上がり、多科での集学的な治療を充実させ、前年より大幅に手術件数が増加した。

脊髄腫瘍に関しては、コロナ禍においても例年と同等の年間 90 例の手術を行った。脊椎変性疾患に対して低侵襲手術、人工椎間板、椎間板内酵素注入療法などの新しい治療法を取り入れ、425 例の手術を行った。外来部門では遠隔地に在住の患者様に対して、オンライン診療を立ち上げ、今後も有効利用している予定である。

■ 腫瘍班

本年度の合計手術件数は 284 件、初診患者は 529 件であった。COVID-19 感染の収束に伴い、手術件数、初診件数ともに前年度と比較し 10%増加し、ほぼ例年並の件数に戻った。外来での取り組みとして、多診療科との連携を積極的に行っている。腫瘍センターでは外来での薬物療法やがんゲノム医療を、母斑症センターでは NF1 や血管奇形の治療、骨転移診療センターでは骨転移の包括的な治療を他科と協力し行っている。

■ 上肢班

新型コロナウイルス感染の影響により昨年大きく減少した手術数総は例年と同程度に回復した。関節リウマチによる上肢機能障害に対する再建手術、上肢人工関節置換術、外傷後変形治癒、胸郭出口症候群等の症例数の少ない特殊な疾患に対する治療を精力

的に行った。外来診療は火曜日および木曜日に手肘専門外来、肩関節専門外来を行い、多くの紹介患者を受け入れている。コロナ禍に急速に進化した web カンファレンスは関連施設との連携手段として継続的に行っている。

リハビリテーション科

1　診療体制

■ 対象疾患

脳卒中/脊髄損傷/神経・筋疾患/悪性腫瘍(がん)/リンパ浮腫/小児疾患/切断/骨関節疾患/心疾患/慢性閉塞性肺疾患/嚥下障害/高次脳機能障害/外傷性脳損傷/関節リウマチ

■ 検査

神経伝導検査、針筋電図/運動誘発電位(MEP)、体性感覚誘発電位(SEP)/ビデオ嚥下造影検査(VF)、ビデオ嚥下内視鏡検査(VE)/蛍光リンパ造影検査

■ 専門外来

装具外来/ボツリヌス療法外来(上下肢痙縮・脳性麻痺・痙性斜頸・眼瞼痙攣・片側顔面痙攣)/ 嚥下障害外来/高次脳機能障害外来/痛み診療センター運動療法外来(痛み診療センター)/がんリハビリテーション外来(腫瘍センター)

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

［診療部門］

教授	1 名
専任講師	2 名
助教(専修医を除く)	3 名

＊専任・常勤のみ（有期を含む）

＜院内役職者＞

診療科部長	辻 哲也
診療科副部長	川上 途行
外来担当医長	石川 愛子
病棟担当医長	山田 祐歌
保険担当医長	川上 途行
研修医担当主任	須田 万豊

［訓練部門］

課長	山澤　美樹
主任	阿部　薫
	上迫　道代
理学療法士	13 名
作業療法士	4 名
言語聴覚士	4 名

＊人数に主任を含む

2　主な診療実績

筋電図検査	210 件
ビデオ嚥下造影検査	120 件
嚥下内視鏡	140 件
ボツリヌス注射	300 件
リハビリテーション実施件数	
心大血管疾患	4,050 件
脳血管疾患等	15,313 件
廃用症候群	8,145 件
運動器	12,068 件
呼吸器	6,229 件
がん患者	12,108 件

3　その他の活動実績・取り組み等

● がんのリハビリテーション

がんは当科の対象患者の約 3 割を占める主要な対象疾患である。がんの進行や治療によって受けた身体的なダメージに対してリハビリテーションを行なうことで、日常生活の向上や仕事復帰を目指している。当科では、腫瘍センターがんリハビリテーション部門、骨転移診療センター、リンパ浮腫診療センター、緩和ケアセンターおよび一般消化器外科、血液内科、婦人科・形成外科、口腔外科・耳鼻咽喉科、整形外科腫瘍班等と連携し、がん治療チームの一員としてリハビリテーション・スタッフがチーム医療を実践している。

当科で実施している具体的ながん患者に対するリハビリテーション診療の内容は下記のとおりである。

・脳腫瘍（脳転移）による片麻痺、失語症など・脊髄腫瘍（脊髄・脊椎転移、髄膜播種）による四肢麻痺、対麻痺・造血器のがんによる全身性の機能低下・化学

療法・放射線療法中・後の有害反応、がん悪液質（サルコペニア）・骨・軟部腫瘍術後（患肢温存術後、四肢切断術後）・転移性骨腫瘍・乳がん術後の肩関節拘縮・頭頸部がん術後の嚥下・構音障害、発声障害、頚部郭清後の副神経麻痺・開胸・開腹術後の呼吸器合併症の予防・末期がん・緩和ケア主体の時期のリハビリテーション

● ニューロリハビリテーション

脳卒中の代表的な後遺症として手の麻痺がある。かつては発症後 6 か月以上経過すると回復が難しいと考えられていたが、近年、治療方法の進歩により、慢性期患者においても、機能回復の報告が増えている。当院では随意運動介助型電気刺激装置を用いる治療や、Virtual Reality を用いた治療、ロボットリハビリテーション等の、上肢に対する先進的なリハビリテーション治療を行っている。

● 東京都高次脳機能障害者支援普及事業-専門的リハビリテーション充実事業

当科では、東京都からの委託をうけ、区西部圏域（新宿区・中野区・杉並区）において、高次脳機能障害の理解と支援の充実を目指す事業を行っている。高次脳機能障害に対しては、医療・行政・福祉・介護、多くの分野からの支援が必要である。

本年度は、東京都障害者職業センターより講師を招き、高次脳機能障害の方の復職支援についての研修会を開催した。

● 東京都 JRAT

リハビリテーション医学教室は、2021 年 4 月より日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）の東京支部事務局を拝命した。災害発生時に都民が良質なリハビリテーション支援を受けられる制度及び体制の確立を促進していく役割を担う。本年度は東京都の行政・理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会・介護支援専門研究協議会・地域リハビリテーション支援センター等と連携し、東京都災害リハビリテーション支援関連団体協議会に役員を設置し会則を作成した。

● 疼痛に対するリハビリテーション

運動器疾患による疼痛、末梢神経障害性疼痛、術後遷延痛、帯状疱疹後神経痛、複合性局所疼痛症候群などの慢性疼痛を抱える患者に対して、痛み診療センターへ参画し、疼痛軽減や機能改善を目指して運動療法・運動指導を行っている。

本年度は、痛み診療センター専任理学療法士 1 名を雇用し、運動器疾患に対するリハビリテーションを中心に施行した。必要に応じて、リハビリテーション科作業療法士による作業療法も施行した。

● スモン検診

スモン検診は厚生労働省がスモン患者さんに対する恒久対策と位置付けた施策であり、「スモンに関する調査研究班」の一員である当教室は毎年スモン検診を実施している。問診や診察により療養に関するアドバイスや質問に答えると同時に、データを集積・解析することによって、医学的福祉的状況を把握して、対症療法の開発や療養状況の悪化予防に役立てている。本年度は対面検診の他、電話やオンラインを用いた検診を実施した。

● COVID-19 患者のリハビリテーション

今年度は、N95 マスクを含む PPE 一式を用いて感染対策のもと、陽性患者のリハビリテーションを施行した。陽性患者の診察は、経験のある医師が担当し、リハビリテーション処方の必要性をよく検討の上、患者さんの不利益を最小限に、療法士のマンパワーの有効利用を図った。療法士はフロア担当制とし、定期カンファレンスも行って病棟看護師とも連携した。病棟での自主訓練を進めた。

空間的ゾーニングを維持し、入院患者のベッドサイドリハビリ対応を継続したが、外来リハビリが増加したため、感染制御部の意見を仰ぎながら、外来患者のリハビリテーションセンター使用時間を前年度より拡大しつつ、適切な空間的ゾーニングを行い、トラブルなく診療を継続した。

また、エアロゾル曝露のリスクが高い嚥下造影検査に関して、前年度は PCR 陰性を確認できた入院患者のみ施行していたが、需要が高いため、十分な感染対策を検討の上、今年度外来患者の検査を再開し特にトラブルなく診療を継続した。

形成外科

1　診療体制

■ 対象疾患

きずあと・ケロイド・瘢痕拘縮/褥瘡・難治性潰瘍/顎顔面の変形/口唇口蓋裂/頭蓋縫合早期癒合症/眼瞼下垂/耳介の形態異常/外鼻変形/顔面の外傷や骨折/顔面神経麻痺/頭頸部再建/腫瘍切除後再建/乳房再建/巨大色素性母斑/血管腫・血管奇形/リンパ浮腫/多指症・合指症

■ 専門外来

ケロイド外来/レーザー外来/口蓋裂機能外来/歯列・咬合外来/頭蓋顎顔面変形外来/血管腫・血管奇形外来/リンパ浮腫外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	3 名
助教(専修医を除く)	3 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	貴志 和生
診療科副部長	矢澤 真樹
外来担当医長	坂本 好昭
病棟担当医長	岡部 圭介
保険担当医長	酒井 成貴
研修医担当主任	酒井 成貴

2　主な診療実績

■ 手術件数

外傷	39 件
先天異常	249 件
腫瘍	371 件
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	95 件
難治性潰瘍	47 件
炎症・変性疾患	48 件
その他	116 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当科は、主に患者 QOL を良好にすることを目指す科であるので、予定手術と待機可能な手術が多い。本年度は、コロナ禍の影響で予定していた手術を施行することができなることがしばしば生じた。

■ 頭頸部再建・顔面神経麻痺

コロナ禍に関係なく、進行がんとなった頭頸部がんの再建手術は行われており、増加傾向が続いている。顔面神経麻痺は、機能的な障害があるものを除けば、多くは整容的側面が強いため、依然マスク生活であることから、待てる手術に関しては待機する傾向にあった。

■ 母斑

切除術、植皮術、培養表皮移植術などで対応している。色素性母斑に対しては凍結療法を積極的に導入している。整容面を重視し、症例に応じた治療を行っている

■ 血管腫・血管奇形

2022 年 1 月に血管腫・血管奇形の診療クラスターを立ち上げ、各科と密な連携を行っている。外来の患者数は、診・再診とも増加傾向であり、症例に応じて、手術治療・血管内治療（硬化療法・塞栓療法）を行い、治療件数も増加している。また乳児血管腫・リンパ管奇形に対する内服治療も行っている。

■ 唇顎口蓋裂

唇顎口蓋裂に対しては、生後 2~3 か月時に行う口唇裂手術、1 歳ごろに行う口蓋裂手術、8~11 歳ごろの混合歯列期に行う顎裂骨移植術という段階的手術治療を引き続き行っている。その他、成長後に行う口唇外鼻の修正手術や、上下顎骨切りによる外科的矯正治療の件数も増加傾向である。周術期には麻酔科、小児科、耳鼻咽喉科など各科と連携し、安全で効果の高い治療を行うことができている。

■ 頭蓋顎顔面

頭蓋縫合早期癒合症は全国の小児科・産婦人科に働きかけることで、紹介時期が徐々に早くなってきて

いることを実感している。コロナ禍による外出自粛のため顔面外傷は減じていることは本年も続いた。一方でマスクをかけるため口元が隠せるため、歯列矯正治療を希望する患者が増えた。それに伴い矯正歯科から外科矯正が必要な患者の紹介が増加した。

■ 眼瞼・眼窩形成

当科では小児から老齢者に至るまで幅広く加療を行っている。高齢化に伴い増加傾向にある眼瞼下垂はもとより、小児の先天性眼瞼下垂の治療が行える数少ない施設の一つである。また悪性腫瘍術後の眼瞼欠損の再建や、網膜芽細胞腫などによる眼球摘出後の義眼床形成術を行っている。疾患の特異性・希少性にも対応した専門機関として、これまで以上に注力していきたい。

■ 四肢体幹

骨軟部及び皮膚悪性腫瘍は様々な部位に生じるので切除後の再建に定型的なものは存在せず、解剖の知識に基づいたオーダーメイド医療を行っている。関係各科と密に連携を取り、治療に当たった。

■ リンパ浮腫

先進医療として以前よりおこなっている光超音波イメージングを用いた特定臨床研究による効果や待機的な手術が予定通り行われたことで、コロナ禍以前の研究開始前時期と比較し 2 倍から 3 倍程度症例数が増加した。

小児科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜神経＞

けいれん/てんかん/発達遅滞/頭痛/神経痛/中枢神経系の感染症/脳血管障害/末梢神経疾患/筋疾患/発達障害（神経発達症）/母斑症を含む遺伝性神経疾患

＜内分泌・代謝＞

低身長/高身長/性分化異常/原発性無月経/小陰茎/停留精巣/尿道下裂/ターナー症候群/クラインフェルター症候群/先天性骨疾患/先天性代謝異常/小児生活習慣病

＜遺伝性疾患＞

先天異常症候群/未診断疾患

＜精神保健＞

神経性食欲不振症/神経症/心身症/小児期うつ病/統合失調症/虐待・育児不安・心的外傷後ストレス障害

＜腎臓＞

学校検尿異常（血尿、蛋白尿）/腎炎/ネフローゼ/腎不全/先天性腎尿路異常/尿路感染症/尿細管疾患/水腎症/嚢胞性腎疾患/高血圧/夜尿症/全身性エリテマトーデス

＜新生児＞

早産児/低出生体重児/合併症のある新生児

＜心臓＞

先天性心疾患/後天性心疾患/不整脈/肺動脈性肺高血圧症/川崎病

＜血液＞

白血病/リンパ腫/神経芽腫/骨肉腫/横紋筋肉腫/ユーイング肉腫/肝芽腫/再生不良性貧血/血小板減少性紫斑病/血友病 A/血友病 B/脳腫瘍

＜呼吸＞

長引く咳・鼻汁/喘息/先天性喘鳴/喉頭軟化症/気管狭窄・軟化症/気管支分岐異常/副鼻腔炎/気管支炎・肺炎/誤嚥/閉塞性睡眠時無呼吸症候群/嚢胞性肺疾患/慢性呼吸不全

＜感染＞

不明熱・重症感染症や COVID-19 感染症を含めた感染症コンサルト/肝移植前後のワクチン接種/各種感染症対策

＜外来総合＞

便秘/夜尿等の日常的な健康問題/思春期の健康問題/予防接種・成長・発達・育児・集団生活等に関する相談

＜アレルギー＞

食物アレルギー/アトピー性皮膚炎/アレルギー疾患全般

＜急性期集中治療＞

呼吸・循環・神経等主要臓器の機能不全がある、または起こる可能性が高い患者（原因疾患を問わず）

■ 検査

長時間ビデオ脳波/頭部画像検査/性の決定・分化に関与する疾患および小児副腎疾患を含む小児期発症内分泌疾患の遺伝子解析/尿ステロイドプロフィルによる性ホルモンの一括分泌動態評価および各種内分泌負荷試験/エクソーム解析・全ゲノム解析・RNA 解析を含む各種遺伝学的検査/発達検査/知能検査/腎生検/24 時間血圧モニタリング/心エコー検査（出生前を含む）/心臓カテーテル検査/心臓電気生理学検査/運動負荷試験/心臓 MRI 検査/心臓核医学検査/喉頭・気管支内視鏡検査/食物負荷試験/皮膚検査/超音波検査/CT 検査/MRI 検査/喉頭・気管支内視鏡検査/ビデオ脳波検査など（他チームと連携して実施）

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	3 名
准教授	2 名
専任講師	7 名
助教（専修医を除く）	16 名

＊専任・常勤のみ

＊教授・専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	高橋 孝雄
診療科副部長	山岸 敬幸
外来担当医長	石井 智弘
病棟担当医長	嶋田 博之
新生児担当医長	飛彈 麻里子
保険担当医長	武内 俊樹
研修医担当主任	新庄 正宜

2　主な診療実績

■ 外来受診患者延べ人数

神経	2,729 人
内分泌・代謝	3,335 人
心臓	3,772 人
新生児	1,684 人
感染症	266 人
血液	698 人
精神保健	2,106 人
外来総合	817 人
アレルギー	998 人
腎臓	683 人
呼吸	297 人
心理	814 人
小児科一般	2,444 人
COVID-19 PCR 検査外来	1,248 人

3　その他の活動実績・取り組み等

当科は、すべての子どもたちの健康のため、包括的・全人的な医療を提供することを目標としている。小児科医は子どもの総合医であり、子どもの代弁者である、という理念のもとに、疾病や障碍を抱えながら生きる子どもたちを、家庭や社会との関わりの中で、ひとりの人間（ひと）としてとらえ、疾病だけでなく子どもと家族の“こころ”も診る医療を実践している。当院小児科には全国でも有数の 13 のサブスペシャリティー領域の専門診療班があり、その連携を通じて、複数の病態を有する子どもから移行期の成人までの包括的な医療を提供している。以下に、本年度の各専門診療班の実績を報告する。

■ 神経班

てんかん、脳性麻痺、遺伝性神経疾患等の包括的診療、注意欠如・多動症を含む神経発達症に対する薬物療法を行っている。母斑症センターにおける神経皮膚症候群、小児頭蓋顔面（クラニオ）センターにおける頭蓋縫合早期癒合症、側弯症センターにおける側弯症の診療を推進している。

■ 内分泌・代謝班

外来新規患者は 300 余名で、入院患者は 180 余名であった。また、一昨年度より我が国初の性分化疾患(DSD)センターを運営し、診療科横断的な医療を提供している。

■　遺伝班

小児遺伝性疾患の患者と家族に対し、臨床遺伝専門医資格を有する医師による国際水準の専門的医療を提供している。倫理的問題に配慮し、必要に応じて、高度な検査および包括的な医療管理を提供している(臨床遺伝学センターの項参照)。

■　精神保健班

医師 3 名、心理士 2 名の診療体制で、コロナ禍を念頭に置いた周産期・他科小児領域を含む子どもと家族の包括的な精神診療、児童虐待防止のための地域連携の強化を継続した。院内における虐待防止マニュアルの作成を開始した。

■　腎臓班

常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名の体制で診療を行っている。尿路感染症やネフローゼ症候群、慢性腎炎、慢性腎臓病患者等の小児腎臓疾患の外来・入院診療を行っている。腎生検や VCUG、レノグラムなどの専門的な検査も積極的に行っている。

■　新生児班

周産期病棟 COVID-19 マニュアル（初版 2020 年 2 月）を適宜更新した。オンライン面会に平行して、病院と患者の連絡アプリ MeDaCa のメール機能を用いて、希望する家族には入院中の患児の写真を送信した。2020 年度には、総入院数が例年の 2/3 程度に減少したが、2021 年度はほぼ例年通りに回復した。

■　心臓班

あらゆる小児循環器疾患を診療し、コロナ禍で制限されたが、心臓カテーテル 105 件（治療 19 件）、心エコー約 1800 件、心疾患の術前術後を含む病棟管理 100 件以上を数えた。また、近年の世界的な課題である先天性心疾患の成育医療（成人先天性心疾患外来・病棟診療）に関して、成人先天性心疾患専門医修練施設として、診療と共に専門医教育を行っている。

■　血液・腫瘍班

本年度は血液腫瘍 8 例、固形腫瘍 7 例、脳脊髄腫瘍 7 例の治療、造血細胞移植 3 例、CART 療法 1 例の診療実績があった。JCCG の多施設共同臨床研究に参加した。関東甲信越地域小児がん連携病院、東京都小児がん診療病院として小児がん診療を行った。

■　呼吸器班

喘鳴の原因精査、気管切開患者の管理などを目的に積極的に内視鏡検査を行っている。なお下気道の検査は、小児集中治療医と協力し小児 ICU で実施している。本年度における内視鏡検査の件数はのべ 129 件であった。

■　感染班

本年度（2021 年度）も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の診療・対策を継続した。COVID-19 に限らず、小児患者の感染症全般と感染対策につき、診療科の境なく毎日相談を受け対応した。肝移植患者へのワクチン接種も継続した。

■　外来総合診療班

夜尿症、便秘症の外来を新たに開設し、力を入れている。日常的な症状（発熱、咳、鼻汁、腹痛、頭痛など)、予防接種、育児、発達など、様々な健康問題の相談窓口として、各分野専門家や医療/教育/福祉資源と連携をとり、広い視点で診療を進めている。

■　免疫・アレルギー班

週に 2 日初診外来を開設し、広く患者を受け入れている。入院食物経口負荷試験に加えて、外来負荷試験も開始した。慶應アレルギーセンターとして、成人を含めた院内の食物アレルギー患者のコンサルテーションを担当している。前年度に引き続き小児科関連病院と共同で臨床研究を行っている。

■　急性期集中治療班

小児 ICU において、小児の重症患者に対する集中治療を一手に担っている。専従医師が 3 名から 4 名に増員され、より安全かつ高度な医療が可能になった。小児 ICU への入室患者数は年々増加傾向であり、今年度は約 270 余名（前年度から約 2 割増）の患者を受け入れ、かつ良好な治療成績を維持している。

産科

1　診療体制

■　対象疾患

月経異常、不妊症、不育症、着床前診断、出生前診断、分娩、そして将来妊娠を考えている方に対する子宮内膜症や子宮筋腫等の治療まで、幅広い分野を対象としている。産科麻酔の専門の医師も加入し、無痛分娩のサポートにも力を入れている。

内科・外科合併症を有する方のみならず、健常な方の妊娠分娩管理も積極的に受け入れている。

■ 検査

不妊症・不育症関連検査/内分泌検査/子宮鏡・子宮卵管造影/超音波・CT-MRI 検査(胎児含む)/着床前診(PGT)/出生前診断(NIPT、羊水検査)

■ スタッフ構成（2022 年度 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	5 名
助教（専修医を除く）	14 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は産婦人科。有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	田中 守
診療科副部長	浜谷 敏生
外来担当医長	春日 義史
病棟担当医長	池ノ上 学
保険担当医長	内田 明花
研修医担当主任	水口 雄貴

2　主な診療実績

■ 不妊症治療

採卵	403 件
人工授精	366 件

■ 分娩

分娩件数	632 件
うち帝王切開	283 件
出生児数	632 人
うち多胎児	29 人
死産児数	3 人

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 無痛分娩施行体制の整備

2020 年 7 月に産科麻酔担当の専従麻酔医を採用後、無痛分娩枠の増設とある程度の時間外対応が可能となり分娩数が増加した。

■ セミオープンシステムの導入

ローリスク妊婦を対象に、近隣の産科施設で妊婦健診を行い、妊娠後期より当院で妊娠・分娩管理を行う体制を構築した。妊婦が通いやすい近隣施設で妊婦健診を行え、また産科合併症を認めた場合は診療体制の規模が大きい当院へ連携が可能であることで、妊婦が安心して出産を迎えられ、分娩数の増加へとつながった。

■ 妊婦への画像転送サービス

胎児超音波画像の妊婦のスマートホンへの転送サービスについて、3D 超音波画像や動画の転送など、機能の拡張を行った。当院で妊婦健診を受けるほぼ全妊婦が活用しており、患者満足度の向上とともに、医師業務の効率化にもつながった。

■ 妊産婦のメンタルヘルスケア

助産師により、妊娠中および産後 2 週間のメンタルヘルスケアスクリーニング（遠隔）を導入し、妊産婦のニーズに対するきめ細やかな対応を行った。

■ 着床前遺伝学的検査（PGT-A）の開始

日本産科婦人科学会がPGT-Aについての見解を改定したことに対応し、当院において従来より行われていた PGT-M/PGT-SR に加えて、PGT-A を開始した。

■ がん・生殖外来の利用拡大への整備

がん・生殖医療には科をまたいだ密な連携が必要となるため、各科の担当者と相談して院内体制を整備してコンサルトシートを改訂しホームページ上で周知したことによって、院内他科からの依頼件数の増加に加えて、他院からの依頼がしやすい体制を構築した。

■ 不妊治療の保険適用導入への体制準備

2022 年 4 月からの不妊治療の保険適用にあたって、医事統括課・外来受付・医師・看護師と連携して、コスト設定から各種説明文書・同意書の整備を行った。

婦人科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜婦人科悪性腫瘍＞

子宮頸がん/子宮体がん/卵巣がん/卵管がん/腹膜がん/絨毛がん/外陰がん/腟がん/その他の悪性腫瘍

＜婦人科良性腫瘍＞

子宮筋腫/卵巣嚢腫

＜その他＞

不正子宮出血/月経困難症/更年期障害/各種感染症/骨盤腹膜炎/クラミジア感染症/子宮内膜症/子宮脱/子宮奇形

■ 検査

コルポスコープ診/細胞診/組織診/子宮鏡検査/超音波検査

■ 専門外来

健康維持外来/子宮頸部腫瘍外来/子宮体部腫瘍外来/卵巣腫瘍外来/子宮鏡外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	5 名
助教（専修医を除く）	14 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は産婦人科。有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	青木 大輔
診療科副部長	阪埜 浩司
外来担当医長	山上 亘
病棟担当医長	西尾 浩
保険担当医長	小林 佑介
研修医担当主任	野上 侑哉（教室統括）

2　主な診療実績

子宮頸部悪性腫瘍（治療件数）	106 件
子宮体部悪性腫瘍（治療件数）	110 件
卵巣・卵管・腹膜悪性腫瘍（治療件数）	57 件
腹腔鏡下手術件数（良性・悪性含む）	825 件

3　その他の活動実績・取り組み等

COVID-19 感染が遷延する中でも、2020 年度に導入した電話診療も継続し、感染予防に努めながら悪性腫瘍に関しては待機することなく積極的に取り組む体制を維持できた。

■ 低侵襲手術

従来の腹腔鏡手術に加え、ロボット支援手術を導入している。ロボット支援手術は、年間 100 例以上の実績があり、2022 年 1 月からは他施設からの指定見学施設となっている。また、高難度新規医療技術である腹腔鏡下広汎子宮全摘出術、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を行える診療体制を整備している。

■ 子宮体癌

低侵襲手術として腹腔鏡手術・ロボット支援手術を積極的に行い（年間 60 例程度）、患者さんへの負担の小さい治療をすすめている。また、早期子宮体癌における妊孕性温存療法も当院では積極的に行い、年間 30-40 例程度の全国でも有数の治療数を経験している。加えて、進行・再発癌への薬物療法として 2021 年末に保険収載されたレンバチニブ＋ペムブロリズマブ療法も積極的に施行している。

■ 子宮頸癌

子宮頸部上皮内病変に対し、レーザー蒸散術を積極的に施行している。この治療は外来手術また流早産のリスクを上げない治療であり、他院からも多くの患者さんを紹介いただいている。また、初期子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術も年間 15 例程度行い、妊孕性に配慮した治療を行っている。

再生医療である腫瘍浸潤リンパ球療法（TIL 療法）が先進医療 B として 2021 年 1 月に認可され、2021 年 12 月に治療を開始した。従来、治癒不可能とされてきた進行再発子宮頸癌に対して長期の無病生存が期待できる治療法であり、我が国で唯一の施行可能施設として、試験を実施している。

■ 卵巣癌

卵巣癌では薬物療法の選択肢が近年増加しており、進行卵巣癌では HRD（homologous recombination deficiency）の検査結果により維持療法が選択される。結果によって遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)が判明することがあり、臨床遺伝センター外来との連携による診療体制を整えている。HBOC センターとも連携し、卵巣癌の患者さんへ、複数科で連携した多方面からの診療を行っている。また進行卵巣癌においても、他科とも連携し完全切除を目指した手術を心掛けている。

■ がんゲノム診療

2019 年 6 月よりがん遺伝子パネル検査が保険収載され、他院の紹介患者さんも含めて積極的ながん遺伝子パネル検査を導入している。当院ではがんゲノム医療中核拠点病院として、エキスパートパネルも定期的に行い、進行再発癌に対する有効な薬剤を探し、治験や患者申し出療養に積極的に組み入れするようにし、従来治療選択がない方にも様々な提案ができるように努めている。

■ 健康維持外来

当外来では更年期女性と婦人科がんサバイバーのヘルスケアに重点を置いており、各主治医と連携をとり、ホルモン補充療法や漢方療法等多角的な QOL 向上への取り組みをおこなっている。また、閉経後に続発する骨粗鬆症管理に有用な TBS（Trabecular bone score）を導入し、骨質評価を含めた治療を行っている。

■ 臨床研究・治験

通称受け皿試験と呼ばれる、患者申し出療養制度の下、がん遺伝子パネル検査後の既承認薬を適応外使用する治療を積極的に 2021 年 3 月より当院で開始した。これにより従来の保険治療や治験がない患者さんへの治療選択肢の提案を行っている。また、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）や JGOG（婦人科悪性腫瘍研究機構）といった国内の臨床研究グループや海外との国際共同臨床研究に参加し、多数の臨床試験を当院婦人科で行っている。

2023 年より卵巣癌 interval debulking surgery 後に ctDNA 陽性である例に対し、標準治療であるニラパリブ単剤による維持療法とニラパリブ＋ベバシズマブ併用療法を比較するランダム化第Ⅱ相試験を慶應婦人科主幹の医師主導治験として多施設共同で開始する予定である。

■ セカンドオピニオン

当科ではセカンドオピニオンに力を入れており、特に子宮体癌や子宮頸癌の妊孕性温存についてのご依頼を多数いただいている。本年度は年間約 40 件行っており、他院の患者さんに、最新の知見に基づいた診療や治療方針の提案を行っている。

眼科

1　診療体制

■ 対象疾患

屈折異常/白内障/ドライアイ/緑内障/水疱性角膜症/円錐角膜/涙道閉塞症/網膜剥離/糖尿病網膜症/黄斑疾患/流行性角結膜炎/近視(進行抑制)/眼瞼下垂/眼瞼腫瘍/眼窩腫瘍/加齢黄斑変性/アレルギー性結膜炎/眼感染症全般/斜視/弱視/小児先天性疾患

■ 検査

視野検査(ハンフリー視野計、ゴールドマン視野計)/OCT(光干渉断層計)検査(前眼部、後眼部)/蛍光眼底造影検査(FAG、ICG)/眼圧検査(非接触型、接触型、アイケア手持眼圧計)/広角眼底写真検査(オプトス社製カリフォルニア)/電気生理検査(VEP、ERG)

■ 専門外来

網膜硝子体外来/角膜外来/ドライアイ外来/神経眼科外来/アレルギー外来/緑内障外来/屈折矯正外来/白内障外来/近視外来(学童近視外来、強度近視外来)/眼形成眼窩外来/メディカルレチナ外来/網膜変性外来/コンタクト外来/円錐角膜外来/小児眼科/セカンドオピニオン外来/眼炎症神経眼科外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	7 名
助教（専修医を除く）	8 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	根岸 一乃
診療科副部長	篠田 肇
外来担当医長	結城 賢弥
病棟担当医長	篠田 肇
保険担当医長	内田 敦郎
研修医担当主任	伴 紀充

2　主な診療実績

水晶体再建術（白内障手術）	1,591 件
網膜硝子体手術	475 件
緑内障手術	371 件
角膜移植術	94 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当科では、大学病院としてすべての眼疾患に対応できる診療体制を整えている。外来診療は眼科一般診療と特殊外来があり、COVID-19 対策を十分に取りながら検査及び診察を行っている。

また、網膜剥離、角膜穿孔、緑内障発作などの緊急疾患には各分野の専門医が即時対応している。手術、薬物治療などは必要に応じて入院の上で治療が行なわれている。病診連携を主軸とし、手術加療後は紹介元の医師と連携を取りながら、患者様の外来通院負担をできるだけ軽減し、適切な治療を継続している。

大学病院としての先進医療としての取り組みとしては、「水疱性角膜症に対する iPS 細胞由来角膜内皮代替細胞移植の安全性及び有効性を検討する探索的臨床研究」に関する臨床研究が実施される。また、遺伝性網膜変性症に対する遺伝子導入治療の臨床応用を目指し、準備を進めている。

皮膚科

1　診療体制

■ 対象疾患

天疱瘡・類天疱瘡・後天性表皮水疱症など/皮膚悪性腫瘍(悪性黒色腫、乳房外パジェット病、有棘細胞癌、メルケル細胞癌、血管肉腫、菌状息肉症、皮膚リンパ腫など)/薬疹/脱毛症/アトピー性皮膚炎/乾癬/皮膚膠原病(皮膚エリテマトーデス、シェーグレン症候群、皮膚筋炎、皮膚血管炎など)/遺伝性皮膚疾患/爪の異常/しみ・あざ

■ 検査

薬剤内服チャレンジテスト/皮膚生検/プリックテスト/パッチテスト/ダーモスコピー検査/光線過敏試験/超音波検査/発汗試験/センチネルリンパ節生検(SPECT)/遺伝子検査(様々な遺伝性疾患、腫瘍)

■ 専門外来

静脈外来/薬疹・アレルギー外来/アトピー外来/パッチテスト外来/皮膚膠原病外来/爪外来/光線外来/腫瘍外来/アトピー指導外来/免疫病外来/遺伝外来/真菌外来/しみ・あざレーザー治療外来/毛髪外来/ダーモスコピー外来/乾癬外来/汗外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	3 名
助教（専修医を除く）	9 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	谷川 瑛子
診療科副部長	高橋 勇人
外来担当医長	種瀬 啓士
病棟担当医長	中村 善雄
保険担当医長	齋藤 昌孝
研修医担当主任	齋藤 昌孝

2　主な診療実績

初診患者数	1,449 人
再診患者数	41,485 人
全身麻酔手術件数	87 件
局所麻酔手術件数	306 件
組織試験採取（皮膚生検）	443 件
光線療法	4,111 件
レーザー治療	460 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ アトピー(性皮膚炎専門)班

アトピー性皮膚炎に対しては 2018 年に承認された抗 IL-4/13 受容体抗体製剤であるデュピルマブに続き、2020 年に外用 JAK 阻害薬のデルゴシチニブ軟膏と内服 JAK 阻害薬であるバリシチニブ、2021 年にはウパダシチニブとアブロシチニブが相次いで承認され、治療の選択肢の幅が大きく広がった。内服 JAK 阻害薬を投与できる診療体制を整え、適応のある患者さんに導入した。また、慶應アレルギーセンターに所属する診療科として、他科との連携を意識した診療も行った。同センターでは 3 ヶ月に一度のカンファレンス（勉強会）を開催している。

■ 乾癬班

乾癬およびその類縁疾患に対しては、2010 年に抗 TNFα 阻害薬であるインフリキシマブが承認されてから毎年のように新しい薬剤が承認されており、現時点で全身療法として治療に使える薬剤は生物学的製剤 11 種類、内服薬 4 種類にまで増加し、治療の選択肢の幅も大きく広がった。これら全ての薬剤を投与できる体制を維持し、患者さんの病態やニーズにあわせた薬剤を選択して治療導入を行った。また、乾癬患者さんは関節症状や代謝異常等、他診療科が関与する合併症を持つ方が多く、該当者はリウマチ膠原病内科や内分泌代謝内科と連携して総合的に治療をする進めることを意識した診療体制の構築に努めた。

■ 腫瘍班

悪性黒色腫や乳房外パジェット病をはじめとした皮膚悪性腫瘍に迅速かつ適切に対応できるよう取り組んだ。標準治療の提供とそのための体制整備がなされている。新規治療法の開発としての治験など、臨床試験に積極的に取り組み、悪性黒色腫を対象とした先進医療、乳房外パジェット病を対象とした治験・患者申出療養、有棘細胞癌などを対象とした治験を実施した。

■ 汗チーム

汗外来は 2019 年 10 月に開設された、専門外来としては最も新しい外来である。汗外来は、原発性局所多汗症および、多汗症を合併する腋臭症を対象疾患としている。外用治療・外科的治療を含めた集学的治療を横断的に検討し、腋臭症・多汗症患者のための最善の治療の提示・提供を行っている。汗外来開設にあたり、マイクロ波を利用した腋窩多汗症の治療機器を導入した。腋窩の多汗の原因となる汗腺の大部分が存在する真皮深層から皮下組織浅層をマイクロ波で加熱し、汗腺を焼灼・凝固し、発汗を抑制する。汗腺を焼灼・凝固するため、高い効果が得られ、長期的に効果が持続する。汗外来における臨床研究として、外来で得られた知見をもとに、腋臭症の発症機序に即した新規治療を開発することを目指している。患者の腋臭スコアと微生物プロファイル及び腋臭物質の評価、並びに患者内の経時変化の評価を行い、腋臭症に対する皮膚常在細菌叢、各種腋臭物質の寄与を探索的に検討している。

■ 毛髪チーム

毛髪外来は、主に円形脱毛症・瘢痕性脱毛症・男性型脱毛症・女性型脱毛症を対象としている。各疾患の病勢・重症度を多角的に評価し、血液検査・画像検査で合併している疾患の有無を調べた後、最適な治療法の提示・提供を行っている。特に円形脱毛症では、脱毛面積の広い重症患者が数多く受診され、ステロイド外用療法・ステロイド局注療法・ステロイドパルス療法・局所免疫療法・エキシマライト療法などを組み合わせ、治療に当たっている。2022 年 6 月からは、重症(脱毛面積 50%以上)の円形脱毛症に対して JAK

阻害薬のバリシチニブが保険適応となり、他の治療に抵抗性であった１０数例の適応症例に導入された。

■　薬剤・食物アレルギー班

アナフィラキシーや蕁麻疹といった即時型アレルギーや、いわゆる薬疹といった遅延型アレルギーの診療を行っている。2021 年 2 月より始まった新型コロナウイルスワクチン接種に関連した副反応に対応すべく、院内での対応チームの一員としても対応に当たった。

■　自己免疫水疱症班

難治性の天疱瘡、類天疱瘡を中心に診療を継続している。昨年度終了したステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたリツキシマブの医師主導治験の結果を受け、2021 年 12 月に治療抵抗性の天疱瘡に対するリツキシマブ投与の保険承認を得ることができた。今後、本治療を適切に患者さんに新しい治療として届けていく。

■　遺伝性皮膚疾患チーム

遺伝外来では、遺伝性皮膚疾患を疑う患者の精査、加療、フォローアップをしている。遺伝学的変化に起因することが疑われる症例の原因や病態の解明に向けて、あらゆる角度から年間 100 例を超える遺伝学的検索を施行し、必要症例には遺伝カウンセリングを施行した。また、当院母斑症センターの連携科として各種神経皮膚症候群の診療を行っている。治療においては、2019 年に表皮水疱症に対して保険適応となったジェイスの培養表皮を用いて、当科通院中の最重症表皮水疱症の患者に対し、復帰回帰変異を起こした皮膚による培養表皮移植術を施行した。

■　爪疾患チーム

爪外来では、爪疾患に関する知識と臨床経験が豊富な医師が中心となって、巻き爪や陥入爪などのさまざまな爪のトラブルに対するケアや治療、爪に生じるグロムス腫瘍などの良性腫瘍やメラノーマなどの悪性腫瘍の診断と外科的治療、さらには爪乾癬や爪扁平苔癬などの炎症性疾患の診断と治療に力を入れている。爪疾患の専門外来は非常に珍しいことから、全国から数多くの紹介患者を受け入れている。最近のトピックとして、巻き爪の治療をより効果的に行うために我々の協力のもとで爪軟化剤の開発が行われてきたが、同剤の第 3 相臨床試験が先般無事に終了し、承認ならびに発売に向けた準備が現在進められているところである。当科の爪外来が、国内における先進的な巻き爪診療の中心拠点として、安全性と有効性の高い治療を全国に向けて普及していけるよう引き続き取り組んでいきたい。

■　皮膚膠原病チーム

様々な膠原病に伴う難治性皮膚症状の診断と治療に取り組んでいる。皮膚症状の改善だけでなく、患者の QOL 向上を目指して、病態に最も適した既存治療法の工夫と生物学的製剤を含む最新治療を積極的に導入して良好な結果を得ている。現在血管炎を含む皮膚疾患の非侵襲的診断法の開発を目指して新たな臨床研究に取り組んでいる。また今後難治性全身性エリテマトーデス/皮膚エリテマトーデスの皮膚病変に対する新規治療薬の治験に参加予定である。

■　今後の目標

世間のニーズに応えるべく、多汗症治療機器として新規に導入したミラドライによる治療提供体制の拡充を行いたい。また、皮膚悪性腫瘍や爪疾患の患者さんの紹介受診が増えており、これらに対応できるよう専門外来を増設し、受診しやすい体制の構築に努めたい。そして、来年度も安全・安心な医療の提供を第一に心がけていきたいと考えている。

泌尿器科

1　診療体制

■　対象疾患

腎癌/腎盂癌/尿管癌/膀胱癌/前立腺癌/精巣癌/副腎腫瘍/腎不全(腎移植含)/尿路感染症/尿路結石/神経因性膀胱/前立腺肥大症/尿失禁/骨盤臓器脱/不妊症/勃起不全/男性更年期障害/先天性水腎症/膀胱尿管逆流/尿道下裂/停留精巣/性分化疾患/総排泄腔遺残/総排泄腔外反/精巣捻転症/尿道外傷

■ 検査

静脈性尿路造影検査/逆行性腎盂尿管造影検査/排尿時膀胱尿道造影検査/逆行性尿道造影検査/尿流動態検査/膀胱尿道鏡検査/前立腺超音波検査/前立腺針生検

■ 専門外来

腎移植外来/膀胱腫瘍外来/前立腺腫瘍外来/排尿機能外来/下部尿路機能外来/生殖機能外来/男性機能外来/小児泌尿器・尿路再建外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	4 名
助教（専修医を除く）	12 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	大家 基嗣
診療科副部長	浅沼 宏
外来担当医長	小坂 威雄
病棟担当医長	水野 隆一
保険担当医長	森田 伸也
研修医担当主任	武田 利和

2　主な診療実績

前立腺摘出術（全てロボット支援）	99 件
前立腺小線源療法	34 件
腎部分切除術	28 件
うちロボット支援	25 件
副腎摘除術（全て腹腔鏡下）	26 件
経尿道的前立腺手術（TURP・HoLEP・TUEB・CVP）	70 件
尿道形成術	47 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当科では、泌尿器がん症例、排尿障害症例、小児泌尿器科疾患症例等に対して高度な医療を提供するための取り組みを行っている。

■ 泌尿器がん

泌尿器がん症例に対しては、ロボット支援手術、腹腔鏡手術といった低侵襲治療を提供している。ロボット支援下の前立腺摘除術、腎部分切除術、膀胱全摘除術など多くの疾患に施行可能となっている。また、最新の抗がん剤や分子標的薬を用いた治療、あるいは遺伝子パネル検査などを積極的に行っている。また、多くのグローバル治験に参加していることから幅広い治療選択肢が可能となっている。

■ 排尿障害

CVP レーザー機器の導入によってより低侵襲な前立腺蒸散手術を迅速に提供できる体制が構築された。抗凝固薬内服中の方への治療が可能となっている。

■ 小児泌尿器科

小児科と連携した小児泌尿器科疾患への対応が確立されている。腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術を、ロボット支援下に積極的に行っている。

■ その他

慢性腎臓病に対する腎移植術など、COVID-19 下であっても多様な泌尿器疾患に対応できる専門家が先進的な医療を提供できる体制を構築している。

耳鼻咽喉科

1　診療体制

■ 対象疾患

外耳炎/中耳炎/慢性中耳炎/真珠腫性中耳炎/耳硬化症/耳小骨奇形/側頭骨腫瘍/聴神経腫瘍/聴器癌/外耳道閉鎖症/先天性耳瘻孔/耳管狭窄症/耳管開放症/耳鳴症/聴覚過敏/突発性難聴/低音障害型感音難聴/メニエール病/騒音性難聴/機能性難聴/遺伝性難聴/先天性難聴/ムンプス難聴/外リンパ瘻/前庭神経炎/ベル麻痺/ラムゼイ・ハント症候群/めまい/副鼻腔炎/アレルギー性鼻炎/小児耳前瘻孔/小児の顔面・頸部疾患(正中頸嚢胞・側頸瘻、梨状窩瘻)/鼻出血/鼻中隔弯曲症/肥厚性鼻炎/術後性頬部嚢胞/嗅覚障害/鼻副鼻腔腫瘍/アデノイド増殖症/扁桃肥大/急性咽頭炎/急

性扁桃炎/扁桃周囲炎/習慣性扁桃炎/扁桃周囲膿瘍/急性声帯炎/急性喉頭蓋炎/喉頭浮腫/喉頭蓋嚢胞/喉頭肉芽腫/反回神経麻痺/痙攣性発声障害/喉頭癌/喉頭白板症/喉頭血管腫/喉頭奇形/喉頭狭窄/喉頭異物/喉頭外傷/嚥下障害/咽喉頭異常感症/上顎癌/舌癌/口腔底癌/上咽頭癌/中咽頭癌/下咽頭癌/原発不明癌頸部転移/甲状腺癌/耳下腺癌/顎下腺癌/頭頸部悪性リンパ腫/副咽頭間隙腫瘍/頸動脈小体腫瘍/頸部神経鞘腫/唾液腺腫瘍/喉頭乳頭腫/ガマ腫/睡眠時無呼吸症候群

■ 検査

聴覚機能検査/補聴器適合検査/新生児聴覚スクリーニングとその後の精密検査/ABR/ASSR/蝸電図/OAE/耳管機能検査/ ABLB テスト/SISI テスト/Bekesy 検査/プロモントリーテスト/心理検査/耳鳴検査/側頭骨 3D-CT/内耳・内耳道 MRI/中耳 MRI(プロペラ法含む)/ 難聴の遺伝子診断/ENoG/言語発達検査/平衡機能検査/電気眼振検査/VEMP/喉頭内視鏡検査と発声機能検査/ 下咽頭ファイバースコープ/超音波検査/CT/シンチグラム(ガリウム・甲状腺・唾液腺・骨)/穿刺吸引細胞診(cFNA)/頭頸部 MRI-MRA/ RAST/基準嗅力検査/静脈性嗅覚検査電気味覚検査/鼻腔通気度検査/PSG

■ 専門外来

難聴耳鳴外来/中耳外来/副鼻腔炎外来/頭頸部腫瘍外来/喉頭外来/気管食道外来/アレルギー嗅覚外来/音声外来/めまい外来/聴覚外来/補聴器外来/人工内耳外来/小児言語聴覚外来/側頭骨外科外来/難聴遺伝外来/吃音外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	4 名
助教（専修医を除く）	9 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	小澤 宏之
診療科副部長	大石 直樹
外来担当医長	西山 崇経
病棟担当医長	関水 真理子
保険担当医長	神崎 晶
研修医担当主任	甲能 武幸

2　主な診療実績

耳科手術	251 件
（鼓室形成術、アブミ骨手術、人工聴覚器手術など）	
鼻副鼻腔手術	154 件
（内視鏡下鼻副鼻腔手術など）	
頭頸部悪性腫瘍手術	127 件
（舌･口腔･咽頭悪性腫瘍手術など）	
唾液腺手術	45 件
（耳下腺腫瘍手術、顎下腺腫瘍手術など）	
音声･嚥下改善手術	73 件
（喉頭微細手術、喉頭形成術など）	
頭蓋底手術	54 件
（聴神経腫瘍手術、経鼻的内視鏡頭蓋底手術など）	

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 腫瘍班

コロナ禍の中での診療が続いたが、受診される患者さんの人数は大分戻り、良性疾患の手術についても通常通り行った。頭頚部領域の診療は飛沫のリスクが高いが、職員全員の感染対策の徹底により、クラスターを出すことなく 1 年間の診療を行った。

■ 耳班

感染対策を徹底した上で、中耳手術、人工内耳などの人工聴覚器手術、側頭骨外科手術、聴神経腫瘍手術などのあらゆる耳科手術に対応している。また、軟骨伝導補聴器、Baha、ADHEAR の比較試聴を開始し、適応疾患が重複する人工聴覚器診療を一層充実させた。また、手術加療だけでなく、外来診療や臨床研究にも引き続き注力していく。

■ 喉頭班

Lumenis 社の CO2 レーザー機器を新規購入したの

で、早期喉頭癌や咽喉頭良性腫瘍に対する経口的レーザー手術（Transoral Laser Microsurgery; TLM）を積極的に行った。外来においては、今まで通りの音声・嚥下に関する専門外来においては、言語聴覚士との連携のもと専門診療や臨床研究にも例年通り注力している。

■ 鼻アレルギー領域

2020 年 3 月に難病である好酸球性副鼻腔炎に適応追加となった抗 IL-4/13 受容体抗体製剤を 2021 年度は積極的に導入して、本疾患に苦しむ患者の QOL 改善を図ることができた。10 例近い導入例があったため、スムースな対応が可能となった。また、新型コロナ感染症による受診抑制が徐々に緩む中、鼻副鼻腔関連手術も継続的に行われた。慶應アレルギーセンターの一員として他の診療科と連携して鼻アレルギー疾患の診療・研究・医療連携会を行った。約 1 年ごとに担当するアレルギーセンターカンファレンスも当科主催で行われ、参加多数で盛況であった。

精神・神経科

1　診療体制

■ 対象疾患

気分障害(うつ病、双極性障害)/統合失調症/不安障害(社会恐怖や特定の恐怖症などの恐怖症)、全般性不安障害、パニック障害、強迫性障害、外傷後ストレス障害(PTSD)、急性ストレス障害/発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症など)/心身症・身体表現性障害・自律神経失調症/摂食障害(神経性無食欲症、拒食症、過食症)/睡眠障害(不眠症、過眠症、睡眠・覚醒リズム障害など)/身体疾患に伴う精神的問題/てんかん/物質関連障害/思春期・青年期精神障害/認知症/せん妄/老年期精神障害/器質性精神障害/家庭・学校・職場のメンタルヘルス/高次脳機能障害/頭部外傷後遺症/脳器質疾患

■ 検査

一般血液検査/心理検査/神経心理学的検査(認知機能検査)/頭部 MRI、頭部 CT 検査/脳波検査/光トポグラフィー検査/脳血流シンチ検査

■ 専門外来

うつイメージング外来/グループセラピー外来/クロザピン外来/高次脳機能障害外来/睡眠外来/認知リハビリテーション外来/児童思春期外来/消化器•心身症/てんかん/働く人のメンタル/精神療法/Seizure/摂食障害/認知行動療法(うつ・不安)/マインドフルネス/むずむず脚外来/発達障害外来/治療抵抗性うつ病に対する経頭蓋磁気刺激(r TMS)療法外来/森田療法外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	7 名
助教（専修医を除く）	6 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	三村 將
診療科副部長	村松 太郎
外来担当医長	佐渡 充洋
病棟担当医長	前田 貴記
保険担当医長	山縣 文
研修医担当主任	滝上 紘之

2　主な診療実績

初診患者数（診断別）

神経発達症群	97 人
統合失調症または他の一次性精神症群	89 人
気分症群（うつ病など）	457 人
不安または恐怖関連症群,ストレス関連症群	385 人
食行動症または摂食症群	99 人
物質使用症群または嗜癖行動症群	35 人
パーソナリティ症群など	15 人
神経認知障害群（認知症など）	73 人
その他	153 人

3　その他の活動実績・取り組み等

当科では、気分障害・統合失調症・不安障害・摂食障害・睡眠障害・認知症・脳器質疾患・てんかん、発達障害、など全ての精神・神経疾患の診断・治療を行っている。診断のため、各種専門的な心理検査・神経心理学的検査を受けることが可能である。難治性の症例、電気けいれん療法や精神疾患に伴う身体合併症の入院治療目的の症例などの紹介初診を広く受け入れている。

特に専門性の高い治療として、認知症を含む器質性精神障害の精査、難治性うつ病などに対する電気けいれん療法や磁気刺激療法、難治性統合失調症に対するクロザピン治療の導入、強迫性障害や摂食障害などに対する認知行動療法、発達障害の精査、などを行っている。

地域連携のために、毎年 12 月に、病診連携セミナーを開催し、最新のトピックを提供し、地域の先生方との交流を図っている。

以下のような多岐にわたるのような研究室があり、先進的な臨床研究を進めている。精神薬理学、精神病理学、生物学的精神医学、精神生理学、司法精神医学、社会精神医学、神経心理学、心理学、Integrated Innovation Lab for Psychiatry、児童精神医学、Multidisciplinary Translational Research Lab、計算論的精神医学、認知行動療法。

放射線治療科

1　診療体制

■ 対象疾患

口腔腫瘍/肺がん/頭頸部がん/前立腺癌/子宮頸がん/脊髄腫瘍/転移性脳腫瘍/脳原発悪性リンパ腫/髄膜腫/神経膠腫/脳腫瘍/縦隔腫瘍/食道がん/胃がん/膵癌/胆道癌(肝外胆管癌、胆嚢癌)/肝臓癌(肝細胞癌、胆管細胞癌)/乳がん/多発性骨髄腫/悪性リンパ腫/悪性腫瘍一般(脳腫瘍、頭頸部がん、食道がん、乳がん、肺がん、肝臓がん、胆道がん、胃がん、膵臓がん、直腸がん、子宮頸がん、前立腺がん、白血病、悪性リンパ腫、各種悪性肉腫、小児がん、転移性腫瘍など)/良性脳腫瘍(髄膜腫、下垂体腺腫など)/一部の良性疾患(ケロイドなど)

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	3 名
助教（専修医を除く）	4 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	茂松 直之
診療科副部長	大橋 俊夫
外来担当医長	深田 淳一
病棟担当医長	公田 龍一
保険担当医長	吉田 佳代
研修医担当主任	吉田 佳代

2　主な診療実績

放射線治療患者実人数（新患＋再患）	1,048 人
強度変調放射線治療（IMRT）	304 件
定位放射線治療（脳＋体幹部）	91 件
腔内照射	54 件
ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法	36 件
緩和的放射線治療	245 件

3　その他の活動実績・取り組み等

本年度は放射線治療専門医 9 名のほか、医学物理士 2 名、放射線技師 8 名(放射線治療専門技師 1 名、医学物理士 2 名、放射線治療品質管理士 1 名の有資格者を含む)、看護師 3 名（がん放射線療法認定看護師 1 名含む）のチームで診療にあたった。

外部放射線治療では前年度に比較して「定位放射線治療」のうち、寡数個の遠隔転移に対する体幹部定位放射線治療や骨転移に対する定位放射線治療や限局性前立腺がんに対する定位放射線治療の実施件数が増加した。

各診療科との定例カンファレンスは今年度もウェ

ブカンファレンスが踏襲されたが一部対面のカンファレンスも復帰した。

新たな取り組みとして紙媒体で運用している照射録、各種チェックリストを一枚の照射録に統合した。この取り組みにより従来問題となっていた記載漏れや紛失遺失のトラブルが大幅に減少した。

治療機器の精度管理は、リニアックは AAPM TG142、小線源治療装置は JASTRO の診療･物理 QA ガイドラインに準拠した項目を従前より実施している。日次、月次品質管理は担当者を決めて行った他、年次項目に関しては年間スケジュールを策定して取り組んだ。

医用原子力技術研究振興財団による出力線量測定事業、日本臨床腫瘍研究グループ放射線治療グループ医学物理ワーキンググループによる郵送第三者評価、そして米国の IROC・RDS によるオフサイト監査の 3 種類の外部評価を受け承認を得た。

放射線診断科

1　診療体制

■ 対象疾患

あらゆる領域のがん・腫瘍などの診断/動脈瘤(腎・脾臓等)/血管腫/動静脈奇形(肺・腎等)

■ 検査

消化管 X 線造影/超音波一般/MRI/CT/血管内治療/PET 検査/SPECT 検査

■ 専門外来

画像診断外来/IVR 外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	7 名
助教（専修医を除く）	17 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	陣崎 雅弘
診療科副部長	中塚 誠之
外来担当医長	中塚 誠之
病棟担当医長	山田 祥岳
保険担当医長	井上 政則
研修医担当主任	鈴木 達也

2　主な診療実績

CT（健診含）	59,506 件
MRI（健診含）	30,041 件
超音波（健診含）	32,313 件
PET	6,197 件
核医学／SPECT	4,371 件
血管造影 IVR	1,271 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ CT

COVID-19 感染拡大前と同程度の検査件数が実施できるよう業務･運用を見直し、増加する検査に対応した。

■ MRI

GE ヘルスケア社・MRI 装置(3T)に、深層学習を利用した画像再構成法を導入し、より短時間のうちに高画質な画像を取得できるようになった。また、MR 対応シリンジポンプや、小児モニタリングシステムを導入し、検査の安全性を向上させた。

■ IVR

COVID-19 の影響から回復し、年間 1289 件の IVR 手技を実施した。また、凍結治療装置が導入され、5 月に小径腎細胞癌の凍結治療が開始された。

■ 核医学

負荷心筋シンチグラフィ施行する際に使用する心電図測定装置、血圧計を更新し、これにより運動負荷時においてもより正確に心電図および血圧を測定できるようになった。

■ 消化管造影

キヤノンメディカルシステムズ社の最新の透視装置 ASTX-I9000/J2 を導入し、トモシンセシス撮影が行えるようになった。

■ 超音波

富士フイルム社の最新の超音波装置であるArietta850を導入し、表在臓器の高解像化、微細血流の可視化が可能になった。

■ AI・IT

AIを用いた診断支援機能を持つSAIビューアに、胸部CTの肋骨骨折の検出支援機能を追加した。これにより読影業務の効率化、負担軽減が期待される。

麻酔科

1　診療体制

■ 対象疾患

＜手術センター＞

全身麻酔・監視下鎮静を必要とする手術・処置・検査全般

＜痛み診療センター＞

腰痛症/坐骨神経痛/腰部脊柱管狭窄症/腰椎椎間板ヘルニア/腰椎椎間板症/圧迫骨折/頚椎症/頚椎症性神経根症/頚椎ヘルニア/慢性腹痛/緊張性頭痛/非定型顔面痛/三叉神経痛/帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛/複合性局所疼痛症候群（CRPS）/閉塞性動脈硬化症/バージャー病/顔面神経麻痺

＜集中治療センター＞

集中的治療を必要とする重症病態のすべて

＜緩和ケアセンター＞

緩和ケアを必要とする苦痛

■ 検査

血液検査/レントゲン検査/CT・MRI検査/仙骨硬膜外造影検査/サーモグラフフィー検査

■ スタッフ構成（2022年3月時点）

教授	1名
准教授	2名
専任講師	1名
助教（専修医を除く）	24名

＊専任・常勤のみ。

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	森﨑 浩
診療科副部長	小杉 志都子
外来担当医長	山田 高成
病棟担当医長	長田 大雅
保険担当医長	小杉 志都子
研修医担当主任	御園生 与志

2　主な診療実績

＜手術麻酔＞

全身麻酔	8,205件
術後PCA管理	3,570件

＜無痛分娩＞

症例数	181例

3　その他の活動実績・取り組み等

■ ロボット手術の増加

ロボット手術の適応拡大を受け、手術件数が増加した。5月からロボット手術を支援するワーキンググループが正式に稼働し、安全性の追求、及び診療科横断的な技術交流などが展開されるようになった。

■ 心臓手術の低侵襲化

コロナ禍でも手術を延期できない重症患者に対する心臓手術が継続的に行われてきた。術式の低侵襲化やカテーテル治療の適応拡大など、術式の発展が見られた一方で、麻酔技術もより複雑・高度化が進んだ。当科では、国内におけるリーダー的立場で、安全性の高い麻酔管理を実践している。

■ 産科麻酔の充実

新たに立ち上げられた産科麻酔部門が軌道に乗り、周術期の麻酔管理の質が向上した。当院では、麻酔科医の立ち会いのもと、年間150件を超える無痛分娩が行われている。

■ 他施設からの研修受入れ

特色ある症例、高度な麻酔の研修のために、他院からの麻酔科医の研修や見学を継続して受入れた。

■ 集中治療センター

ICU専従医として常駐し予定手術患者、救急患者、院内重症患者を受け入れている。12床のICUに加

え 26 床の HCU のベッドコントロールも担当し、一元的に重症患者の集中治療体制を整えた。ICU において延べ 1,185 名、内コロナ重症患者を 49 名受け入れた。呼吸ケアチームでは一般床における人工呼吸器装着患者 延べ 82 名の人工呼吸管理を行った。Rapid Response System（医師、看護師、医用工学技士、理学療法士で構成）の対象を全成人病棟に拡大し、より広く早期対応を行うことで院内急変の予防に取り組んでいる。

■　疼痛診療部門

知覚･痛覚定量分析装置が生理検査として実施できるようになった。新たに疼痛心身症外来を新設し、学際的痛み医療の発展に注力した。

救急科

1　診療体制

■ 対象疾患

院外心肺停止/ショック/意識障害/外傷/熱傷/敗血症/一過性意識障害（失神など）/体温異常（熱中症または偶発性低体温症）/急性冠症候群/脳血管障害/大動脈疾患/急性中毒/急性腹症/上気道閉塞/吐下血/喀血/めまい/不整脈/呼吸困難/消化管異物/尿閉/高血圧緊急症/軟部組織感染症/鼻出血/電撃傷/化学損傷/溺水

上記を中心として、内因性、外因性を問わず対応している。

■ 検査

採血/レントゲン/超音波検査/CT/MRI/血管造影/培養検査

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	2 名
助教（専修医を除く）	10 名

＊専任・常勤のみ

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	佐々木 淳一
診療科副部長	本間 康一郎
外来担当医長	上野 浩一
病棟担当医長	山元 良
保険担当医長	宇田川 和彦
研修医担当主任	吉澤 城

2　主な診療実績

救急車搬入件数	総件数	4,492 件
	3 次救急	106 件
救急車応需率		65%
入院患者数		235 件
うち非外傷		80 件
体幹部外傷		41 件
頭部外傷		34 件
骨盤四肢外傷		80 件
手術件数		224 件
うち体幹部		19 件
骨盤四肢		144 件
非外傷		61 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 慶應ホットライン

近隣のクリニックや産業医からの救急車を呼ぶほどではないが当日診療が必要な場合の診療依頼ホットラインに当科医師が直接対応する運用を継続した。

■ 院内救急

院内急変患者が発生すると救急センターに連絡が入り、常駐する救急医が現場に駆けつけ対応する体制が整っている。2021 年には 181 件の院内救急に対応した。

■ COVID-19 診療チーム

COVID-19 診療において、集中治療室への入室が必要な重症症例は全て当科が主診療科となり診療を担った。

■ 医師主導治験

重症 COVID-19 に対する医師主導治験を実施した。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック医療支援

歯科・口腔外科

1　診療体制

■ 対象疾患

顎口腔腫瘍・口腔がん/顎変形症/顎口腔インプラント/小児口腔外科疾患/口腔粘膜疾患/顎骨骨髄炎/薬剤関連顎骨壊死/顎骨嚢胞/顎口腔外傷/歯周病/顎補綴/歯性感染症/埋伏歯/う蝕/歯列不正/顎関節症/口腔機能ケア

■ 検査

SPECT/CT(口腔がん、薬剤関連顎骨壊死、顎骨骨髄炎)/唾液腺造影法/唾液分泌機能検査(唾液腺シンチグラフィー)/唾液量検査(ガム試験)/味覚検査/口腔腫瘍検査/咬合異常検査/歯周病検査/う蝕検査/歯列不正検査/口腔内細菌検査/歯科金属補綴物分析検査/口臭検査

■ 専門外来

歯周病外来/顎関節障害外来/口腔顔面痛外来/口腔腫瘍外来/口腔粘膜疾患外来/口蓋裂外来/矯正外来/補綴外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	4 名
助教（専修医を除く）	10 名

＊専任・常勤のみ

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	中川 種昭
診療科副部長	莇生田 整治
外来担当医長	堀江 伸行
病棟担当医長	宮下 英高
保険担当医長	加藤 伸
研修医担当主任	角田 和之

2　主な診療実績

＜初診患者数＞

歯科	776 人
口腔外科	2,335 人
口腔機能ケア	1,844 人

＜症例数＞

悪性腫瘍	48 件
良性腫瘍	88 件
顎変形症	40 件
デンタルインプラント埋入手術	177 件
インプラント関連顎骨再建術	9 件
顎骨骨折	25 件
嚢胞	67 件
歯性感染症	89 件

3　その他の活動実績・取り組み等

本年度も COVID-19 感染拡大の影響は続いたが外来診療や入院および外来手術の大幅な制限は可能な限り行わず、徹底した感染対策を実施し診療実績を維持するよう努力した。

口腔外科分野では、口腔に生じる腫瘍性疾患、骨格異常、および炎症性疾患等に対し標準的な手術を行うと共に、コンピュータ支援下手術、サージカルガイド下手術、口腔がんの全周迅速診断などを積極的に取り入れ、低侵襲で精度の高い治療を提供できる体制を整えている。また、腫瘍や外傷で生じた欠損に対する形態や機能の回復を重視しており、口腔インプラントを応用した咀嚼機能や咬合の回復に力を入れている。

また、歯周病、口腔粘膜疾患、補綴（入れ歯）、および顎関節症などで専門的な治療を必要とする患者に向けた専門外来を設けており、地域の歯科医院と積極的に病診連携を深めている。腫瘍センター内に口腔機能ケア外来を設置し、臨床各科との密接な連携のもと、基礎疾患を有する患者の一般歯科治療を行いながら、手術、がん化学療法、および造血幹細胞移植術等を他科で実施する患者に対し、看護部と協働した口腔機能ケアを行っている。

総合診療科

1　診療体制

■ 対象疾患

原因不明の発熱、体重減少、全身倦怠感、原因の特定が難しい各種症状/受診すべき診療科の特定が難しい諸症状/救急車で受診するほどではない体調不良、高血圧/糖尿病/脂質異常症/高尿酸血症などの生活習慣病や慢性疾患を複数合併している多疾患併存状態(Multimorbidity)、老年症候群、ポリファーマシー

■ 検査

各種採血検査/尿検査/心電図検査/Ｘ線検査/超音波検査/CT・MRI 検査/各種生理機能検査

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

准教授	1 名
専任講師	1 名
助教（専修医を除く）	1 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	藤島 清太郎
診療科副部長	平橋 淳一
外来担当医長	安藤 崇之
保険担当医長	平橋 淳一
研修医担当主任	平橋 淳一

2　主な診療実績

初診患者数	349 人
再診患者数	5,156 人

3　その他の活動実績・取り組み等

当科は、1 号館 1 階 1E エリア内において主として再診および初診患者の外来診療を行っている。月・火・木午前には初診専門外来を別途設け、初診患者の診察に十分な時間をかけられるよう配慮している。初診外来では、様々な急性・慢性の症状・徴候を呈する患者を診療している。COVID-19 パンデミック以前に行った分析では、不明熱、易疲労感、体重減少、食思不振、頭部・体幹・四肢の痛み、四肢のむくみ・腫れ、皮疹、めまい、動悸、息切れ、咳嗽など多岐に渡っていた。診察の結果、緊急性が高い・専門的診療が必要と判断した場合は、速やかに適切な診療科に繋ぐが、感染症やアレルギー疾患など、当科で診療を継続する場合も多かった。COVID-19 のワクチン接種後の体調不良や COVID-19 罹患後に長引く症状の患者の診療にもあたった。また、健診で発見された検査異常に対する精査の依頼や生活習慣病の全身的管理の要望にも柔軟に対応した。

再診外来では、高齢者を主として多疾患併存の患者を中心に診療している。また、当院の専門診療科に通院する患者において、併存する慢性疾患を包括的に診る役割も担っている。院内紹介では専門診療科に通院中の患者において新規に出現した各種症状の原因精査を行い、診断に基づいて適切な治療へと繋げている。

また、院外の研修関連施設向けの勉強会として KEIO ジェネラリストセミナーを開始した。関連施設の指導医や総合診療に興味を持つ学生や研修医を対象に他科の講師も招いて勉強会を 5 回開催した。

薬学部と連携して外来診療におけるポリファーマシーに関する研究や百寿総合研究センターと連携して川崎市での超高齢者のコホート研究を実施した。

臨床検査科

1　診療体制

■ 対象疾患

すべての診療科から依頼される臨床検査を集中して行っている。がんを含む悪性腫瘍、脂質異常症、高血圧、糖尿病といった生活習慣病から、各種感染症、膠原病などの自己免疫疾患、心血管病、血液疾患、呼吸器疾患、腎臓病、肝臓病や膵臓病を含む消化器病、神経筋疾患、運動器疾患のほか、先天性や後天性の代謝異常症や内分泌疾患、手術に関係する検査、妊娠出産に関係する検査、薬物検査、健康診断、人間ドックにおける検査も行う。これらは血液、尿、便、体液などを分析する検体

検査と、心機能、肺機能・神経機能、血管検査などの生体機能検査(生理機能検査)に分けられ、365 日 24 時間対応している。

■ 検査

検体検査(血液・尿・便・喀痰・その他)/生理機能検査(心・肺・神経・代謝・血管)/画像検査(超音波)

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	2 名
助教（専修医を除く）	3 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	村田 満
診療科副部長	涌井 昌俊
保険担当医長	武井 茂樹
研修医担当主任	三ツ橋 雄之

2　主な診療実績

＜検体検査＞

院内検体検査	8,605,610 件
微生物検査	143,842 件
外部委託検査	222,718 件

＜生理機能検査＞

心機能	66,268 件
小児心機能	5,581 件
肺機能	15,030 件
神経機能	6,848 件
血管	3,788 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 検体検査

2020 年度に引き続き、COVID-19 に対する病原体核酸増幅検査を実施し、COVID-19 の診療および感染管理に貢献した。

具体的には、Roche Diagnostics 社の Cobas Liat システムを利用し、COVID-19 に対する病原体核酸増幅検査の 24 時間運用を開始し、迅速な病原体検出をいつでも可能にした。

さらに変異株の出現に合わせ、主要変異の Real-Time PCR 法を応用したスクリーニングを開始し、病原体の変異に応じた柔軟な病床管理や流行予測に貢献した。

■ 生理機能検査

生理機能検査全体の件数は、COVID-19 の影響で検査件数が落ち込んだ前年から 30%程度増加した。心機能検査室では、週に一回カンファレンスを行い循環器内科医と一緒に最新の技術や情報の習得、症例の検討などを行った。

COVID-19 の流行に伴い検査前 PCR 検査を行っていた肺機能検査は、7 月から検査前 PCR 検査を中止し、感染対策を行いながら予約枠の制限を緩和した。検査数は徐々に増加傾向である。

病理診断科

1　診療体制

■ 対象疾患

当科では各診療科から提出される検体から標本を作製し、肉眼や顕微鏡で形態的に観察し最終診断を行っている。診断対象は全臓器にわたり、生検組織や手術で摘出された臓器の組織診断、体から剥離した細胞や吸引された細胞を診断する細胞診の診断結果に基づいて臨床各科の治療方針が決定される。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

准教授	1 名
専任講師	3 名
助教（専修医を除く）	2 名

＊専任・常勤のみ。

＊専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

診療科部長	大喜多 肇
診療科副部長	眞杉 洋平

保険担当医長　　辻川 華子
研修医担当主任　辻川 華子

2　主な診療実績

組織診	21,644 件
うち術中迅速組織診	1,366 件
細胞診	22,679 件
病理解剖	31 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 病理組織診ならびに細胞診

2020 年度は COVID-19 感染拡大により各診療科で行われる手術や検査が減少したため、病理組織診断や細胞診に供する検体数が減少したが、2021 年度は 2019 年度には及ばないものの回復した。最終的な病理組織診ならびに細胞診の年間検体数はそれぞれ 2019 年度比で 9.4%減、1.5%減であった。

2021 年 1 月診断支援のための部門システム更新を行った。更新されたシステムは順調に運用され、更新されたシステムを基盤として検体取り違い防止策を講じた標本作製工程を構築している。特殊染色オーダーのシステム化、スライドガラス印字等の自動化などにより、省力化、インシデントの減少を目指した運用を行っている。さらに未読診断レポートの適切な管理体制の構築のための検討を進めている。また、当院における AI ホスピタルプロジェクトの一環として、病理画像を解析する AI ソフト開発の基盤となるデータベース構築を進めた。Philips 社製イメージスキャナーによる、スライドスキャンの診療上の有用性の検討をはじめている。

ゲノム診療においても、標本選択・作製、エキスパートパネルへの参加を通し、がん遺伝子パネル検査・がんゲノム医療に貢献している。

日本病理学会が認定する資格として、医師 2 名が病理専門医を取得した。また、日本臨床細胞学会が認定する細胞診専門医、細胞検査士資格も積極的に取得するようにしている。

■ 教育活動

病理診断科での研修を希望する初期研修医の研修を受け入れた。また、慶應義塾大学病院病理診断科初期臨床研修プログラムの基幹施設として、病理専門医を目指す専修医 6 名の教育を行った。

■ 病理解剖

年間 31 例の病理解剖が実施され、10 回の CPC(clinicopathological conference、臨床・病理カンファレンス)が開催された。

＜ 診療施設部門＞

予防医療センター

1　診療体制

■ 検査

＜基本コース＞

標準ドック(X 線)(内視鏡)/消化器・肺がん検診ドック/スーパーがん検診ドック

＜専門ドック＞

心臓血管ドック/脳画像ドック/レディースドック/レディース画像ドック/メタボリックシンドローム・腎臓ドック/運動器ドック

＜セット検査＞

乳がん検査セット/子宮頸がん検査セット/腫瘍マーカーセット/甲状腺セット/睡眠時無呼吸検査セット

＜オプション検査＞

脳 MR・IMRA/上腹部 MR(IMRCP を含む)/骨盤 MRI/腰椎 MRI/PET-CT/ホルター心電図/胃がんリスク(ピロリ抗体)検査/乳房超音波/頸動脈超音波/甲状腺超音波/マンモグラフィ/脈波測定(ABI-baPWV)/骨密度・体組織測定/大腸内視鏡

■ 設備・機器

多列 CT 装置(64 列)2 台/MRI 装置(3T/1.5T)各 1 台/PET-CT 装置 2 台/消化管 X 線装置(FPD-C アーム式) 2 台/消化管内視鏡装置 (NBI 装備) 3 台/乳房 X 線撮影装置 1 台/全身用骨塩測定装置 1 台/婦人科コルポスコピーおよび経膣エコー1 セット/超音波装置 (腹部・乳腺・血管用) 3 台/超音波装置 (心臓用) 1 台

■ スタッフ構成 (2022 年 3 月時点)

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	4 名
助教 (専修医を除く)	22 名

＊専任・常勤のみ。

＊有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　高石 官均

副センター長　百島 祐貴

2　主な診療実績

受診者数	5,837 人
上部消化管内視鏡件数	5,088 件
下部消化管内視鏡件数	977 件
MRI 実施件数	6,005 件
CT 実施件数	6,742 件
超音波実施件数	11,672 件
PET-CT 実施件数	875 件
各診療科へのコンサルテーション件数	1,944 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19 への対応

当センターでは、厚生労働省・新型コロナウィルス感染症対策である「健康診断実施時における新型コロナウィルス感染症対策」の遵守に加えて、受診者の方に安心してドックを受けていただくために、受診者の方全員を対象として事前に唾液 PCR 検査を行い陰性であることを確認してから受診していただいている。さらに受診者の方全員のプログラムに入っている低線量胸部 CT を来院後最初の検査として受けていただき、読影上 COVID-19 関連肺炎が疑われる場合は当院呼吸器内科にコンサルテーションを行っている。また慶應義塾教職員を対象とした迅速 PCR 検査も行っている。

■ 部門としての目標と振り返り

当センターではハード面、ソフト面ともに、最先端の診断技術による精度の高い健診・検診を提供し、専門性が高くきめ細かな結果説明と健康指導によるフォローアップを行うことを目標としている。2023 年秋に当部門が麻布台ヒルズへ移転拡張するので、そ

れに向けた新たな先進的なプログラム開発や体制づくりに注力していく。

■ 臨床研究への取り組み

当センターでは多岐にわたる臨床研究が行われているが、一例として、これまでに蓄積した健診データを機械学習含め網羅的に解析することで、これまで明らかにされてこなかった健康維持に重要な生活習慣を同定し、健康指導による介入の効果予測モデルを作成する臨床研究を行っている。

■ 他部門・他職種との連携

当センターで行う健診で発見された病気の治療にあたっては、各診療科の専門医と一致協力して当院における高度医療、先進医療へのスムーズな橋渡しを実現し、また管理栄養士やスポーツ医学研究センターとの緊密な連携を通じての包括的な健康サポートを提供している。

■ 対外的な活動

当センターで行った健診で指摘された軽微な生活習慣病などのフォロー目的での地域の医院・診療所への逆紹介および日常地域医療患者の高度な診断技術・機器を用いた精度の高い健診・検診を行うための当センターへの紹介を活発に行うために地域の医院・診療所との地域連携を活発に行っている。さらに地域連携を強化するため交流の場として定期的なウェビナーを行っている。

血液浄化・透析センター

1　診療体制

■ 対象疾患

急性腎不全/慢性腎不全/重症筋無力症/ギラン・バレー症候群/天疱瘡/炎症性腸疾患/難治性ネフローゼ症候群/閉塞性動脈硬化症

■ 専門外来

血液透析/血液ろ過透析/血漿交換/顆粒球吸着/免疫吸着/LDL 吸着

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

准教授　　1 名

助教（専修医を除く）　1 名

＊専任・常勤のみ。

＊助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　大家 基嗣

副センター長　吉田 理

2　主な診療実績

入院患者血液透析	441 例
血液透析導入	71 例
血漿交換	32 例
直接血液吸着潅流・血漿吸着	8 例
顆粒球吸着	7 例

3　その他の活動実績・取り組み等

本年度も腎不全治療としての血液透析療法を中心として、血液ろ過透析療法、血漿交換療法、LDL 吸着療法、エンドトキシン吸着療法、免疫吸着療法、顆粒球吸着療法、腹水濃縮再静注療法といった様々な血液浄化療法を実施した。

上記治療は主に入院患者に対して行われたが、血液透析療法、顆粒球吸着療法に関しては外来通院患者に対しても実施した。

本年度も社会において、COVID-19 の感染流行が継続した。末期腎不全のために血液透析療法を受けるなど、継続した血液浄化療法が必要な患者に対して必要十分な治療を提供するために、手指衛生の遵守などの感染対策に重点的に取り組んだ。

COVID-19 への対策として、2020 年度から外来通院患者エリアと入院患者エリアを空間的に分離して血液浄化療法を施行しているが、本対策は 2021 年度も継続した。

患者に対して安全・安心な医療が提供できるように、血液浄化・透析センターにおける業務マニュアルの見直しを行った。

内視鏡センター

1　診療体制

■ 対象疾患

吐血・下血/大腸がん/食道がん/胃がん/逆流性食道炎/炎症性腸疾患/胃潰瘍と十二指腸潰瘍/小腸腫瘍、小腸出血/炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）/膵腫瘍/胆道腫瘍/胆道結石/小児の消化管病変(全身麻酔下での内視鏡検査を当センターで施行)/中下咽頭腫瘍/肺がん/肺炎、肺結核

■ 検査

上部内視鏡検査/下部内視鏡検査/膵・胆道内視鏡/小腸内視鏡検査(バルーン内視鏡)/小腸内視鏡検査(カプセル内視鏡)/大腸カプセル内視鏡/気管支鏡検査/小児内視鏡検査(全身麻酔下での内視鏡検査を当センターで施行)/気管支鏡/内視鏡的止血術/食道静脈瘤結紮術/食道静脈瘤硬化療法/内視鏡的胃瘻造設術/食道・胃・十二指腸・大腸粘膜下層剥離術(ESD)/内視鏡的狭窄拡張術/バルーン小腸内視鏡による止血術/ポリープ切除術/術後腸管に対するバルーン小腸内視鏡を使用した載石術

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	2 名
助教（専修医を除く）	1 名

＊専任・常勤のみ。

＊教授・専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　緒方 晴彦

副センター長　細江 直樹

2　主な診療実績

上部内視鏡	11,488 件
うち食道 ESD	113 件
胃 ESD	154 件
十二指腸 ESD	92 件
下部内視鏡	6,427 件
うち下部 EMR	590 件
下部 ESD	139 件
胆道内視鏡	1,723 件
カプセル内視鏡	68 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19 蔓延下における検査体制

2020 年 3 月末に起こった COVID-19 院内感染をきっかけとし、2020 年 4 月より、患者の安全を確保するため、緊急検査を除く全ての内視鏡検査を中止した。そのため、4 月の内視鏡センターの稼働は前年比 6.6%となった。2020 年 5 月中旬から、感染対策を十分に行い、少しずつ内視鏡検査を再開していった。患者間の感染対策は、問診、病院窓口における検温によるスクリーニング、患者動線の見直し、患者の密を避ける等の工夫を行った。医療従事者側の対策としては、検温の徹底、PPE（個人用防護具）の標準化、マニュアル化を行った。内視鏡施行時の PPE はキャップ、N95 マスク、アイガード、グローブ、ガウンを標準とした。以上により、5 月の稼働は 9.5%、6 月 47.4%、7 月 73.2%、8 月 82.4%と徐々に前年と同様の体制に戻すことができ、年度半ばには前年とほぼ同等の検査数となった。

■ ミーティング、カンファレンス、教育等

本年度は、中断した内視鏡検査を再開する際の 2020 年 4・5 月には内視鏡に関連する全ての科と、スタッフが Web 会議を毎週行い、検査体制や検査件数を話し合った。その結果、安全かつ効率的に内視鏡検査を再開することができた。検査が安定した後も、毎月一回の Web によるミーティングを継続している。教育についても月に一回各科のエキスパートから若手医師、スタッフに向けたレクチャーを行っている。内視鏡センター部門内では毎週ミーティングを行い、翌週の検査体制等について話し合いを行っている。

腫瘍センター

1　診療体制

■ 対象疾患

消化器がん/肺がん/乳がん/原発不明がん/その他診断や治療が困難ながん/がんゲノム診断/希少がん

■ 専門外来

がん専門初診外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	2 名
専任講師	2 名
助教（専修医を除く）	4 名

＊専任・常勤のみ。

＊教授・専任講師・助教は有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長（代行）	大家 基嗣
副センター長	浜本 康夫

2　主な診療実績

化学療法実施件数　12,009 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 部門としての目標

当センターは、”がん患者さんの満足度を高める“ことを最大の目標として、患者さん中心のチーム医療を実践するための診療科横断的なクラスター組織である。各種がんに関連した専門家が集結し正確な診断のもと、最適な治療戦略を策定し、個別化治療・集学的治療を実践している。

■ 外来化学療法ユニットでの取り組み

当センターでは COVID-19 感染拡大の中でも安心して治療を継続できる環境を整えるため様々な対策を実施した。①朝の「密」回避のための事前採血の推奨、②院内クラスター発生時における診療制限および院内クラスター解除時に関係スタッフ PCR 実施、③病棟と外来業務を分離することを目的に一部の外来において外来診療スタッフの連続勤務などの体制を作りあげ、コロナ禍であっても種々の感染防止策を行うことにより様々な悪性疾患に対して十分な治療を受けていただけるように取り組んでいる。

■ がんゲノム医療ユニットでの取り組み

当院は、2018 年 2 月 16 日付けで厚生労働省により、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関として「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定された。がんゲノム外来においては、全てのがん患者さんが医学的に意義のある遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療を受けられる体制を推進し、全国に展開する連携病院と共に、これまでに 600 症例以上の遺伝子パネル検査を実施し、患者申出療養や先進医療の制度を活用したがん個別化治療を推進している。

■ がん低侵襲療法開発ユニットでの取り組み

内視鏡検査、治療はエアロゾル発生手技であるため COVID-19 感染拡大により診療の影響を受けた。特に 4 月は防護具の確保が難しく、一時的に内視鏡治療の延期を余儀なくされたが、種々の感染防止策を行い、その後は症例数が回復した。

当センターの特徴として高度の技術を活かし十二指腸の内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic submucosal dissection:ESD）をはじめとする高難度の内視鏡治療を行なっているが、最終的に 2020 年度の十二指腸病変は 249 件となり、2019 年度の 238 件を上回った。また、幸いなことに内視鏡を介した COVID-19 のスタッフ、患者さんへの感染は 1 件も起こらなかった。引き続き、消化管腫瘍に対する安全で高水準な内視鏡診療を提供していきたい。

輸血・細胞療法センター

1　診療体制

■ 概要

当センターは、輸血と細胞療法の業務を担う中央診療部門で、院内のすべての輸血用血液製剤と血漿分画製剤、そして再生医療等製品と臨床試験に用いる特定細胞加工物を一括管理している。

輸血については、輸血に関連する血液型や交差適合試験などの検査、輸血用血液製剤の管理、手

術前の自己血の採取・管理などを行っている。

細胞療法については、造血幹細胞移植や CD19-CAR-T 療法を初めとする免疫細胞療法用の細胞採取・処理・凍結保存、造血細胞数の測定、そして再生医療の細胞調整・管理保存等を行っている。また、臨床研究推進センターと連携して、1 号館 5 階の細胞プロセッシングセンター「KHCPC」を利用して、学内外の治験や臨床研究を、原料細胞の採取・製造調整から臨床試験までシームレスに支援している。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	1 名

＊専任・常勤のみ。

＊有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　田野崎 隆二

副センター長　山崎 理絵

2　主な診療実績

輸血申込件数	25,390 件
輸血使用量	
赤血球製剤	14,945 単位
新鮮凍結血漿	7,027 単位
血小板製剤	29,005 単位
自己血製剤	1,653 単位
アルブミン製剤	32,216 単位
貯血式自己血採血	412 件
末梢血造血幹細胞採取	29 件
自家末梢血幹細胞移植	25 件
同種末梢血幹細胞移植	4 件
骨髄移植	9 件
臍帯血移植	24 件
ドナーリンパ球採取	1 件
チサゲンレクルユーセル採取・凍結	24 件
チサゲンレクルユーセル投与	22 件
テムセル HS 保管管理・溶解	44 件
その他の再生医療等製品保管管理・投与	6 件
治験・臨床研究関連細胞採取	15 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19 への対応

COVID-19 蔓延下においても必要な患者には滞りなく輸血製剤を提供できた。

2021 年 4 月から 9 月まで COVID-19 既往のある医療従事者を対象とした回復者血漿採取を臨床研究として実施したが、抗体製剤の保険収載を受けて中止した。

■ 部門としての目標と振り返り

＜輸血部門＞

医療現場で発生する輸血に関するあらゆるニーズに対応できる体制を構築し、学会や日本赤十字社と連携して最新の情報の下に適正かつ安全な輸血医療を提供することを目標としている。当年度も 6 回の輸血療法適正化委員会を開催し、各部門と輸血の実施状況に関する情報共有を行った。2021 年 3 月大量輸血症例を受けて、「大量輸血が予想される手術等の事前連絡」のルールを設け、輸血実施マニュアルを改訂した。

＜細胞療法部門＞

昨今急速に臨床導入が進んでいる再生医療等製品・細胞加工製品をいち早く患者さんに届けられるよう、治験、臨床研究を含め、原料細胞採取から細胞調製・処理、検査・保存管理、投与に至るまでスムーズに実施できる一元管理体制の構築を目標としている。年 6 回細胞療法適正化委員会を実施し、現在の細胞療法の実施状況、再生医療等製品の使用状況の共有、新規再生医療等製品の採用審議を行っている。昨年度採用された CD19-CAR-T 製剤チサゲンレクルユーセル「キムリア®」のためのリンパ球採取（23 例）が積極的に行われ、同じ CD19-CAR-T 製剤であるリソカブタゲンマラルユーセル「ブレヤンジ®」の採用が決定した。臨床研究としては、先進医療 B（婦人科）子宮頸がんに対する TIL 療法のための健常人ドナーからの末梢血単核球採取（9 例）が行われ、2021 年 12 月に 1 例目の患者投与が実施された。まだ同月には

12 月に脊髄損傷患者への iPS 由来神経細胞の 1 例目投与（整形外科）、2022 年 1 月には脂肪由来血小板の難治性皮膚潰瘍に対する 1 例目投与（一般消化器外科）が行われた。

■ 対外的活動

2021 年 6 月に京王プラザホテル新宿にて開催された第 69 回輸血・療法治療学会学術総会において、当院の田野崎隆二教授が総会長を務めた。献血事業 2021 年 12 月 17 日に病院敷地内にて献血協力を実施し、21 名にご協力いただいた。

スポーツ医学総合センター

1　診療体制

■ 対象疾患

＜整形外科的疾患＞

肘関節：野球肘/上腕骨小頭離断性骨軟骨炎/内側側副靱帯損傷/テニス肘・ゴルフ肘/変形性肘関節症/尺骨神経障害/関節内遊離体(関節ねずみ)/肘関節脱臼・骨折

手関節：TFCC(三角線維軟骨複合体)損傷/腱鞘炎/手指循環障害/キーンベック病/靭帯損傷/手舟状骨骨折/有鉤骨鉤骨折/疲労骨折/手指骨折・脱臼

肩関節：肩甲帯/胸郭出口症候群/野球肩/腱板損傷/反復性肩関節脱臼

股関節：関節唇損傷/関節内遊離体/骨軟骨損傷

膝関節：前十字靭帯損傷/膝関節靱帯・半月板損傷/膝蓋骨脱臼/離断性骨軟骨炎/オスグッド・シュラッター病/ジャンパー膝/ランナー膝

大腿・下腿：肉離れ/シンスプリント/疲労骨折/アキレス腱断裂・付着部症

足関節：靭帯損傷/足関節不安定症/後脛骨筋機能不全/腓骨筋腱脱臼/外反拇趾/足根管症候群/有痛性三角骨/足底腱膜炎/足根骨癒合症/外脛骨/モートン病

その他：スポーツに伴う四肢外傷全般/スポーツ障害後のリハビリテーション/サルコペニア/ロコモティブシンドローム/変形性膝関節症/骨粗鬆症

＜内科的疾患＞

メタボリック症候群/糖尿病/高血圧症/肥満/心不全/虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)/スポーツ貧血/運動誘発性喘息/その他のスポーツに伴う内科的疾患全般/アンチ・ドーピング相談

＜その他の診療科＞

スポーツに関連した心理サポート/小児の運動療法

■ 検査

単純 X 線撮影/CT 撮影/MRI 撮影/超音波検査/呼気ガス分析器を用いた最大酸素摂取量測定/筋力・筋パワー評価/柔軟性評価/バランス機能評価/歩行能力の評価

■ 専門外来

アスリート外来/メディカルフィットネス・ランニング外来(自由診療)/運動器ドックアドバンスコース(自由診療)/ストレスマネジメント外来(自由診療)

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
専任講師	1 名
助教（専修医を除く）	2 名

＊専任・常勤のみ（有期を含む）

＜院内役職者＞

センター長　佐藤 和毅

副センター長　勝俣 良紀

2　主な診療実績

■ 心肺運動負荷検査（ＣＰＸ）

総数	330 件
循環器疾患	177 件
小児	70 件
スポーツ糖尿病など	83 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ スポーツ整形外科

スポーツ選手の手術実績としては引き続き

COVID-19 感染の影響はあったものの概ね例年と遜色のない件数となった。毎月の PCR 検査委託、リハビリテーションに関しても感染対策を徹底した上で継続した。 2021 年は東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催され多くの当局所属医師が医療スタッフとして参加し執行部や選手村、 各競技会場でドクター業を行なった。スポーツの現場帯同はプロ野球と大学野球を中心に帯同件数はほぼ例年通りとなりスポーツ傷害・外傷対応および COVID-19 感染予防のための指導を行った。毎年 2 回開催している慶應スポーツ医科学研究会はコロナの影響で引き続き中止となった。

■ 運動療法

COVID-19 感染拡大以降はフェイスシールドの着用などの感染対策を徹底することで運営し、心肺運動負荷検査、運動処方を実施した。 また、循環器疾患に加え、運動療法の有効性が最近報告されている、腎疾患への運動処方も開始した。２０１９年度の 3/4 程度の件数まで回復したが、室内で運動する関係で COVID-19 の影響はなお残存した。

■ その他

医局会を 11 回（8 月を除く毎月）開催した。主な議題は以下のとおり。

- 毎月の病院決算報告、人事報告
- COVID-19 への対応に関する事項
- 医療安全に関する事項
- 医局内プロジェクトの進捗状況
- 研究経過報告

本年も COVID-19 への対応として、塾内および病院内での周知事項を確認するとともに医局員への意識を徹底させた。毎年一定数受け入れを行なっていた国外留学生は、 COVID-19 の影響で受け入れを見送った。国内留学生の見学は夏季や冬季の大型連休を利用し、例年と大きく変わらず応募があり、短期間ではあるもののスポーツ医学のエッセンスを学んで頂いた。 東京 2020 オリンピック・パラリンピックは 2021 年へと延期になった後に開催された。当局所属医師が積極的に関わり国内にプレゼンスを見せることができた。また、そこで新たなネットワークを構築でき、今後の医学にも繋ぐことが出来得る発展であった。来年度は COVID -19 の状況を見ながら勉強会や国外留学生の受け入れを行う予定である。

漢方医学センター

1　診療体制

■ 対象疾患

＜消化器系＞胃腸障害(胃炎・胃痛・吐き気など)/逆流性食道炎/過敏性腸症候群/便秘下痢症など

＜皮膚系＞アトピー性皮膚炎/じんま疹/皮膚そう痒症/にきび/尋常性乾癬など

＜婦人科系＞月経困難症/月経不順/続発性無月経/不妊症/更年期障害など

＜整形外科系＞腰痛/肩こり/下肢のしびれ・痛み/関節痛など

＜生活習慣病＞高血圧/糖尿病/肥満など

＜精神疾患系＞不眠症/パニック障害/不安神経症/うつ病など

＜小児科系＞虚弱体質/夜泣き/癇癪/おねしょ/腹痛など

＜その他＞頭痛/易疲労/癌術後の免疫療法/花粉症/気管支喘息/冷え症/前立腺肥大症/膠原病/認知症に伴う症状など

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

助教（専修医を除く）　　1 名

＊専任・常勤のみ。

＜院内役職者＞

センター長　　三村 將

医局長　　堀場 裕子

2　主な診療実績

初診患者数　　84 人

再診患者数　　6,275 人

3　その他の活動実績・取り組み等

COVID-19 の拡大により、通常の外来診療に併せ

て、電話診察を多く行った。

週１回行っている勉強会、研究発表会、また月１回行っている生薬勉強会は zoom で行い、学生や研修医の教育を行なった。

他科や他院と連携した漢方勉強会も行っており、本年度も精神･神経科と動悸･息切れをテーマにした勉強会、また北里大学東洋医学研究所と共催で呼吸器疾患をテーマにした勉強会を zoom で開催した。zoom で行うことにより、遠方や慶應関連施設の医師などにも視聴していただくことができた。

臨床遺伝学センター

1　診療体制

■ 対象疾患

＜先天性疾患＞

遺伝性疾患全般(5,000 以上の疾患について遺伝学的検査が可能)/染色体異常症/先天異常症候群/診断不明等

＜出生前診断・着床前診断＞

染色体異常症/単一遺伝子疾患（Duchenne 型筋ジストロフィー/筋強直型筋ジストロフィー/福山型筋ジストロフィー/先天性水頭症/オルニチントランスカルボミラーゼ欠損症等）/習慣流産/ミトコンドリア病/不妊症/男性の乏精子症/無精子症/性分化異常/不育症等

＜遺伝性腫瘍＞

遺伝性乳がん・卵巣がん/リンチ症候群/マイクロサテライト不安定性陽性腫瘍/家族性大腸腺腫症/リ・フラウメニ症候群/ポイツ・ジェガース症候群/遺伝的素因が疑われるがんおよび遺伝性腫瘍等

＜皮膚疾患＞

遺伝性皮膚疾患全般/表皮水疱症/レックリングハウゼン病/白皮症/結節性硬化症/基底細胞母斑症候群等

＜耳鼻科疾患＞

先天性難聴等

＜神経筋疾患＞

筋強直性筋ジストロフィー/ハンチントン病等

＜循環器疾患＞

不整脈/心筋症/肺高血圧症等

■ 検査

遺伝性疾患の遺伝学的検査（遺伝子検査）

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	1 名
助教（専修医を除く）	1 名

＊専任・常勤のみ。

＊有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　小崎 健次郎

副センター長　田中 守

2　主な診療実績

先天性疾患	645 人
遺伝性腫瘍	425 人
出生前診断・着床前診断	659 人
遺伝性難聴	59 人
皮膚疾患	17 人
内科系疾患	23 人

診断のつかない患者さんに対して、多数の遺伝子を同時に解析することで診断をつけようとする国のプロジェクト「未診断疾患イニシアチブ」の拠点施設となっている。

がんゲノム医療中核拠点病院として遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリングに取り組んでいる。

3　その他の活動実績・取り組み等

詳細な病歴聴取・診察・遺伝学的検査（全ゲノム解析を含む）を通じて、個別の患者の疾患の原因を判断し、診療に役立てようとしている。遺伝性疾患にかかわる相談（遺伝カウンセリング）を提供している。

■ 先天性疾患に対する遺伝学的検査

小児慢性特定疾病や指定難病などの稀少疾患の多

くは遺伝子変異により発症する。保険診療で実施が可能な検査と自費で行われる検査に分けられる。保険で実施が可能な検査はまだ種類が限られている。

■ 遺伝性腫瘍の患者さんの遺伝学的検査

がん患者の数%は、がんになりやすい体質をもっている。家族に複数の罹患者がいる場合や若い年齢で発症した患者には、このような体質を持つ可能性があり、希望により専門的な説明や遺伝子の検査を提供している。最近は、がん組織の遺伝子を調べた結果、がんになりやすい体質を持つことが判明する場合もあり、外科系診療科と連携している。

■ 出生前遺伝学的検査・着床前遺伝学的検査

倫理的に配慮し、十分な時間をかけて、NIPT を含む出生前診断を提供している。

患者･家族の状況に応じて着床前遺伝学的検査も提供している。なお、遺伝性疾患に対する着床前遺伝学的検査は、倫理委員会による承認が必要になる。

■ 診断不明の患者さんのゲノム解析

体の設計図ともいわれる DNA の配列（遺伝子）を先進的な分析機器を使って幅広く調べることで、従来の医学的検査で診断のついていない患者の診断の手がかりとする全国プロジェクトを主導している。この方法で現在までで当センターで診断がついた患者さんは 1000 名を越えた。小児科や内科などの各診療科から「診断不明」として紹介を受け、カンファレンスにより研究参加の適否について判断を行っている。

免疫統括医療センター

1　診療体制

■ 対象疾患

関節リウマチ/クローン病/潰瘍性大腸炎/ベーチェット病/乾癬/強直性脊椎炎/キャッスルマン病/発作性夜間ヘモグロビン尿症/全身性エリテマトーデス/スティル病/乾癬性関節炎/掌蹠嚢胞症/多発血管炎性肉芽腫症/顕微鏡的多発血管炎/難治性ネフローゼ症候群/慢性特発性血小板減少性紫斑病/全身性強皮症

■ 専門外来

リウマチ専門外来/クローン病潰瘍性大腸炎専門外来/皮膚免疫疾患専門外来/整形外科専門外来

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

＜院内役職者＞

センター長　　金子 祐子

2　主な診療実績

外来患者数	1,210 人
センター治療室治療実績総数	15,251 人

（専門科外来での生物学的製剤治療もセンター治療室が一括して実施）

3　その他の活動実績・取り組み等

本年度は、COVID-19 の流行の中でも、継続的に自己免疫疾患における安全な診療を進めた。当センターは、リウマチ・膠原病内科、消化器内科、皮膚科、整形外科、血液内科、眼科など多診療科が参画し、医師、看護師、薬剤師による免疫疾患に対する治療をチームで実践している。特に関節リウマチ、炎症性腸疾患、乾癬などの自己免疫疾患においては、診療科領域を超えた臨床症状と病態を呈するため、医師・看護師･薬剤師･医療事務で構成される他職種ミーティングを開催するなどの密なコミュニケーションを通じて、最新の医療知識と多角的な診療体制の共有に努めた。新規標的生物学的製剤の登場と、剤形の多様化に伴って、薬剤師による有効性と安全性を含めた治療薬情報管理と効率的かつ安全で確実な調剤、看護師による点滴管理および患者に対する自己注射指導を継続した。持続可能な感染予防対策と安全管理、アドヒアランスの向上を可能にするため、患者一人一人に対する病状把握、生活環境に合わせた治療を行えるよう、今後も日々の診療を継続する。

緩和ケアセンター

1　診療体制

■ 対象疾患

当センターでは、病気や治療に伴う痛み・しびれ･息苦しさなどのからだの症状や、不眠、不安、抑うつなどの精神症状に対する診療を行っている。また、在宅療養支援、公的サービス、緩和ケア病棟、ホスピスの紹介についても、専門の看護師が支援している。主にがん患者さんを対象としているが、心不全や呼吸不全などの重症慢性疾患への対応も行っている。

■ 専門外来

家族外来：がん患者さんのご家族・ご遺族のカウンセリングを実施している。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

助教（専修医を除く）　　2 名

＊専任・常勤のみ。

＊有期を含む。

＜院内役職者＞

センター長　　竹内 麻理

2　主な診療実績

緩和ケアチーム依頼数　　422 件

外来初診件数　　79 人

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 第 26 回 日本緩和医療学会学術をパシフィコ横浜にて開催

■ がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催

COVID-19感染対策として参加人数を制限のうえ、対面形式での集合研修を開催

2021 年 10 月 16 日：9 名修了

2020 年 11 月 20 日：12 名修了

■ がんプロフェッショナル養成プラン・インテンシブコース「高齢がん患者に対する緩和医療実践コース」の実施

院内外の医療従事者 10 名が参加

■ 緩和ケアリンクナース研修の実施

講義 75 分×6 回

実地研修　半日

院内の看護師計 2 名が参加し､緩和ケアリンクナースとして認定

■ 第 12 回城西緩和ケア講演会の開催

第 6 回サポーティブケアカンファレンスの開催

手術・血管造影センター

1　診療体制

■ 概要

当センターは、入院・外来患者さんの定期・緊急手術、血管造影・IVR（カテーテル治療）が行われる施設である。手術室は 25 室、血管造影・IVR 室が 5 室あり、手技が多種多様で必要とする部屋の機能が様々であるためそれぞれが少しずつ異なった機能を持っている。

当センターでは、医師（外科系、麻酔科、内科系、放射線科)、看護師、薬剤師に加え、臨床工学技士、放射線技師、その他滅菌・清掃技術員・物流業者などのメディカルスタッフが協力し、センターを利用する患者さんにより安全で質の高い治療、看護を提供できるよう体制を整えている。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

＜院内役職者＞

センター長　　志水 秀行

副センター長　陣崎 雅弘

第 1 ユニット長　山田 高成

第 2 ユニット長　佐藤 和毅

第 3 ユニット長　中塚 誠之

第 4 ユニット長　林田 健太郎

2　主な診療実績

手術室

総手術件数	15,204 件
入院	12,539 件
外来	2,665 件
全身麻酔	8,206 件

血管造影・IVR 室

総件数	3,395 件

血管内治療	1,148 件
その他検査、治療	2,247 件

3　その他の活動実績・取り組み等

■ 高難度新規医療技術の導入

当センターは高難度新規医療技術導入の担当部門として、当該技術の導入の適否について意見を求める高難度新規医療技術導入評価委員会を設置している。安全な実施体制や術後の状況を適切に把握するため、申請書や実施報告書の改訂と審査体制の見直しを行い、より安全で良質な医療が提供できる体制を整えた。

■ ハイブリッド手術の拡大

多軸血管造影装置を搭載したハイブリッド手術室の稼動が増加。3D 血管造影装置を駆使し、カテーテルによる血管内治療と外科手術を組み合わせた世界最先端の手術を展開している。従来困難であった心臓や脳疾患への先進的な治療では、外部からの見学希望にも多く対応した。

■ ロボット手術

2022 年度から、国産の手術用ロボット hinotori が稼働できる準備が整った。従来のダヴィンチとの併用になり、手術件数増への対応だけでなく、それぞれの特長に応じた使い分けが可能となる。2021 年度はすでにダヴィンチの稼働率が 100%となっており、患者さんの待機期間の短縮、早い治癒・回復が期待できる。

集中治療センター

1　診療体制

■ 対象疾患

当センターは、「疾患あるいは外傷等により単一あるいは複数重要臓器機能が低下あるいは低下の危険性にある状態が継続している患者を収容し、迅速かつ持続的に観察並びに治療することにより健康を回復し合併症の発症を防ぐこと」が主たる目的である。そのため治療対象の疾患群は多岐に及び、具体的には意識障害または昏睡、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、急性心不全(心筋塞を含む)、急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害、大手術後、心肺蘇生後、その他外傷、破傷風等で重篤なものとなり、日々様々な事由により生命危機の危険性のある患者治療に当たっている。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

＜院内役職者＞

センター長　　森崎 浩

副センター長　長田 大雅

2　主な診療実績

ICU 入室患者	1,185 件
非手術	219 件
予定手術	868 件
緊急手術	98 件
人工呼吸管理	511 件
ECMO	8 件
IABP	17 件
血液浄化療法	77 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当センターは、ICU12 床、HCU26 床で構成されており、麻酔科医が専従医として常駐し、主治医と協力して 265 日 24 時間体制で患者管理を行っている。2020 年 8 月からは ICU を 2 床増床（10 床→12 床）し、重症患者の受け入れ態勢を強化した。コロナ重症チームの一員として、COVID-19 感染患者の増減に応じて通常診療とコロナ対応のバランスをとることで予定手術や緊急患者対応を減らすことなくコロナ患者の対応も行った。ICU では 1 年間に延べ 1171 名の患者を受け入れ、内コロナ重症患者 46 名の管理を行った。

ICU においては、早期リハビリ加算、早期栄養加算を満たす体制をとっており、ICU 専従医、リハビリ科医師、ICU 看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、ICU 担当薬剤師によるカンファレンスを連日行い、患者の病態に応じて適切に対応できる

体制をとっている。

■ 呼吸ケアチーム

院内一般病床の人工呼吸患者を集中治療専門医、集中治療認定看護師、臨床工学技士、理学療法士による呼吸ケアチームで診療している。本年度は 72 名の患者の人工呼吸管理を行い、呼吸器離脱や転院・在宅管理の促進に寄与した。

■ Rapid Response Team

院内急変を減らす目的で、Rapid Response System を導入しており、急変のリスクを検知し早期対応を行っている。今年度は、小児病棟を除く全病棟で導入し、ICU/HCU での早期治療や病棟での管理アドバイスを行うことで急変を予防し回復につなげた。

救急センター

1　診療体制

■ 概要

通常診療時間内は、救急科が救急搬送される中等症(二次救急)および重症患者(救命救急センターの適応となる三次救急)に対して初期対応を行っている。通常診療時間外である休診日・夜間は全科当直体制を原則としており、自力受診可能な軽症患者(一次救急)を各診療科が、救急搬送患者(二次・三次救急)は救急科が中心となり診療を担当する。このように、当院救急センターは主に三次救急患者の診療を行う「救命救急センター」と異なり、重症度の区別なく全ての救急患者の診療を行う「全次型救急」を基本方針とする北米型ERスタイルを導入している。

また、東京都災害拠点病院として、災害時には医療救護活動の拠点となるとともに、災害派遣医療チーム(DMAT; Disaster Medical Assistance Team)を編成し、日本全国の災害地へも迅速に医療支援を行う体制を整えている。

■ スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

＜院内役職者＞

センター長　　佐々木 淳一

2　主な診療実績

自力受診患者数	6,158 人
救急車搬送患者数	6,043 人
＜救急センター経由＞	
入院患者数	2,526 人
緊急手術	13 件
緊急心臓カテーテル	1 件
緊急消化管内視鏡	2 件
血管造影	1 件

3　その他の活動実績・取り組み等

当センターは 1 号館 1 階の 1E エリアに位置し、外苑東通りからのアクセスがよく、救急車および休日夜間の walk in 患者さんは正面受付を通らず直接来院可能である。当センターは 12 室の初療室（うち重症処置室 3 室、陰圧室 6 室）と 5 床の経過観察ブース、CT スキャン室、レントゲン室（一般撮影、歯科パノラマ撮影）で構成され、眼科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科が専門処置を行える設備も整えている。また、手術室や ICU/HCU へ直通のエレベーターがあり、重症患者への迅速な対応が可能となっている。

■ 院内救急対応

院内急変患者が発生すると当センターに連絡が入り、常駐する救急医が現場に駆けつけ対応する体制が整っている。本年は 181 件の院内救急に対応した。

■ 新型コロナウィルス

本年度も COVID-19 の影響で診療に制限が生じたが、感染制御部の協力のもと受診患者のスクリーニング、ゾーニングや PPE を適正に使用することで通常の救急診療を行いつつ、コロナ患者の受け入れを実施し、当センターを経由して多くの中等症～重症のコロナ患者が入院した。

＜診療支援部門＞

看護部

1　概要（組織目的）

看護部は、建学の精神に則り、「患者を尊重し、患者の QOL を高める看護実践」を通じて、大学病院の社会的役割遂行に協力・協働する。

■ 基本方針

(1) 私たちは、チーム医療の中で切れ目のない患者中心の看護を提供します

(2) 私たちは、高い倫理観を持ち自ら考える看護師を育成します

(3) 私たちは、お互いの看護観を認め共に成長できる環境を築きます

2　スタッフ構成

看護部長：加藤　恵里子

看護部次長：4 名

師長：33 名

主任：58 名

副主任：39 名

看護師：908 名

准看護師 1 名

（臨時・嘱託 42 名を含む）

臨床指導ナース：14 名

専門看護師：6 領域　12 名

認定看護師：16 領域　32 名

ナースアシスタント：80 名

クラーク：47 名

3　業務内容

(1) 保健師助産師看護師法等法令に基づき，安全・安心を担保した質の高い看護の提供

(2) 安全管理体制の確保・推進

(3) 各部門・診療科との連携を通じたチーム医療の推進および患者サービスの提供

(4) 診療報酬制度を踏まえた看護提供，病床稼働向上等による病院経営への貢献

(5) 専門性を有する人材育成

(6) 大学病院の使命としての臨地実習生教育ならびに学会・研究活動

(7) 地域医療施設および外部機関等との適切かつ良好な関係維持・向上

(8) 専門性を活かし対外的な情報発信と社会貢献

(9) その他，診療目的の達成に必要な業務

4　2021 年度 活動実績・取り組み

■ 看護の力で収益確保に繋がる取り組みの実施

・高度看護実践者の育成を促進するため、集中治療センターを中心としたクリティカルケア看護実践教育プログラムを構築し、効果的な人材育成や配置計画、ローテーション計画を開始した。9 月より重症 COVID-19 患者への対応も鑑みて、ICU4 床増床運用を開始した。

・夜間緊急処置対応の体制を整備し、24 時間看護師を含めた医療チームで対応できる体制とした。

・COVID-19 患者の受入れにおいては、専用病棟ならびに ICU/HCU の一部病床での運用を行い、看護師の部署間支援を促進、継続的に COVID-19 支援チームが機動できる体制を整備した。

■ 患者ニーズに即した看護の更なる強みの確立

・高齢者ケアの充実をはかるため、ユマニチュードの導入に向けた研修を実施した。

・身体抑制の低減にむけ、せん妄スクリーニングを導入し、せん妄予防ケア、せん妄発症時のケア実践を強化した。年度末の実施率は 92%、せん妄ハイリスクケア加算算定率は 83%と向上した。

■ 看護職員の満足度が向上し、働き続けることができる労働環境整備

・ナースアシスタント育成プログラムの整備と活用、業務マニュアルの再整備と直接ケア研修を実施し、看護職のタスクシェアを推進した。稼働率回復に伴い、超過勤務時間は昨年度より増加傾向にあったが、有給休暇取得率は、前年度維持、季節

休暇100%取得できた。
・COVID-19対応では、スタッフのストレス反応をモニタリングし、支援チームの継続、看護職員のローテーションなどを計画的に実施した。
・スタッフが望む働きやすい勤務体制としてICUでの2交代制を試行し、体制評価しながら本運用に向けて取り組んだ。
・薬剤部等との協働により、夜間搬送ロボットによる薬剤搬送のトライアルを実施した。

■ 患者目線での環境整備の推進

・手指衛生、感染管理を徹底しCOVID-19の院内感染、大規模なクラスターの発生はなかった。
・転倒の発生件数の増加に対し、転倒転落アセスメントの指針となるマニュアルの運用を開始し、事故防止へのとりくみを強化した。
・面会制限がある中でも患者と家族のつながりを担保するために、病棟ならびに患者相談窓口の相談室におけるiPad面会の仕組みを整え、対面での面会に制限がある中、オンライン面会を推進した。

■ 専門性の高い看護職の人材育成体制整備、及び看護医療学部との連携推進

・特定行為研修制度を活用した特定行為看護師育成の体制を整備した。看護師特定行為委員会の発足、特定行為実習、院内研修、特定行為実施のための実施要項作成など体制を構築し、看護師1名が特定行為研修へ進学した。
・新たに遺伝看護専門看護師1名、アドバンス臨床指導ナース2名が誕生した。

薬剤部

1　概要（組織目的）

薬剤部は、調剤、服薬指導、医薬品情報の収集・評価と提供、医薬品管理、院内製剤、注射薬混合調製等、薬剤に関する様々な業務を展開し、院内外の他の医療スタッフと連携しながら、患者さんに信頼される質の高い安全で安心な医療を提供することを目的としている。また、薬学部と連携し、実務実習生の受け入れを通じ、医療の高度化に対応した薬剤師の育成にも力を注いでいる。

2　スタッフ構成

部長代行　三村　將（2021年9月迄）
部長　大谷　壽一（2021年10月着任）
副部長　青森　達
次　長　村松　博（2021年11月より現職）
課　長　山吉　康子（調剤）
課　長　津田　壮一郎（注射・製剤）
課　長　早川　智久（情報・管理・治験）
主　任　小谷　宙（調剤）
主　任　松尾　健介（調剤）
主　任　櫻井　洋臣（注射・製剤）
主　任　島村　奈緒美（注射・製剤）
主　任　磯上　一成（情報・管理・治験）
その他
専任職員　70名
嘱託職員　22名
臨時職員　14名
事務員　　3名

3　業務内容

(1) 処方せん調剤業務
(2) 注射薬混合調製業務
(3) 薬品管理業務
(4) 医薬品情報業務
(5) 治験業務
(6) 薬剤管理指導業務
(7) 病棟薬剤業務
(8) 入院前持参薬鑑別業務
(9) 薬事委員会事務局業務
(10) 製剤業務
(11) 診断用放射性医薬品の検定業務
(12) 学校薬剤師業務

4　2021年度 活動実績・取り組み

■ 活動実績

(1) 処方せん調剤業務

ア　外来患者

院内処方/調剤：382,618 枚/1,122,438 件

イ　入院患者

処方/調剤：261,682 枚/530,825 件

(2) 注射薬混合調製業務

ア　外来患者

腫瘍センター：13,528 枚/26,381 件

（一般薬 6,781 件、抗がん剤 19,600 件）

免疫統括医療センター：10,567 枚/15,107 件

イ　入院患者　136,793 枚/89,756 件

（一般薬 79,836 件、抗がん剤 9,920 件）

(3) 医薬品情報業務

問い合わせ件数：928 件

TDM 解析件数：2,123 件

(4) 治験業務

185 治験　2,519 件

（内服 1,147 件、注射 1,372 件）

(5) 薬剤管理指導業務

ア　入院

薬剤管理指導料 1＋2：19,335 件

イ　外来

外来化学療法加算 A：10,982 件

外来化学療法加算 B：9,875 件

(6) 入院前持参薬鑑別業務　　4,988 件

(7) 院内製剤業務　　10,921 件

(8) 診断用放射性医薬品の検定業務　4,719 件

■ 取り組み

・ 2021 年 3 月より 2022 年 3 月迄、職員接種用に COVID-19 ワクチンを調製した。

・ 2021 年 9 月、血液内科よりレナリドミド・ポマリドミドが処方される患者を対象とした薬剤師外来を開始した。

・ 2021 年 9 月、肺非結核性抗酸菌症に対してアミカシン硫酸塩吸入用製剤が処方される患者を対象とした薬剤師外来を開始した。

・ 2021 年 11 月、電子カルテへ 7 剤逓減対策システムを導入した。

2022 年 3 月、タスクシフト/タスクシェア WG における活動のもと、院内推奨頓用薬の設定と病棟配置薬の運用を開始した。

滅菌管理部

1　概要（組織目的）

院内の診療および手術に必要な医療器材に対し、適正な消毒・滅菌を行い、感染源にならないよう完全滅菌による感染防止に努め、安全な滅菌器材を供給する。

2　スタッフ構成

部　長　　尾原　秀明

課　長　　尾崎　友博

主　任　　那須田　宏文

技術員　　３名

3　業務内容

(1) 管理業務

ア　委託業務の管理・監督

イ　器材の購入、修理、代替器手配に関すること

ウ　借用器械の受付、払い出しに関すること

エ　持ち込み器械の受付、払い出しに関すること

オ　貸出し器材（院内・院外）の受付、払い出しに関すること

カ　インプラント資材、特殊資材（高額資材）の発注、資材票記入に関すること

キ　消耗品管理

(2) 委託業務

ア　委託業務・委託スタッフの管理・監督に関すること

イ　手術器材の洗浄、組立、滅菌処理に関すること

ウ　手術器材の供給、回収に関すること

エ　病棟、外来使用の器材洗浄、滅菌処理に関すること

オ　手術器材の定数管理に関すること

カ　病棟、外来器材の供給搬送・回収搬送に関する

こと

キ　院外滅菌処理器材の検品に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

■　洗浄滅菌委託業者の交代

2020 年 12 月に実施したコンペには、サクラヘルスケアサポート（株）、日本ステリ（株）、ワタキューセイモア（株）の 3 社が参加した。書類選考・プレゼンテーションを経て、2021 年 1 月にワタキューセイモア（株）に決定、2 月から引継ぎ業務を開始し、7 月 1 日に交代となった。

■　委託業者交代後の効果と今後

2021 年 7 月の委託業者交代は混乱なく移行した。洗浄滅菌委託業務は 2 社から 1 社体制に変更となり、経費の削減となった。一方で、トレーサビリティシステム導入に向けて、システム、ハードウェアを購入し、データベースの構築を開始した。2022 年 7 月からは鋼製小物等への刻印作業を開始する予定である。

食養管理室

1　概要（組織目的）

治療の一環として、入院患者の病態に適した食事提供を行い、栄養状態の維持改善を目指す。また、栄養食事指導の実施やチーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を実践する。

2　スタッフ構成

室 長 代 理：大木　いづみ
副　主　任：3 名
管理栄養士：9 名
調　理　師：2 名

3　業務内容

(1) 給食管理業務
　ア 入院患者の食事提供
　イ 委託会社の管理監督
(2) 栄養管理業務
　ア 入院患者の栄養管理
　イ 個人栄養食事指導
　ウ 集団栄養食事指導
　エ 食物アレルギー情報の管理

4　活動実績・取り組み

(1) 入院患者の食事提供数
　一般治療食　381,877 食
　特殊治療食　286,659 食
(2) 栄養食事指導件数
　個人指導　入院 1,741 件、外来 2,165 件
　集団指導　0 件
　糖尿病透析予防指導　205 件
　緩和ケア　個別栄養食事管理加算　22 件
(3) 給食管理業務
　ア　患者サービスの向上や定期的な質の改善を目的として、一般患者食の業務委託コンペを実施し、2022 年 4 月より(株)グリーンヘルスケアサービスへの変更が決定した。2021 年度 1 年間は、日清医療食品(株)からの業務引き継ぎと移行準備を行った。
　イ　COVID-19 の影響にて減少した食事提供数は、前年度に比べ 1 日平均約 240 食増加した。
　ウ　COVID-19 病棟への食事提供は感染対策の一環でディスポ食器の使用を継続し、衛生管理の徹底に取り組んだ。
(4) 栄養管理業務
　ア　栄養相談
　　①　栄養食事指導件数は前年度に比べ、入院で 331 件、外来で 843 件増加した。
　　②　入院栄養相談は病棟、外来栄養相談は外来エリアで実施する運用を継続し、感染対策を実施した。入院患者は面会制限の継続により、退院時に家族同席で栄養相談を実施するケースが増加した。
　　③　感染対策として密回避のため、対面での集団指導は中止し、糖尿病教室は動画による配信を継続した。

④　MeDaCa アプリを活用した栄養相談は、2021 年度は 10 件実施した。

(5) 早期栄養介入管理加算

2020 年 8 月より、4D(ICU)病棟にて算定を開始した。2021 年度は約 1180 人に介入し、うち 560 人（47%）が早期に経腸栄養・経口栄養を開始した。多職種と連携し、集中治療室入室後の早期栄養管理を実施した。

8 月からは 6A-3 病棟でも算定を開始し、小児領域での早期栄養管理に拡大した。

(6) 栄養サポートチーム(NST)

感染対策に配慮しながら、回診やカンファレンス等、チーム活動を継続した。回診件数は 811 件(うち加算 716 件、歯科医師連携加算 691 件）であった。

他の医療チームや多職種との連携として、2021 年 3 月からは看護師特定行為研修の栄養分野に係わる研修を支援した。

2021 年 7 月からは腸管機能リハビリセンターとの連携を開始し、短腸症候群患者の栄養管理を支援した。

医用工学室

1　概要（組織目的）

医用工学に係る専門知識と医療技術に基づき、病院内に設置されている医療機器の適切かつ安全な運用に寄与するとともに、効率的な運用を目指すことを目的とする。

2　スタッフ構成

部長	大家 基嗣
副部長	長田 大雅
室長補佐	平林 則行
課長	冨永 浩史
主任	川平 洋輔
副主任	3 名
室員	27 名(内 1 名　非常勤)
事務員	2 名

3　業務内容

(1) 手術センター業務・心臓血管外科の人工心肺業務

(2) 心臓カテーテル業務

(3) 不整脈業務

(4) 血液浄化透析センター業務

(5) 集中治療・人工呼吸器管理業務

(6) 医療機器管理室業務

4　2021 年度 活動実績・取り組み

・ 内視鏡センターの機器管理対応開始

・ 経腸栄養の誤接続防止コネクターの導入

・ 生体情報管理システムの導入（生体情報の自動記録を行えるシステムを導入した）

・ インペラ（IMPELLA）補助循環用ポンプカテーテルの導入

・ MRI 対応生体情報モニターと MRI 対応シリンジ・輸液ポンプの導入

・ オリンピックのための医療機器貸出の協力

＜実績＞

(1) 手術センター業務務・心臓血管外科の人工心肺業務

術中誘発電位検査	913 件
人工心肺件数	190 件
ロボット支援手術業務	294 件

(2) 心臓カテーテル

心臓カテーテル検査	617 件
心臓カテーテル治療	386 件

(3) 不整脈業務

不整脈治療	293 件
ペースメーカー, ICD 等（新規・交換）	164 件
遠隔モニタ確認患者数	5788 件

(4) 血液浄化透析センター業務

血液透析件数	4836 件

(5) 集中治療・人工呼吸器管理業

人工呼吸器点検台数	978 台
PCPS（ECMO 含む）	7 件

(6) 医療機器管理室業務
医療機器点検件数 33859 件

放射線技術室

1　概要（組織目的）

放射線技術室は、画像検査および放射線治療業務の適切な管理、運営、環境整備等を行い、患者等に質の高い医療サービスを提供する。また、大学病院の経営効率化および医療安全の確保に資することを目的とする。

2　スタッフ構成

室長　　田原 祥子
室長補佐　布川 嘉信
課長　岡部 幸司、中村 祐二朗、山崎 彰久
主任　古崎 昌宏、根本 道子、南島 一也
　　本松 沙理、大出 健一、清水 正三
その他　副主任　9 名／スタッフ　73 名
計　93 名

3　業務内容

(1) 安全・安心を担保し、精度の高い画像検査・放射線治療技術の提供
(2) 法令に基づく放射線診療における医療被ばくの線量評価と適正化の実施
(3) 法令に基づく医療用放射線関連機器の安全な取り扱いと保守管理
(4) 診療ニーズを考慮した画像検査・放射線治療の実践と病院経営への貢献
(5) 各部門・部署との連携を通じたチーム医療の推進および質の高い患者サービスの提供
(6) 日々進歩する先進的な高度医療技術の実践に必要な業務
(7) 専門性を有する人材の育成
(8) 大学病院の使命としての臨地実習生教育ならびに学会・研究活動
(9) 他施設に対する専門性を活かした情報発信と教育指導・社会貢献
(10) その他、診療目的の達成に必要な業務

4　2021 年度活動実績・取り組み

■ 新型コロナウイルス感染症からの復興

感染症対策を徹底し、コロナ前の 2019 年度実績を目標に、予防医療センターも含め、高額医療機器の有効活用を計画、実践した。PET 検査は、他施設からの健診を受託し収益改善に貢献した。

一般撮影部門では、スタッフエリアならびに撮影室に自動扉を導入し、安全・感染対策、プライバシー保護を目的とした患者動線を確立した。

■医療放射線管理活動

全 X 線撮影室に FPD の導入が完了し、撮影条件を最適化して大幅な被ばく軽減が実現した。一般造影、血管造影センター、内視鏡センターにおける患者、術者の被ばく軽減を診療科と共に検査条件の最適化を検討し、改善に結びついた。

■ CT・MRI における業務改善

CPM(Clinical Performance Management)を利用してデータ分析より、効率的な検査予約枠の修正や付帯業務の標準化を進めた。

■ 放射線部門のペーパーレス化

AI ホスピタルプロジェクトにおいて教職員健診の依頼票等のペーパーレス化を実現した。次年度の一般撮影部門の完全ペーパーレス化に向けて関連部門と準備を進めている。

＜検査実績＞

単純撮影	158,884 件
一般造影	7,693 件
骨密度	6,346 件
乳腺	4,127 件
超音波	32,313 件
MRI	30,041 件
CT	59,506 件
血管造影	3,388 件
PET	6,197 件

SPECT	4,371 件
放射線治療	16,504 件

臨床検査技術室

1　概要（組織目的）

臨床検査技術室は臨床検査科、輸血・細胞療法センター、病理診断科、産科（胚培養士が関わる業務）、また、感染制御部および医療安全管理部に臨床検査技師、胚培養士等を配属し、円滑な業務を遂行する。

2　スタッフ構成

室長　横田 浩充
課長　荒井 智子
課長　大野 明美
課長　深町 茂
主任　山方 純子
主任　野口 昌代
主任　羽鳥 泰子
主任　谷田部 陽子
主任　猪瀬 里夏
主任　田邊 晃子
主任　五十嵐 靖浩
主任　吉田 由紀子
主任　宇津野 宏樹
他　臨床検査技師および技術員 156 名

3　業務内容

(1) 臨床検査および輸血製剤・細胞療法等にかかわる業務の確実かつ安全な実施
(2) 診療ニーズを考慮した臨床検査業務の実践と病院経営への貢献
(3) 各部門・部署との連携を通じたチーム医療の推進および患者サービスの提供
(4) 日々進歩する先進的な医療展開に必要な業務の実施
(5) 専門性を有する人材の育成
(6) 臨地実習生教育と学会・研究活動
(7) 他施設に対する専門性を活かした情報発信と教育指導・社会貢献
(8) その他、診療目的の達成に必要な業務

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) コロナ禍における感染対策を考慮した安全な業務運営の実践

本年も患者の密を回避した外来採血・心電図検査の運営を尽力した。特に午前 8 時～11 時における患者待ち時間の短縮が課題であったため、午前 8 時～10 時の時間帯における採血者を 17 名に増員し、対応した。その後、患者待ちが解消された時間帯の 10 時過ぎには各検査室への要員配置を行った。また、各種会議および研修・教育、カンファランスにおいては Web を活用し、職員の密の回避に努めた。以上、つぶさな業務管理を行い、患者および職員の安全を確保し、合理的な業務運営を行った。また、臨床検査科および輸血・細胞療法センターは 24 時間の業務対応を継続した。

(2) 他部門との連携

看護部や事務部門,感染制御部と協働し、感染対策、迅速なコロナ PCR 検査の運用を継続した。接触者対応における突発の検体採取にも対応し臨床検査技師を派遣した。また、コロナ変異株解析にも対応し、病床のベッドコントロールを支援した。新規事業（予防医療センターの移転準備）については、課長・主任・副主任を動員して計画立案を行った。本事業に対応できる要員の採用と業務研修が課題となっている。輸血・細胞療法センターについては、（輸血製剤関連）では安全な輸血医療を提供し適正使用に貢献することができた。また、輸血適正使用加算を取得することができた。（細胞療法）では再生医療等製品と臨床試験に用いる特定細胞加工物を一括管理して、各診療科や臨床研究推進センターと連携してキムリア（CD19-CAR-T 製剤）等の細胞療法を推進した。病理診断科については、病理部門システム更新もあり、件数の増加にも対応した人員配置によって、医療サービス向上に尽力した。産科（胚培養）においては不

妊治療への保険適用が 2022 年度に開始されることを受け、円滑な導入に向けて準備を進めた。

さらに中断していた着床前遺伝子検査の再開にあたり技術的な側面から貢献した。

（3）質を確保した臨床検査の提供

ISO15189 の要求事項に基づき、技術室全体の品質管理システムに沿った組織運営を行った。具体的には品質管理者の育成、ならびに毎月の教育カンファランスを実施した。また、2021 年 12 月には ISO サーベイランスを受審し、是正箇所の対応を行い、更新を完了した。

（4）職務品質の向上と職員の育成プログラムを策定、実践

臨床検査技術室全体を通じて、次の課長候補の育成,室長候補の育成を課題としている。職員の管理能力の向上を図ることを目標とした育成プログラムを実践した。具体的には 2021 年 4 月以降、毎月の主任連絡会を通じて横断的な職務の理解を図り「臨床検査技術室における部署の課題」をテーマに、今後の方向性を確認,討議した。

（5）検査実績

検体検査	院内検査	8,605,610 件
	微生物検査	143,842 件
	外部委託検査	222.718 件
生理機能検査	心機能	66,268 件
	小児心機能	5,581 件
	肺機能	15,030 件
	神経機能	6,848 件
	血管	3,788 件
病理検査	組織診断	23,404 件
	細胞診	22,820 件
輸血検査		73,857 件
外来患者採血者数		264,478 件
不妊治療外来業務	採卵	410 件
	融解胚移植	365 件
	人工授精	379 件

＜臨床研究・教育部門＞

臨床研究推進センター

1　概要（組織目的）

臨床研究推進センターの社会的使命（Mission）は「社会のニーズに応じた最適な医療が提供できるよう、より優れた医療技術を常に探求し、人類の健康増進に寄与する」であり、それを実現するための体制（Vision）を「専門的技能を磨き続ける構成員が一体となって、新たな医療技術を創出するために理想的な拠点を形成する」としている。

2　スタッフ構成（2022 年 3 月時点）

センター長　　長谷川　奉延
副センター長　許斐　健二
ネットワーク支援部門　1 名
トランスレーショナルリサーチ部門　16 名
再生医療等支援部門　11 名
臨床研究支援部門　14 名
生物統計部門　5 名
臨床研究実施部門　17 名
バイオバンキング支援部門　5 名
臨床研究企画推進部門　5 名
教育研修部門　4 名
広報部門　1 名
センター長付　5 名
※　人事上の所属が臨床研究推進センター以外のセンター員、および派遣職員は除く。

3　業務内容

(1) 医薬品・医療機器・診断薬・再生医療など、様々な分野の研究開発をサポートする。
(2) アカデミア・企業を問わず、基礎・非臨床・研究のどのステージも受け入れる。
(3) 最適な知財戦略、産学官連携、非臨床試験および臨床試験計画のデザイン、規制当局対応などの支援パッケージを提案、基礎研究の成果を戦略的に臨床試験まで橋渡しする。
(4) 早期・探索段階も含む ICH-JCP 対応の医師主導治験および企業試験の実施を支援する。
(5) 早い段階で積極的に企業へ導出し 1 日も早い実用化を目指す。

4　2021 年度活動実績・取り組み

■ 橋渡し研究支援

2021 年 12 月、慶應義塾は、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等としての実用化を目指す橋渡し研究を支援する「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣から認定を受けた。臨床応用を目指すアカデミア発の医療シーズ（医薬品・医療機器・再生医療等製品・体外診断用医薬品）に対して臨床研究推進センター（慶應義塾拠点）が研究開発の支援を行っている。

研究シーズ段階毎のシーズ開発支援状況
（2022 年 3 月 31 日時点）

シーズ A：関連特許出願を目指す基礎研究課題　76 件
シーズ B：非臨床 POC（概念実証：Proof of Concept）取得および治験届出を目指す課題　67 件
シーズ C：治験又は高度医療等を実施し、臨床 POC を目指す課題　22 件
シーズ H：医学・歯学・薬学系以外の異分野領域からの医療応用に向けた研究開発課題　26 件
橋渡し研究支援による主要な研究領域
　がん　65 件
　免疫　22 件
　再生医療　21 件

■ 治験・臨床研究

(1) 治験審査委員会で承認された新規治験契約件数　49 件
　うち、医師主導治験件数　7 件
(2) 医学部・病院で許可した新規研究課題件数　396 件
　うち、臨床研究（特定・非特定）　19 件
　再生医療等提供計画　1 件
　倫理指針研究　348 件

その他(医療計画、疫学研究 他)　28 件

当センターでは、基礎研究から臨床研究・治験、さらに実用化まで各研究開発プロセスを一貫して支援する体制により、日本発の革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術の開発につながるよう、上記の主要な研究領域を含め幅広く研究課題の支援を実施している。

■ 首都圏 AR コンソーシアム（MARC）

慶應義塾大学（臨床研究推進センターが主体）は MARC 代表機関として、首都圏に集積するアカデミアの優れた研究成果をもとに革新的な医療技術や医薬品等を効率的かつ持続的に創出する研究体制の構築や、教育、多施設臨床研究や異分野研究の発掘・支援を行うため、「体制整備」「シーズ発掘」「教育・人材交流」「臨床研究」「領域融合」の 5 つのワーキンググループを中心に MARC 加盟 25 機関（2021 年度末時点）と共に連携・相互支援体制を構築しながら活動を継続している。

臨床研究監理センター

1　概要（組織目的）

臨床研究監理センターは、当院の理念および臨床研究実施方針に基づく、臨床研究・治験の適正な実施を確保するため、病院長の責務として適用規制（法令および倫理指針等）に規定された業務の実施を補佐することを目的として、2019 年 8 月設置された。

2　スタッフ構成

センター長　1 名

長谷川 奉延（～2021 年 9 月）

福永 興壱（2021 年 10 月～）

副センター長　　1 名

神山 圭介

研究基盤部門員　3 名（専従）

ライセンス教育部門員　2 名（兼務）

事務局（病院学術研究支援課）　1 名

3　業務内容

(1) 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施

(2) 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施

(3) 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応

(4) 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務

(5) その他、病院長の指示する業務

4　活動実績・取り組み

(1) 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施

6 月、全教職員向け E-ラーニングとして「臨床研究・治験と安全管理」を制作し公開、年度末までに全員受講完了を達成した。

2021 年 4 月 27 日新統合指針セミナーを実施、352 名が参加した。また 6 月と 12 月、臨床研究推進センターと共同で開催した臨床研究講習会において、「臨床研究倫理-実践編」として、計 106 名（6/5 臨床研究講習会（2021 年度春期）参加者 78 名（うち外部 9 名）、12/4 臨床研究講習会（2021 年度冬期）参加者 28 名（うち外部 14 名））を対象に教育研修を実施した。

(2) 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施

当院内外の研究者より委託を受け実施する個別試験監査 5 試験、その他の信頼性保証関連業務 10 試験を行った。

また臨床研究中核病院として、臨床研究・治験の基盤的機能を担う部門を対象とするシステム監査を、3 部門（臨床研究推進センター臨床研究支援部門企画運営ユニット（PMO）、信濃町キャンパス学術研究支援課、臨床研究推進センター臨床研究事務部門（2021 年 7 月～病院学術研究支援課））を対象に実施した。

通年実施した「法・倫理指針適合性監査」によ

り、計 36 課題を対象に適用規制への適合状況に関する調査を行い、認められた所見（計 51 件）について、CAPA 対応（是正措置、再発予防措置）に関するフォローアップを行った。

(3) 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応

倫理指針（人医学系指針、ゲノム指針）、臨床研究法、再生医療等安全性確保法に基づく各種臨床系研究において認められた重篤有害事象（SAE）・疾病等報告 231 件について評価を行い、病院長による対応を支援した。

(4) 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務

各種臨床系研究において提出された定期報告 1445 件、終了・中止報告 313 件、中断・再開報告 10 件、逸脱・不適合報告 121 件について評価を行った。また、臨床研究（特定・非特定）の実施許可申請325 件（新規 22 件、変更 303 件）に関して病院長による対応を支援した。

(5) その他、病院長の指示する業務

「臨床研究ライセンス制度」の運用を担当し、慶應義塾大学医学部の方針、及び慶應義塾大学病院の理念ならびに臨床研究実施方針に沿った臨床研究の積極的推進のため、延べ 3710 名（2022 年 3 月時点）の医学部・病院教職員の研修および資格認証（SP ライセンス 64 名、S ライセンス 235 名、A ライセンス 682 名、B ライセンス 2729 名）を担当した。

また医学部・病院臨床研究委員会（CMoC）の事務局を担当し、運営会議（月次：年 12 回）および全体会議（年 2 回：6 月、2 月）の開催、「CMoC ニュースレター」（月 1 回および臨時）の配信を通じて、各種臨床系研究の研究対象者保護、科学的妥当性と信頼性の確保、及び法令・諸規則の遵守に関する研究者等の適正な資質の涵養、医学部の方針ならびに病院の理念及び臨床研究実施方針に沿った臨床研究の積極的な実施を図った。

「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」第 2-4(6)の規定に基づく、外部の有識者による定期的な実地調査（ゲノム実地調査）を、2021 年 6 月 11 日に 191 課題を対象として実施した。インフォームド・コンセントの手続の実施状況および個人情報の保護の状況等について、研究計画書に従って適正に実施されているか確認を受け、全体として実施状況は適切であり、従来課題とされた点についても経時的に改善が認められる旨の意見を受けた。

卒後臨床研修センター

1. 概要（組織目的）

卒後臨床研修センターは、慶應義塾大学病院卒後臨床研修制度（研修医課程）に関する内規に基づく臨床研修体制を整備・管理し、臨床研修に関連する業務を円滑に遂行することを目的とする。

2. スタッフ構成

センター長　平形 道人
副センター長 内田 浩
副センター長 本間 康一郎
副センター長 荒井 隆秀
センター員　10 名
課長河越 太郎
主任北村 悦子
事務員　　4 名

3. 業務内容

(1) 各関係機関との調整により研修プログラムを企画・立案すること
(2) 研修医を募集・選考すること
(3) 研修医の在籍状況を管理すること
(4) 慶應義塾大学病院初期臨床研修管理委員会（以下「研修管理委員会」という。）と協力の上で，臨床研修が滞りなく実施されるよう研修実務全般に関わる調整を行うこと
(5) 研修指導医を養成すること

(6) 各研修施設における研修内容を評価すること
(7) 病院長の指示に基づいて，研修業務の運営のために必要な事項を企画・立案すること
(8) その他研修業務を円滑に実施するために必要な事項について検討し実施すること

4.　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 次年度研修プログラムを企画・立案、東京都へ年次報告、プログラム変更届を提出
(2) リクルート活動として各コースのプログラム説明会を 2 回開催、医科研修医採用試験を 2 回実施
第 1 回試験　2021 年 7 月 24 日
第 2 回試験　2021 年 9 月 11 日
(3) 研修医の出退勤・検温状況を各システムにより管理
(4) 会議体の開催
ア．研修管理委員会をメール審議含め 4 回　開催、研修医の修了認定、中断・休止、採用等を審議
イ．卒後臨床研修センター会議を 10 回開催、主な議題は、研修プログラム・入職者オリエン・研修診療科ローテーション・指導医ワークショップ運営・リクルートに関する行事企画・採用・医療安全・感染対策・研修医の労務管理に関する事項等
(5) 臨床研修協議会主催のプログラム責任者養成講習会へセンター員 1 名を派遣
(6) 病院長の指示に基づき、厚生労働省令の 2022 年度から研修を開始する基礎研究医プログラムについて、基幹型臨床研修病院である大学病院として届出申請。定員 2 名が承認され、2021 年度に募集開始となった

新型コロナウイルス感染拡大の中、研修を安全・円滑に実施するために、研修開始前スタンダードプリコーション試験合格を必須とし、合格後に研修開始の方針は 2021 年度も継続

＜管　理　部　門　＞

医療安全管理部

1　概要（組織目的）

医療安全管理部は「質の高い医療の提供」を目指し、組織横断的に院内各部署・各職種と連携して医療に係る安全の向上に取り組み、支援していくことを目的とする。

2　スタッフ構成

部長　志水 秀行
副部長（専従医師）　藤澤 大介
副部長　浜本 康夫、長田 大雅
次長　市川 二葉
課長　梅田 光代
主任　松前 拓己
医師　　２名
薬剤師　２名
看護師　１名
事務員　４名
派遣　　１名

3　業務内容

(1) 医療安全管理体制の構築
(2) 医療安全に関する職員への教育・研修
(3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
(4) 院内ラウンドを行い現場環境、医療安全管理マニュアルの遵守状況及び策定した改善対策の実施状況の確認及び指導
(5) 医療事故発生時の対応

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 医療安全管理委員会（年間 １２回）
(2) セーフティマネージャー会議（年間６回）
(3) インフォームドコンセント委員会（年間４回）
(4) 薬剤に関する医療安全検討委員会(年間１０回)
(5) 特定機能病院監査委員会（年間２回）
(6) 医療安全相互ラウンド
(7)医療安全講習会（e-learning）（年間３回）
(8)必須研修の実施（e-learning）（年間３回）
(9)院内医療安全ラウンド
(10)医療安全に関するマニュアルの改訂
(11)インシデント・アクシデント報告の対策立案
(12)医療法に基づく医療事故調査委員会
(13)臨床倫理委員会
(14)虐待防止委員会
(15)教職員ポケットハンドブックの作成
(16)画像等未読防止対策
(17)未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会
(18)各種委員会傘下のワーキンググループ活動

☆インシデント・アクシデント報告件数
2021 年度報告件数　5396 件
＜内訳＞
看護系職員　3559 件
医師　　1065 件
（研修医　　215 件）
その他職員　557 件

感染制御部

1　概要（組織目的）

感染制御部は、病院感染対策の整備・充実をはじめ広く医学部・大学病院の危機管理に貢献するとともに、感染症に関わる診療・研究・教育体制を推進する事を目的とする。

2　スタッフ構成

部長	長谷川 直樹	
副部長	医師	４名
スタッフ	医師	６名
	看護師	３名
	薬剤師	１名
	臨床検査技師	１名

事務課長　　1 名
事務員　　3 名

3　業務内容

(1) 感染制御部内規に基づく業務
(2) 感染症外来における診療
感染症（NTM、HIV など）診療ワクチン外来、渡航外来

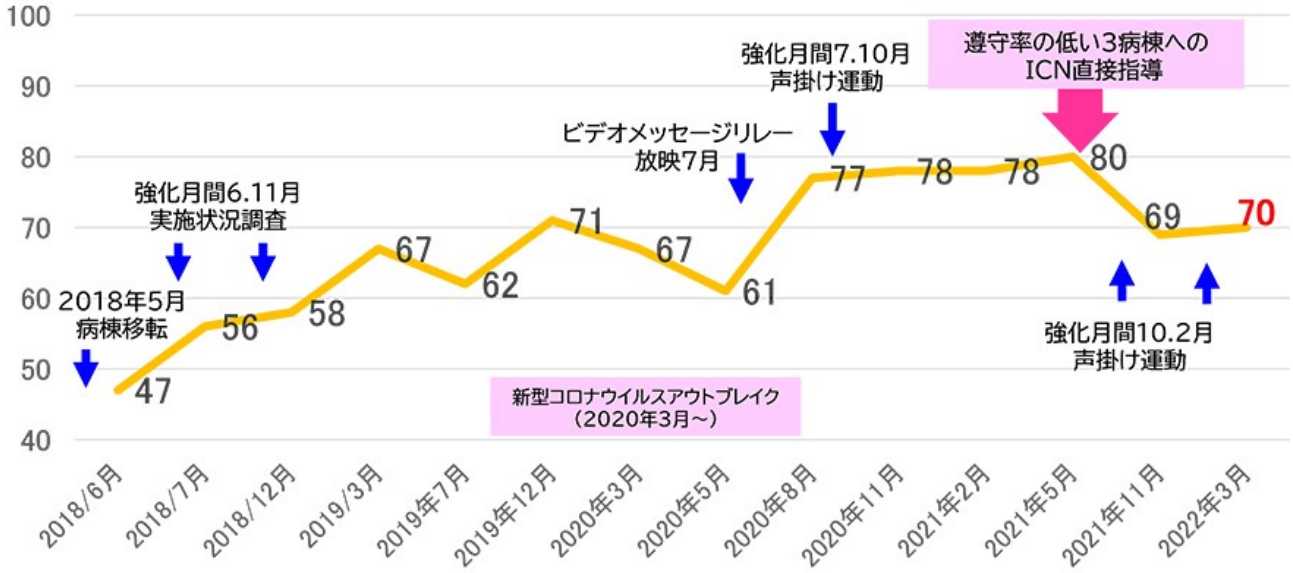
4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 必須研修-1
感染制御について知ってほしいこと、守ってほしいこと
(2) 第 1 回感染対策講習会
患者も自分も守れる「スタンダードプリコーション制度」ってなに？
(3) 第 2 回感染対策講習会
機能評価直前！！
「環境整備」と「みんなで考える抗菌薬の適正使用」を学ぼう
(4) サーベイランス
薬剤耐性菌、血液培養陽性検出菌、医療器関連感染、抗酸菌、アスペルギルス、血液曝露、手指衛生遵守率（図 1 ）、手術部位感染、その他の感染症
(5) ラウンド
下記資料（表 1）
(6) 他施設連携
・ 加算 2 施設との年 4 回のカンファレンス
・ 聖マリアンナ医科大学病院 相互ラウンド
(7) 新型コロナウイルス感染症対策

表 1　ラウンドの種類と実績

ラウンド名	ラウンド参加者	ラウンド実績
ICT/AST ラウンド（診療コンサルテーション・抗菌薬・血液培養陽性・薬剤耐性菌）	ICD・ICN・薬剤師・臨床検査技師	診療人数 ICT： 1821 人 274 回 AST： 1824 人 249 回
施設環境ラウンド	ICD・ICN・薬剤師・事務員・ハウスキーパー	毎週木曜日 年 36 回 62 部署
発生ラウンド	ICD・ICN・薬剤師・臨床検査技師	適宜
医療器具関連感染ラウンド	ICN・他	部署 週 1～月 1
感染予防策関連ラウンド	ICN・他	年 3 回
ターゲットラウンド	ICD・ICN・臨床検査技師・他	年 3 回 ディスペンサー/鋭利なものの廃棄
	管理職・感染専門委員	通年 密ラウンド
網羅的ラウンド	ICD・ICN・薬剤師・臨床検査技師・他	8 クール

図 1 手指衛生遵守率調査結果



病院情報システム部

1　概要（組織目的）

病院情報システム部は、電子カルテを中心に診療に必要な様々なシステムを提供し、大学病院としての高度な医療・運営を支援することを目的とする。

2　スタッフ構成

部　長　陣崎　雅弘
課　長　山本　幸二
主　任　西沢　敏之
事務員　4 名

3　業務内容

(1) 医療情報システムの構築・設計に関すること
(2) 医療情報システムの稼動、運用に関すること
(3) 大学病院内の部門システムの運用支援に関すること
(4) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関すること。

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) システムのリプレース
　ア　自動再来受付システム
　イ　内視鏡システム　など
(2) ネットワーク環境の整備
(3) 会議室環境整備の推進
　covid-19 による Web 会議の増加に対応するため、会議室の AV 環境整備を推進
(4) 患者さん向けサービスの充実
　ア　LINE を用いた患者さん向けサービスの拡充
　イ　デジタルサイネージを用いた情報提供基盤の拡大推進

患者総合相談部

1　概要（組織目的）

患者総合相談部は、当院の理念に則した、患者さんとの信頼関係の維持向上と安心で安全な医療の提供を組織横断的に推進するために、患者またはその家族からの相談を受け、対応すべき専門部署との連携を図り、患者等を支援する体制の充実に務める。

2　スタッフ構成

部　長　　福永　興壱
部　員　　貴志　和希
部　員　　藤澤　大介

部　員　　佐渡　充洋
部　員　　吉村　公雄
課　長　　岩田　光晴　月岡　澄子
主　任　　津田　いづみ
ソーシャルワーカー1 名 看護師 2 名 事務員 3 名

3　業務内容

(1) 相談業務
ア 対面相談　イ 電話相談　ウ web 相談
エ 投書（用紙・web）
(2) 相談の 1 次対応並びに必要に応じた 2 次対応に関する支援部門との連携・協働
(3) 相談ならびに対応記録作成
(4) 患者の声または患者視点での病院改善に向けた取組
ア カンファレンス（週 1 回）
イ 患者サポート運営委員会（月初 1 回）
ウ 支援部門と連携・協働した改善行動
エ 患者やその家族への情報周知（おたより・病院 HP.・調査結果等・デジタルサイネージ）
(5) 調査・統計
ア 相談記録統計　イ 患者調査・統計

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 活動実績

患者相談件数	合計	7,156 件
内訳	相談	2,402 件
	問い合わせ	2,774 件
	苦情	917 件
	意見	388 件
	要望	330 件
	感謝・礼状	134 件
	その他	211 件
対応方法	窓口	1,020 件
	電話	4,059 件
	投書	806 件
	Web 投書	244 件
	Web 相談	904 件
	治験コールセンター	73 件
	その他	50 件

(2) 取り組み
ア　新型コロナウィルス専用ダイヤル継続（4 月）
イ　おたより発行（6 月・9 月・2 月）
ウ　患者調査実施
入院患者（10 月 5 日～25 日）
外来患者（10 月 5 日～25 日）
エ　職員意識調査（10 月 4 日～25 日）
オ　患者の声からの改善取組　12 件
※支援部門と協働して取り組んだ事案
カ　サポートが必要な患者さん対応
・患者さん対応（2020 年 9 月開始～継続中）
・対応ミニ講習会の開催（6 月 28 日～10 月 21 日、16 回開催、101 人参加）
キ　笑顔で声掛け運動の実施
・前期：5 月 10 日～7 月 2 日
・後期：11 月 8 日～12 月 29 日
ク　患者さん目線で見回り隊の実施
・（12 月 9 日）（1 月 14 日）（2 月 25 日）

医療連携推進部

1　概要（組織目的）

医療連携推進部は、地域医療機関との良好な関係を維持し、効果的な連携を図ることで、新規外来患者の紹介数の増加、入院患者数の増加を図ると共に、病床の効率的かつ効果的運用により全体最適化を図ることで当院の経営に貢献する。

2　スタッフ構成

部長	大家 基嗣
副部長	加藤 恵里子
次長	片岡 美樹
課長（師長兼務）	田村 雅子
主任（看護師）	大倉 美紀
	齋藤 八重子
	遊佐 由美

（社会福祉士）　林 聖純
副主任（看護師）　野崎 祥子
スタッフ職員
看護師　15 名
社会福祉士　6 名
管理栄養士　1 名
事務員　16 名
（うち嘱託 7 名　派遣 2 名）

3　業務内容

■ 医療連携室

(1) 医療機関との関係強化，協定に係る業務
(2) 医療機関からの患者の円滑な受け入れ（前方連携）体制の構築
(3) 医療機関からの新規外来患者紹介の増加
(4) 上記項目(1)(2)の業務を円滑に運用するために必要となる診療科等との調整，支援、ならびに事務管理
(5) 医療連携を目的としたセミナー等の企画・運営ならびに支援
(6) がん相談支援センターの運営及び医療相談

■ 入退院管理室

(1) 病床の一元的管理による患者の円滑な入退院と効率的な病床運用の実現
(2) 患者の入院から退院までの一連の業務の全体最適化
(3) 上記各号の業務を円滑に実施するための病棟や関連部署との調整
(4) 転退院等に関する相談、ならびに調整（後方連携）

4　2021 年度活動実績・取り組み

本年度は、コロナ禍の影響により活動方法を見直し、医療連携活動及び入退院管理について新たな運用を行うことになった。

■ 医療連携活動

2021 年度は地域の医療看護介護機関を招いて WEB 医療連携推進フォーラムを 2021 年 4 月 30 日、2022 年 1 月 28 日に計 2 回、看護と介護の意見交換会を 2021 年 10 月 15 日に開催した。地域医療機関との連携強化に向けて、季節のご挨拶や病院広報誌の送付を実施した。医療連携協定契約数は 891 施設(2020 年度)から 1,131 施設(2021 年度)へ計 240 施設増加した。また、オンラインでのセカンドオピニオン相談を開始した。

がん相談支援センターでは電話相談 2,137 件、対面相談 4,099 件を行い、患者サロンを 2 回開催した。またがん相談を含めた医療相談の相談患者延べ数は 10,682 人であった。

■ 病床管理活動

昨年度に引き続き COVID-19 感染症患者への対応として、東京都及び保健所、近隣医療機関との窓口となり、外部からの要請応需のため、24 時間対応した。通常診療体制を保持するために高度急性期医療の提供が必要な患者の入院病床確保に努めた。結果年間の病床稼働率は 82.2%まで復調した。

■ 転退院支援

年間を通し、新型コロナウィルス感染症の感染波ごとに退院先を調整することが困難な状況が生じていた。また、院内の面会制限なども引き続いている状況下において、療養調整を速やかに行うため、医師・病棟看護師と協働しながら、患者・家族や地域各関係機関と積極的に WEB カンファレンスの開催などに努めてきた。また、看護専門領域看護師は、専門性を活かして入院前から退院後の外来、地域関連機関との密な連携を行い、切れ目のない支援を行う医療チームとしても横断的に活動を行った。新たな入院前支援としてアレルギー患者への問診表を作成し、運用を開始した。

＜活動実績データ＞　＊括弧内は前年度比

入院前情報収集実施件数	11,326 件	(-1498 件)
転退院支援件数	2,213 件	(+365 件)
入退院支援加算 2	1,840 件	(+623 件)
退院時共同指導料 2	64 件	(＋25 件)
介護連携等指導料	28 件	(＋17 件)

＜患者転帰＞

自宅退院　　98.4%

放射線安全管理室

1　概要（組織目的）

放射性同位元素（RI）や放射線による事故の防止および安全文化の熟成のため、第三者の立場から、放射線業務従事者等に対する安全教育や各種法令の遵守状況の確認、個人ならびに RI 使用施設等の放射線防護上の安全確認や環境の放射線防護等を行い、公共の安全を確保することを目的としている。

また、当室が独立的存在で病院全域の放射線安全に取り組み、院内だけでなく、当院周辺の公共の安全性の確保に取り組んでいる。

2　スタッフ構成

室長　　茂松　直之

スタッフ

室長補佐	1 名
技術員	3 名
臨時職員	1 名

3　業務内容

放射線安全に関する全般的な業務を行う。

(1) 放射線業務従事者の教育訓練
(2) 放射線業務従事者の被ばく管理
(3) 各種委員会の開催
(4) 監督官庁への許認可申請等
(5) 放射線使用施設の作業環境測定
(6) 放射線使用施設(排気排気設備を含む)の維持管理
(7) 放射線の使用に関わる種々の業務等

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 放射線業務従事者の教育訓練
ア　放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく立ち入る前の研修を 4 回開催
イ　放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく立ち入った後の研修を 2 回開催＋web 研修
ウ　NBC 災害対策(放射性物質対策)として、放射線測定器の取扱及び測定実習を 4 回開催

(2) 放射線業務従事者の被ばく管理
ア　放射線業務従事者の登録、中止、再開の対応
イ　個人被ばく線量計の配布、回収、発送
ウ　個人被ばく線量の確認、配布、集計、保管

(3) 各種委員会の開催
ア　病院放射線障害予防委員会を 1 回開催
① 過剰被ばくについて
② 放射性廃棄物の集荷について
③ ^{177}Lu を用いた放射線治療薬について
④ 放射線使用施設の保守について
⑤ 個人被ばく線量計の未交換者に対する対応について
⑥ その他
イ　特定放射性同位元素防護委員会を 1 回開催
① 特定放射性同位元素防護管理者及び防護従事者の変更状況について
② その他

(4) 監督官庁への許認可申請
ア　原子力規制委員会：1 件
イ　東京都：9 件
ウ　労働基準監督署：7 件

(5) 放射線使用施設の作業環境測定
ア　放射線診断科核医学部門：毎月
イ　放射性医薬品製剤部門：毎月
ウ　アフターローディング室：毎月
エ　前立腺癌組織内照射治療室：毎月
オ　リニアック室１・２：６ヶ月毎
カ　診療用Ｘ線装置室：６ヶ月毎
キ　病室、居住区域、事業所境界：毎月

(6) 放射線使用施設(排気排水設備を含む)の維持管理
ア　点検
① 放射線使用施設の点検を 2 回実施
② 放射線モニタリング装置等の点検を 1 回実施
イ　改修工事等

① ＲＩ排水設備ＲＩ貯留槽清掃
② ＲＩ排水設備ＲＩ浄化槽修繕
③ ＲＩ排気設備排気ファンモーターベアリング交換

(7) 放射線測定器の校正
ア　電離箱：1 台
イ　電子ポケット線量計：15 台

(8) 陽電子断層撮影(PET)用放射性薬剤
ア　PET用放射性薬剤に含まれる目的外核種の有無の確認
イ　PET用放射性薬剤の製造に伴う廃液への放射性物質の混入確認

(9) 放射線の使用に関わる種々の業務等
ア　法定帳票の作成、確認、保管
イ　放射線測定器等の保守点検及び校正
ウ　その他

医療保険指導部

1　概要（組織目的）

医療保険指導部は、健康保険法その他の保険医療各法、保険医療機関及び保険医療養担当規則に基づき、保険診療および診療報酬請求業務を円滑かつ適正に実施することにより、大学病院の運営に寄与することを目的とする。

2　スタッフ構成

部　長　石井　誠
副部長　平形　道人
課　長　荒川　和美

3　業務内容

(1) 各診療科の医師・研修医に対する保険診療に関する教育および指導
(2) 社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会や官公庁との連携・調整
(3) 診療報酬明細書の記載・点検および整備に関すること
(4) DPC（診断群分類）のコーディングに関すること
(5) その他、保険診療に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 保険委員会の開催
毎月 1 回（8 月は休会）委員会を開催し、保険診療および保険請求の適正化や診療報酬請求業務の質向上を図る。

(2) DPC コーディング委員会の開催
年 4 回委員会を開催し、診断群分類において標準的な診断および治療方法の周知、適切なコーディングを図る。

医薬品の適正使用促進
医薬品の適正使用を目的に、7 種逓減対策を講じる。

＜病院事務局＞

病院経営企画室

1　概要（組織目的）

経営企画室は、病院がその社会的な使命を果たすとともに、経営の健全性を確保・維持・向上させていくために、大学病院の高度な判断や意思決定を支援することを目的とする。

2　スタッフ構成

課　長　森岡　大智
主　任　雨木　洋
事務員　3 名

3　業務内容

病院内外の情報を戦略的・集中的に管理し、大学病院の経営業務に関連する企画、立案、事業計画、予算、調整に係る業務を行う。

(1) 業務監督ボードに関すること
(2) 病院執行部の判断や意思決定を支援すること
(3) 大学病院の経営に関する企画、立案、事業計画、予算、調整に関すること
(4) 組織編成に係る企画、調整、支援に関すること
(5) 病院長選出手続きに関すること
(6) 立入検査や病院開設許可に関すること
(7) 室料差額等の料金設定に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 病院業務監督ボードの運営

ボード会議を 12 回（毎月 1 回）開催した。主な議題は、以下のとおり。

ア　2020 年度 病院決算報告
イ　次期副病院長・病院長補佐の審査
ウ　東京オリンピック・パラリンピック対応に関する事項
エ　高額医療機器・備品等の購入に関する事項
オ　医療安全に関する事項
カ　信濃町キャンパス構内の工事状況に関する事項
キ　病床の適切な配分と運用に関する事項
ク　2022 年度病院事業計画・予算に関する事項

また、2021 年 5 月の委員任期満了に伴い、メンバー変更および新規委嘱に係る手続きを行った。

(2) 病院長選出手続き

2021 年 5 月 28 日付で発足した塾新執行部の下で病院長適任者選考委員会を設置し、病院長選出手続きを行った（病院長・副病院長 9 月 1 日就任）。

(3) COVID-19 への対応

COVID-19 への対応が予算編成時の想定よりも長期化したことに伴い、修正予算の作成を行った。また、第 5 波以降の度重なる感染拡大に対して、通常診療とコロナ対応の機動的な調整による収支への影響分析を通じて、病院執行部の病院経営上の意思決定を支援した。

(4) 医療法への対応

本年度の医療法第 25 条に基づく立入検査は、COVID-19 の流行状況に鑑み病院への立入は実施せず、書類提出のみとなった。また、2022 年 4 月からの ICU 2 床増床に向けた準備として、病院開設許可に係る行政手続きおよび使用前検査の対応を行った。

(5) 病院機能評価更新受審に向けた支援

2022 年度に控えている病院機能評価（一般病院 3／3rdG:Ver.2.0）更新受審に向け、事務局としてキャリア開発室および医療安全管理部と協働し、各種イベントの計画・実施、関連会議体の運営、改善活動支援等を行った。

(6) 2022 年度病院事業計画・予算の編成

医事統括室

1　概要（組織目的）

医事統括室は、総合案内にはじまり、受付、診療費の請求、会計、診療記録の管理等、患者さんに直接的・間接的に関わる多くの業務を行っている

部門である。円滑な診療を患者さんに提供すると共に、健康保険法その他の保険医療各法、保険医療機関及び保険医療養担当規則に基づき、診療報酬請求業務を円滑かつ適正に実施することにより、大学病院の運営に寄与することを目的とする。また、予防医療センターでは、人間ドックの事務を担い、医療従事者と連携しながら安心・安全で質の高い人間ドックを提供・運営することを目的とする。

2　スタッフ構成

(1) 医事統括室

課　長　　荒川　和美
主　任　　瀧澤　里奈　　滝田　啓　　鴫原　崇
専　任　　12 名
嘱　託　　7 名
派　遣　　30 名
委　託　　297 名

(2) 予防医療センター

課　長　　阿部　淳志
専　任　　2 名
嘱　託　　14 名
派　遣　　10 名

(3) 腫瘍センター

課　長　　荒川　和美
主　任　　柳谷　陽子
嘱　託　　4 名
派　遣　　2 名

3　業務内容

(1) 診療の受付・予約業務に関すること
(2) 外来診察室等の運用に関すること
(3) コールセンターの運営に関すること
(4) 診療報酬等の計算・請求に関すること
(5) 診療報酬等の会計・収納・債権管理に関すること
(6) 診療記録の登録・管理・監査・開示に関すること
(7) 診療情報を用いた統計・分析に関すること
(8) 保険診療の施設基準・先進医療等の届出に関すること
(9) 各種文書・証明書等の発行に関すること
(10) 予防医療センターの運営に関すること
(11) 医師等の当直・オンコール表に関すること
(12) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関すること
(13) その他、医療事務に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) がん初診予約専門のダイヤルイン設置
(2) 初診患者の登録運用変更
(3) 7 種逓減対応システム導入
(4) 自動再来受付機の入替え
(5) LINE 機能拡張
　・外来日前日のリマインドメッセージ及び来院受付可能 QR コード送信
　・外来予約確認機能
(6) エクスプレス会計自動適用と利用範囲の拡大
(7) 未収患者の受診前会計誘導
(8) 令和 4 年度診療報酬改定教職員向け説明会
渡航用 PCR 検査及び陰性証明書発行【予防】

秘書課

1　概要（組織目的）

秘書課は、大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務を行い、院内各組織とのコミュニケーション支援を行うことを目的とする。

2　スタッフ構成

課　長　　秦　英作
事務員　　4 名
事務嘱託　　1 名

3　業務内容

大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務全般を担当し、病院運営会議等の会議の事務局

業務、外部からの各種要請対応、その他特命事項を行う。

(1) 大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務全般に関すること。
(2) 病院長・事務局長当直ならびに当直日誌に関すること。
(3) 病院執行部会議に関すること。
(4) 病院運営会議に関すること。
(5) 外部からの各種要請などの渉外に関すること。

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100 年合同記念式典・シンポジウムの事務局業務

慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100 年合同記念式典・シンポジウムが、新型コロナウイルス感染症流行のため 1 年延期となったが、2021 年 9 月 11 日、三田キャンパス南校舎ホールにて開催された。感染拡大防止への配慮の観点から、会場には関係者のみ集まり、ライブ配信形式での開催となった。式典では、小林弘祐 北里研究所理事長、菅沼安嬉子 連合三田会会長よりお祝いの言葉をいただいた。また、シンポジウムでは、「次の 100 年へ For the Next 100 years」をテーマに、歴代の医学部長・病院長が座長を務め、各分野で最先端の医療を牽引する医師・研究者ら 8 名が講演を行った。秘書課は総務課とともに事務局を担当した。

(2) 学生・教職員等を対象とした新型コロナワクチン職域接種への支援

2021 年 6 月 21 日から 9 月 3 日まで、および 9 月 15 日に三田キャンパスで実施された職域接種にあたり、三四会、関連病院会、紅梅会、KP 会、看護部 OB/OG の多くの皆様に支援をいただきながら、のべ 98,026 名に接種が行われた。秘書課ではこのうち、問診・接種・観察を担当いただいた三四会医師との連絡窓口、支援日程調整を行った。

(3) 信濃町キャンパス担当常任理事、病院長の交代に関する秘書業務

2021 年 5 月 28 日付で、北川雄光病院長が信濃町キャンパス担当の慶應義塾常任理事に就任し、松本守雄副病院長が病院長代行に就任した。2021 年 9 月 1 日には、松本病院長代行が病院長に就任した。役職交代に伴う秘書業務全般を担当した。

(4) 各種会議の事務局業務

病院執行部会議を 23 回、病院運営会議を 11 回開催し、この事務局業務を行った。また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス対策コアミーティングの事務局業務を担当した。1-2 週間に 1 度の頻度で開催された東京都福祉保健局主催の新型コロナウイルス感染症対応に係る情報交換会にも病院長をはじめとする病院執行部、管理職とともに出席し、必要な情報を院内の関連部署と共有した。

総務課

1　概要（組織目的）

総務課は、病院の業務が適正かつ円滑に執り行われることを目的とし、各種事務手続き、文書管理、電話交換などの業務を行う。また、法務・個人情報の担当として病院のリスクマネジメントを行うこと、広報担当として患者さんやそのご家族、社会全般に対して、病院の情報を正しく適切に発信することも目的とする。

2　スタッフ構成

(1) 総務担当

課長　　長妻　靖子
主任　　横田　明子
事務員　　3 名
事務嘱託　3 名

(2) 電話交換担当

技術員　　2 名

3　業務内容

(1) 総務

文書の管理、院内周知文書の印刷配布、病院内での押印手続、郵便や配達物、調査、会議室管理、

公式行事運営、弔事、会議運営、見学、実習、麻薬施用者免許届出

(2) 法務・個人情報関連

(3) 広報

(4) 公益通報窓口

(5) 電話交換業務

(6) 補助金・事業

(7) （一社）慶應医師会の事務支援

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 病院 100 年記念関連

慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100 年合同記念式典・シンポジウムが、新型コロナウイルス感染症流行のため 1 年延期となったが､2021 年 9 月 11 日、三田キャンパス南校舎ホールにて開催された。感染拡大防止への配慮の観点から、会場には関係者のみ集まり、ライブ配信形式での開催となった。式典では、小林弘祐 北里研究所理事長、菅沼安嬉子 連合三田会会長よりお祝いの言葉をいただいた。また、シンポジウムでは､「次の 100 年へ For the Next 100 years」をテーマに、歴代の医学部長・病院長が座長を務め、各分野で最先端の医療を牽引する医師・研究者ら 8 名が講演を行った。総務課は、秘書課とともに事務局を担当した。

また、開院 100 年を記念した「慶應義塾大学病院をアートで彩る」企画を展開し、1 号館 2 階 2 C 前のラウンジに、職員と学生が撮影した写真の展示、2 号館 2 階のカフェ・ド・クリエオープン予定地の横に、病院年表の展示を行った。

(2) COVID-19 対応

ア　病院 Web サイトを部分的に改修し、新型コロナウイルスに関連するお知らせを集約して掲載した。

イ　会議室の収容人数の変更・レイアウトの変更を行った。

ウ　実習や見学において、感染拡大防止を考慮した手続きを整備した。

エ　各省庁からの要請に基づく報告を行った。

(3) 広報

「亜急性期脊髄損傷に対する iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療」の臨床研究に関するプレスリリースなど病院に関する情報発信や記者会見の運営ほか、COVID-19 に関する多数の取材対応を行った。

人事課

1　概要（組織目的）

教職員の採用・任免・異動、出退勤・労務管理、研修、給与支払ならびに福利厚生等の事務を取り扱うことによって、教職員の就労環境を整えるとともに、病院の運営に資することを目的とする。

2　スタッフ構成

課長　　上野　圭祐

主任　　川野　広貴　　宮崎　俊輔

事務員　10 名

3　業務内容

主に以下の事項を分掌する。

(1) 服務および勤務条件に関すること。

(2) 採用に関すること。

(3) 給与・報酬・賃金・旅費・災害補償等に関すること。

(4) 任免に関すること。

(5) 福利厚生に関すること。

(6) 人材育成や研修に関すること。

(7) 安全衛生管理に関すること。

(8) 労務管理に関すること。

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 育児中の女性医師支援のため、助教（復職支援）の申請資格要件を拡充した。

看護師等処遇改善手当の規程を整備し、2022 年 2 月より支給を開始した。

管財課

1　概要（組織目的）

管財課は，病院運営に必要な物品の調達や支払，敷地における施設・設備の整備，およびそれらの管理を行うとともに，防災防犯の体制確保・強化に努めることをもって病院の円滑な運営に資することを目的とする。

2　スタッフ構成

(1) 用度担当

課　長　　鈴木　淳，山木　洸二
主　任　　瀧村　邦浩，菅生　真史
事務員　　13 名

(2) 環境担当

課　長　　前田　宗慎，濱中　義明
主　任　　片平　英一
技術員　　6 名
事務員　　2 名

(3) 防災防犯担当

課　長　　鈴木　淳
主　任　　三澤　容士
事務員　　2 名
嘱　託　　4 名

3　業務内容

(1) 物品調達や検収に関すること。
(2) 財産の管理に関すること。
(3) 工事，委託，賃貸借，物品購入の契約事務に関すること。
(4) 支払に関すること。
(5) 防災・防犯に関すること。
(6) 施設・駐車場の整備・管理に関すること。
(7) 清掃・廃棄物処理に関すること。
(8) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関すること。

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 用度担当

ア　コロナ感染症に関わる対応
　①　機器・備品購入，物品等調達
　②　各種契約手続・宿泊施設確保
　③　寄贈品受入　など
イ　2 号館整備に伴う機器・備品等の購入および移転作業
ウ　経常費・各種外部資金・補助金等による機器備品購入・委託契約等の管理
エ　支出予算管理・決算処理
オ　オリンピック開催期間中における臨時テント設営，救護者用医療機器等の調達
カ　看護師寮ナポリビル賃貸借契約終了に伴い新宿区南元町に建設された 44 室規模の看護師寮アヴニール信濃町との新規賃貸借契約開始

(2) 環境担当

ア　大学病院 1 号館（新病院棟）新築工事に係る計画および工事監理業務を行った。
イ　大学病院 2 号館整備工事に係る計画および工事監理業務を行った。
ウ　予防医療センター移転に係る基本設計策定業務を行った。
エ　そのほか病院施設の営繕業務を行った。

(3) 防災防犯担当

ア　セキュリティ強化
　①　正面玄関の開錠時間を 6 時 45 分から 7 時 45 分に変更し，教職員以外の入館を制限した。
イ　消防計画に基づく対応
　①　自衛消防訓練（消防署届出のもの）を 13 件実施した。
　②　防火防災・防犯管理委員会を 11 回実施した。
ウ　BCP 関連
　①　パンデミックに対する BCP について一部改定し，行動計画の更新・追加を行った。
　②　院内 DMAT 隊員と協働し，CBRNE 災害に対応した多数傷病者受入れ実動訓練を実施した。

エ　オリンピック・パラリンピック開催に伴う対応

①　防犯カメラを増設し，開催期間中に特別警戒を実施した。

多数傷病者発生を想定し，受入態勢を整備した。

経理課

1　概要（組織目的）

経理課は、病院における会計諸取引を正確かつ迅速に処理し、財政に関する各種報告書（事業活動収支計算書、資金収支計算書）を作成し、もって病院の運営に資することを目的とする。

2　スタッフ構成

課　長　　磯田 美穂
主 任　　脇阪 香里
事務員　　5 名

3　業務内容

(1) 経理に関すること
(2) 大学病院の予算総括ならびに決算に関すること
(3) 監査に関すること
(4) 税務申告に関すること
(5) 金銭等の出納に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大や東京オリンピック・パラリンピック開催にともなう各種資金の受け入れ・管理

ア　緊急医療体制支援積立金
イ　慶應義塾大学病院医療支援資金
ウ　慶應義塾大学緊急医療体制支援特別事業
エ　石井緊急医療基金

(2) 新病院棟整備関連資金（信濃町キャンパス整備資金）の受け入れ・管理
(3) 病院予算・決算

監査対応（監事による病院監査、監査法人監査、業務監査室監査）

キャリア開発室

1　概要（組織目的）

キャリア開発室は、メディカルスタッフの専門職キャリア開発活動を支援し、総合力を備えた専門性の高い医療人を育成することを目的とする。なお、職種ごとの専門能力の開発は、各部門の主体的な活動を尊重する。

2　スタッフ構成

室　長　　山澤　美樹
事務員　　2 名

3　業務内容

(1) メディカルスタッフのキャリア支援に関すること
(2) メディカルスタッフの教育・人材育成・研修に関すること
(3) キャンパス系技術員のキャリア支援に関すること
(4) 人事課と共同し、医師働き方改革に関すること
(5) 経営企画室、医療安全管理部と共同し、機能評価事務局に関すること

4　2021 年度活動実績・取り組み

(1) メディカルスタッフを対象に、チーム医療の中で役割発揮できるリーダーを育成することを目的とした現場力向上ワークショップの企画運営を行なった。本年度は第 8 期生 5 名が 2 年間の研修を修了、累計で研修修了生は 11 部門 50 名となった。
(2) コメディカル部門の教育プログラムの開発を支援した。
(3) 慶應 BLS プロバイダーコース事務局として、BLS 受講管理を行なった。昨年度は COVID-19 の影響で約 8 か月間休講となったが、上限人数

や実施方法を見直し、通年で実施できた。さらに、年間の枠数の大幅な増と、救急科医師の協力による一斉講習会開催により、昨年度の未受講者に加え、本来 2020 年度より予定していた医師へも対象を拡大、結果、今年度全職種実施予定者 1,510 名の 97.7%である 1,381 名（前年度比＋1,173 名）が受講できた。

(4) 医師働き方改革事務局として、労務管理担当マネージャー会議の企画運営、夜間休日診療体制検討 WG、タスクシェア/タスクシフティング検討 WG の活動を支援した。

ア 2021 年 2 月の医師の労働時間や休日に関する実態調査に基づき、自己研鑽の定義の検討や、休日・休暇の管理のあり方を共有し各科の実績を月次資料として提示を開始した。

イ 関連部門の取り組みにより、文書作成補助の対象文書拡大、外来メディカルクラークの試行導入、頓用処方の標準化とそれによる病棟配置薬運用、などタスクシフトが促進された。

(5) 次年度の医師業務マニュアルの作成および病棟責任医師の更新を行なった。

2022 年度病院機能評価更新受審に向けて。6 月に病院機能評価受審委員会および各領域ワーキンググループを組織し、本格的活動を開始した。 全教職員を対象としたキックオフ研修やケアプロセス模擬、その他さまざまなイベントを通して、教職員全員の理解促進と課題抽出を繰り返し、多くの質改善活動が展開された。

病院学術研究支援課

1　概要（組織目的）

病院学術研究支援課は、病院が実施する臨床研究や治験、学術研究事業の事務を行うとともに臨床研究推進センター、臨床研究監理センターの事務局として、臨床研究中核病院と橋渡し研究支援機関の事務支援を行うことを目的とする。また、実施医療機関の治験事務局業務、臨床研究に関する各種委員会事務局を担当する。2021 年 7 月に臨床研究推進センター事務部門より組織変更となった。

2　スタッフ構成

課長　田丸 富士夫　別府 紀子　鶴尾 寧

主任　坂西　隆志　水野 好崇　光永 明弘

事務員　23 名

薬剤師　1 名

3　業務内容

（1） 臨床研究推進センター、臨床研究監理センター事務局

（2） 臨床研究中核病院 事務局

（3） 橋渡し研究支援機関　事務局

（4） 病院学術研究事業の業務（AI ホスピタル事業ほか）

（5） 治験事務局（治験審査委員会・医師主導治験審査委員会 事務局含む）

（6） 病院臨床研究利益相反マネジメント委員会事務局、慶應義塾特定認定再生医療等委員会事務局、慶應義塾臨床研究審査委員会事務局、医学部倫理委員会事務局、医学部ヒト胚生命倫理委員会事務局

4　2021 年度活動実績・取り組み

（ア） 臨床研究推進センターおよび臨床研究監理センターで発生する、委受託契約の事務支援を行った。

（イ） 臨床研究中核病院の業務報告書をまとめ、厚生労働省へ提出した。先進医療・患者申出療養の事務局として、厚労省への申請を支援した。

（ウ） 革新的医療技術創出拠点プロジェクトサイトビジットの支援を行った。「橋渡し研究支援機関認定制度」への申請支援を行った。

＊治験・臨床研究の件数については、臨床研究推進センターの項を参照

慶應義塾大学病院　病院年報
2021 年度
発行：慶應義塾大学病院
2023 年 4 月